

(令和3年7月～8月実施)

第48回

市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——



浜松市

目 次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査内容	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	報告書内のデータの記述について	2
6	回答者の属性	3

II 調査結果

1	あなたはご存じですか？	5
2	SDGsの達成に向けて	11
2-1	SDGsの認知度	11
2-2	再生可能エネルギーについて	13
2-3	FSC® 森林認証について	21
2-4	多文化共生について	27
2-5	ユニバーサルデザイン・男女共同参画について	37
2-6	文化振興について	43
2-7	スポーツの推進について	49
2-8	人権について	55
2-9	生物多様性について	65
2-10	消費生活について	69
2-11	防災対策について	77
2-12	デジタル・スマートシティについて	83
3	浜松市戦略計画 2021 について	91

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、本年度で 48 回目※になります。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しています。

※昭和 45 年度 1 回目、48 年度 2 回目、50 年度 3 回目、52 年度 4 回目（以降毎年実施）

2 調査内容

- (1) あなたはご存じですか？
- (2) S D G s の達成に向けて
 - (2-1) S D G s の認知度
 - (2-2) 再生可能エネルギーについて
 - (2-3) F S C 森林認証について
 - (2-4) 多文化共生について
 - (2-5) ユニバーサルデザイン・男女共同参画について
 - (2-6) 文化振興について
 - (2-7) スポーツの推進について
 - (2-8) 人権について
 - (2-9) 生物多様性について
 - (2-10) 消費生活について
 - (2-11) 防災対策について
 - (2-12) デジタル・スマートシティについて
- (3) 浜松市戦略計画 2021 について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 令和 3 年 7 月 15 日～8 月 20 日
- (6) 調査機関 株式会社 東京商工リサーチ

4 回収結果

発送数 3,000 人

有効回収数 1,465 人 (48.8%)

5 報告書内のデータの記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 本調査は標本調査であり、母集団（浜松市内に住む満18歳以上の男女）との間に誤差（標本誤差）がある。標本誤差は、信頼度を95%と設定した場合、下記の計算式で算出できる。信頼度95%とは100回同じ調査を行えば、95回はその誤差の範囲内に収まるということを意味する。一般的に国などの公的機関が行うアンケート調査では95%の信頼度を用いることが多い。

標本誤差の計算式

$$\pm 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{母集団数} - \text{回答者数}}{\text{母集団数} - 1} \times \frac{\text{回答割合}(\%) \times (100 - \text{回答割合}(\%))}{\text{回答者数}}}$$

※母集団数は、住民基本台帳による満18歳以上の浜松市の人口673,004人（令和3年7月1日現在）

回答者数は、図表中に「N」として記載

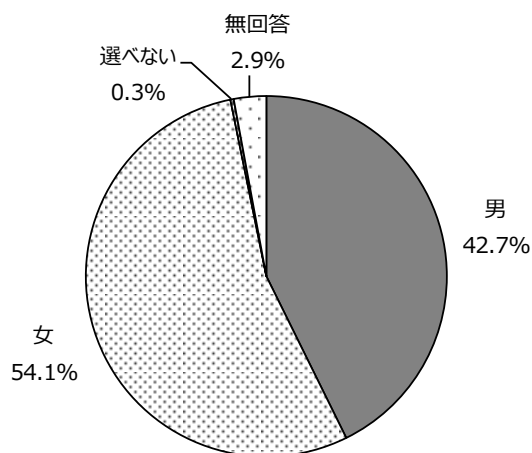
【参考表】各設問の回答数（標本数N）と、それに含まれる標本誤差の関係一覧

回答数 (集計数)	集計値のもつ 誤差の範囲	回答数 (集計数)	集計値のもつ 誤差の範囲
100	9.7%	1,100	2.7%
200	6.8%	1,200	2.5%
300	5.5%	1,300	2.4%
400	4.7%	1,400	2.3%
500	4.2%	1,500	2.2%
600	3.8%	1,600	2.1%
700	3.5%	1,700	2.0%
800	3.2%	1,800	1.9%
900	3.0%	1,900	1.9%
1,000	2.8%	2,000	1.8%

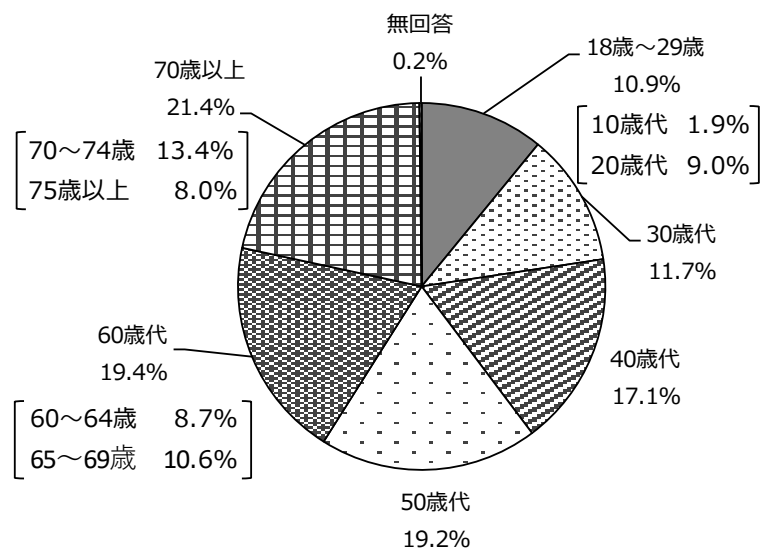
6 回答者の属性

N=1,465

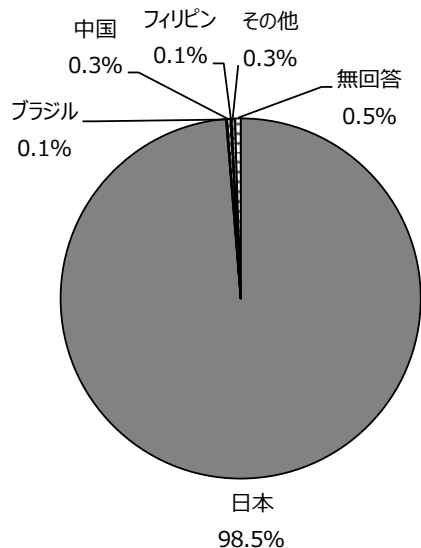
(1) 性別



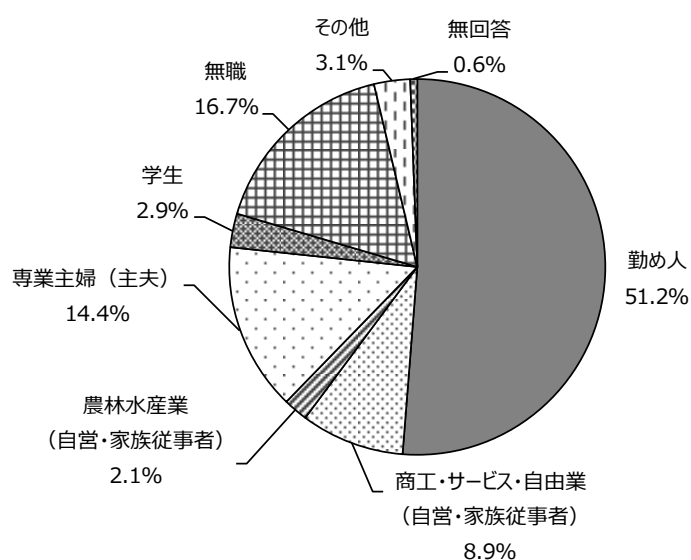
(2) 年代



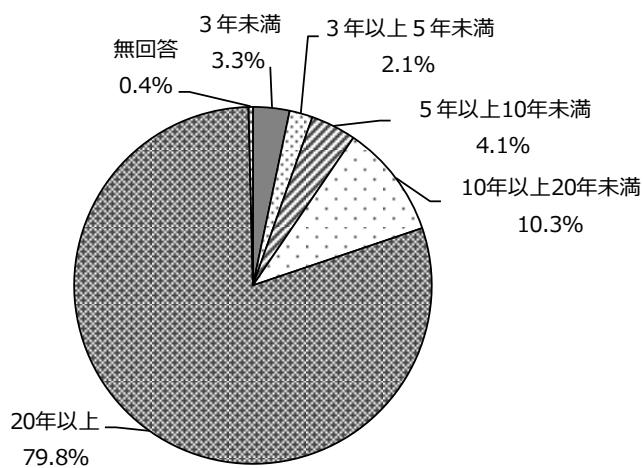
(3) 国籍



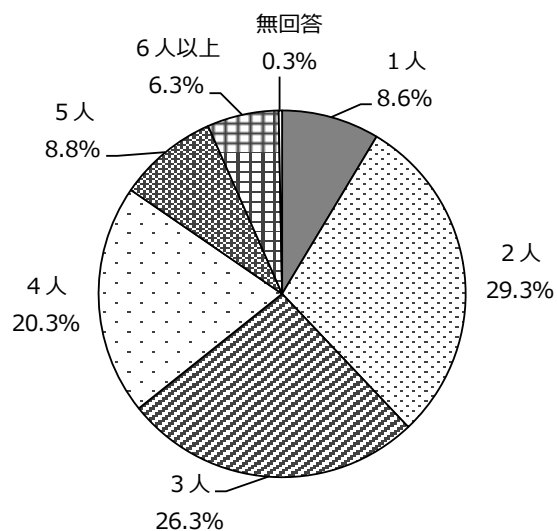
(4) 職業



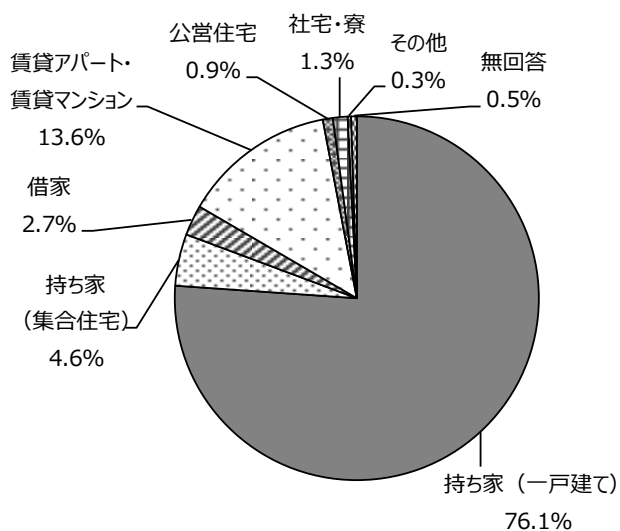
(5) 居住年数



(6) 家族数

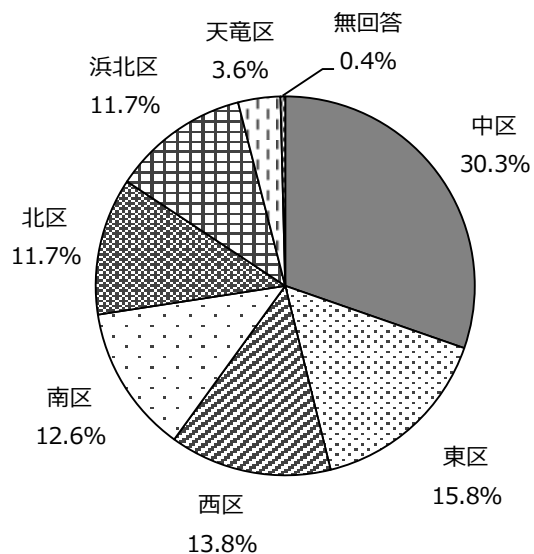


(7) 居住形態

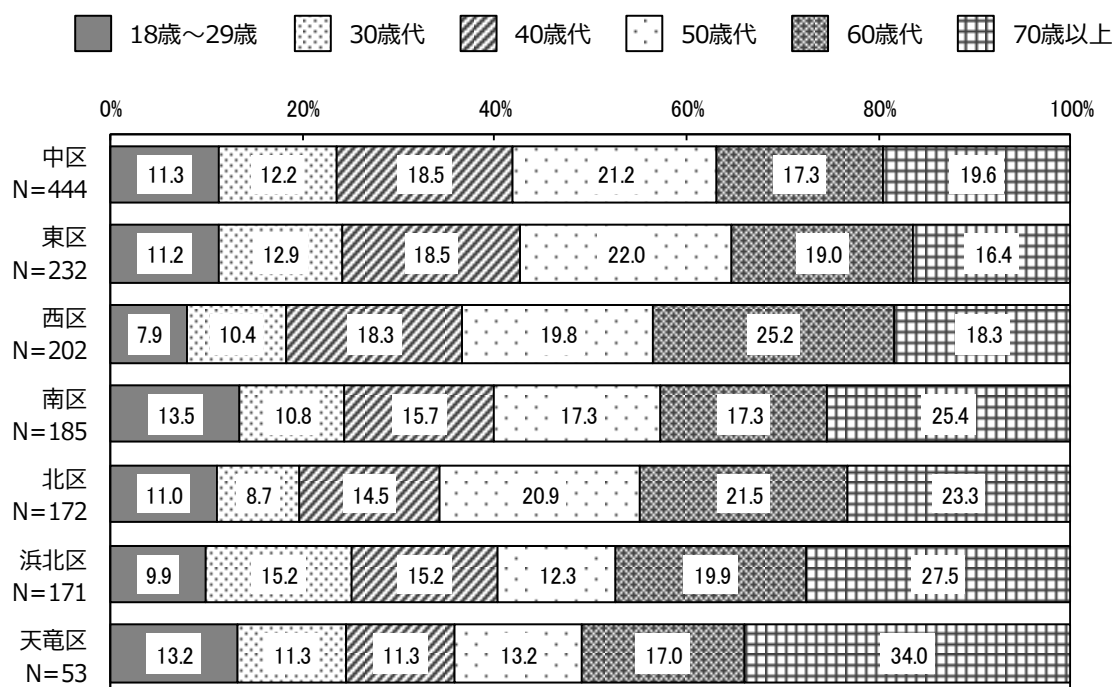


(8) 行政区

N=1,465



(9) 行政区別年代



Ⅱ 調査結果

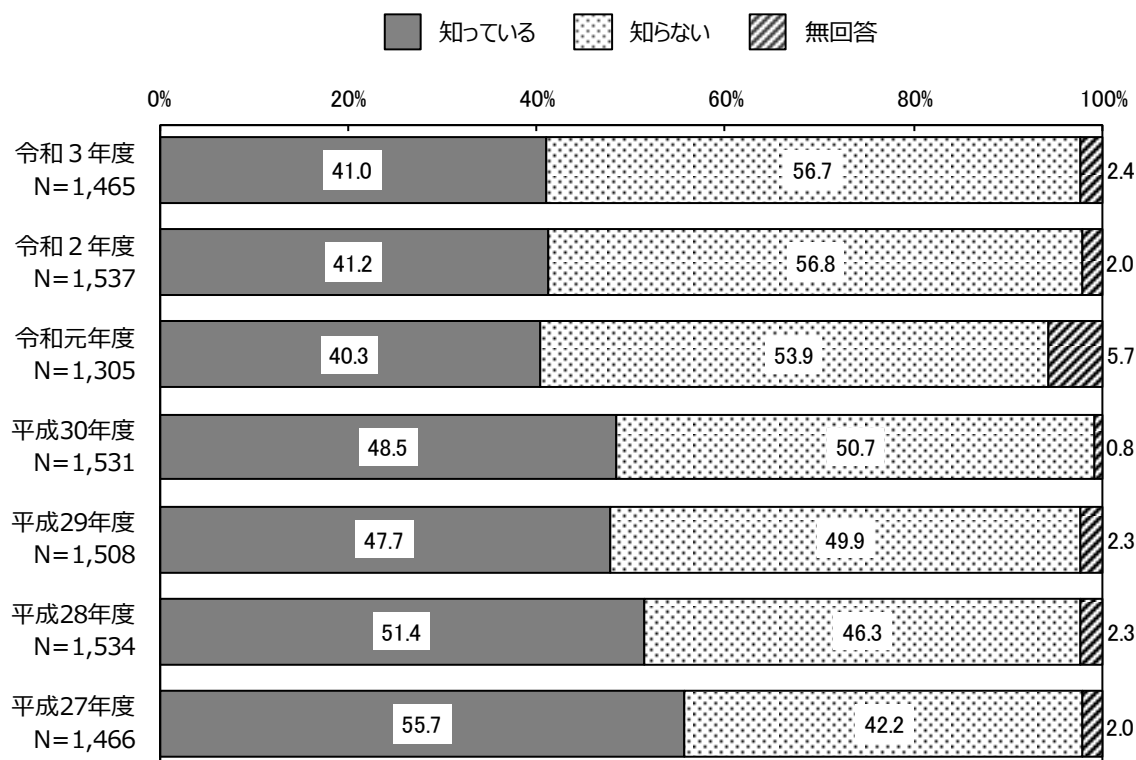
1 あなたはご存じですか？

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。

① 市制記念日

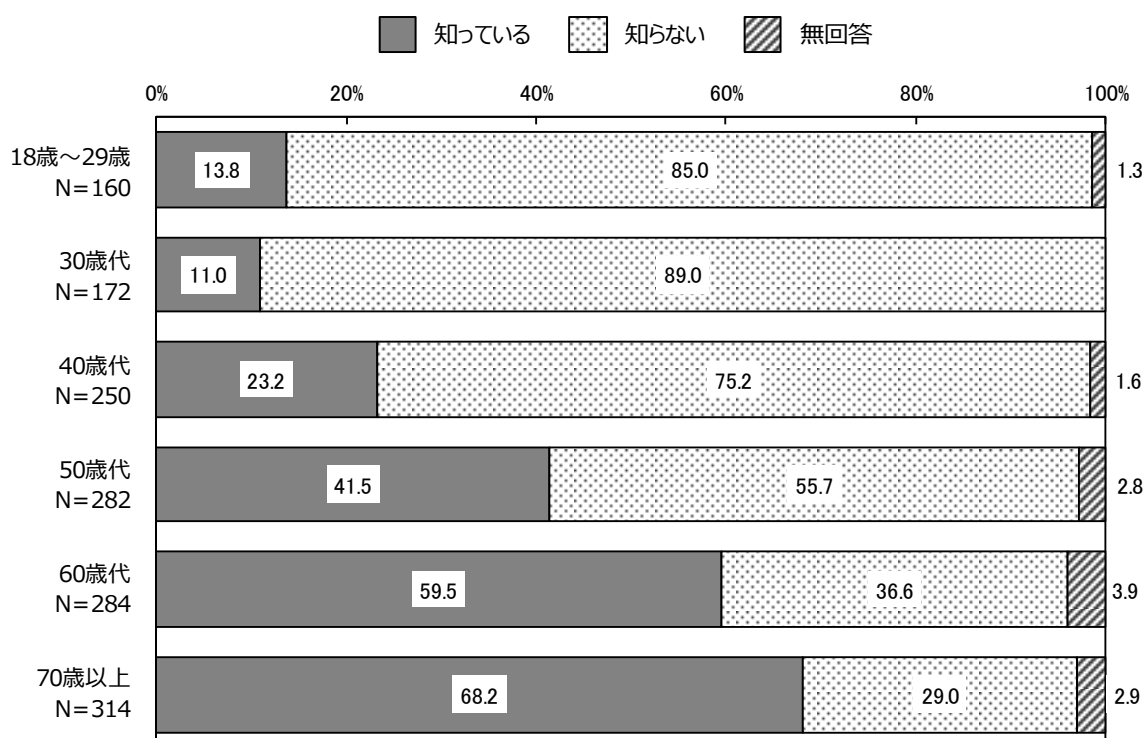
※ 浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を知っている人は41.0%

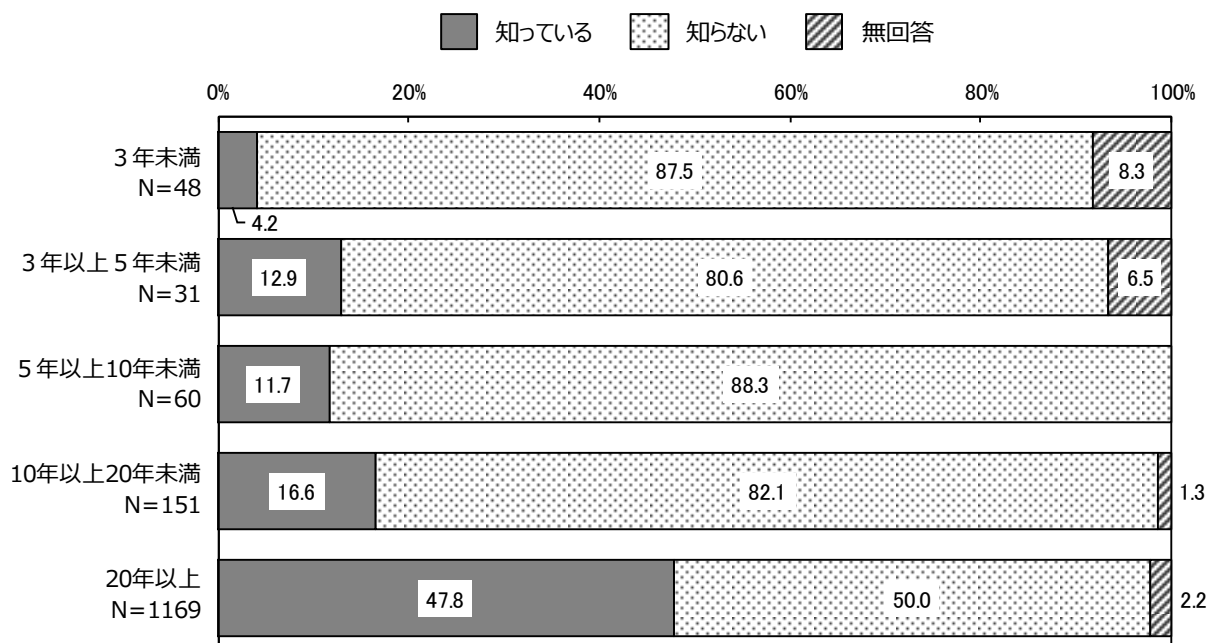


- 「知っている」が41.0%となり、「知らない」の56.7%を15.7ポイント下回った。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、「知っている」と回答した割合は、70歳以上の68.2%が最も高く、次いで60歳代が59.5%となった。年齢が高いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、30歳代以下は8割以上が「知らない」と回答しており、若い世代の認知度が低い。
- 居住年数別でみると、「知っている」と回答した割合は「20年以上」の47.8%が最も高く、次いで「10年以上20年未満」の16.6%となった。居住年数が長いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、20年未満ではいずれも「知らない」割合が8割を超えた。
- 若い世代を主として市民全体の認知度を向上させていくことが必要である。そのためには、学校教育などでふるさとについて学ぶ機会を増やし、子供たちの地域への愛着や市政についての関心を深めることや、さまざまな年代や地域に向けた広報媒体の検討や市制記念式の魅力向上などが不可欠である。

【年代別】



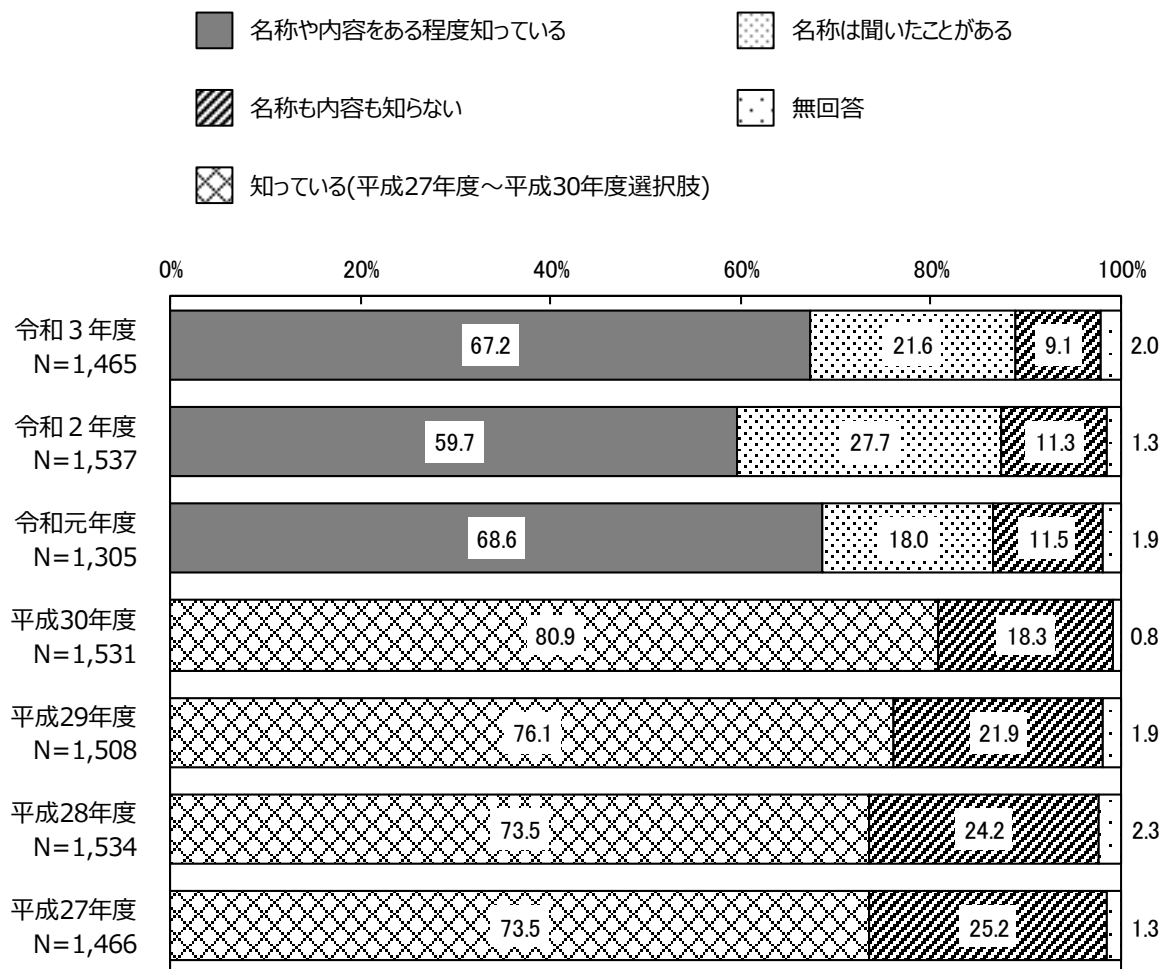
【居住年数別】



② 協働センター

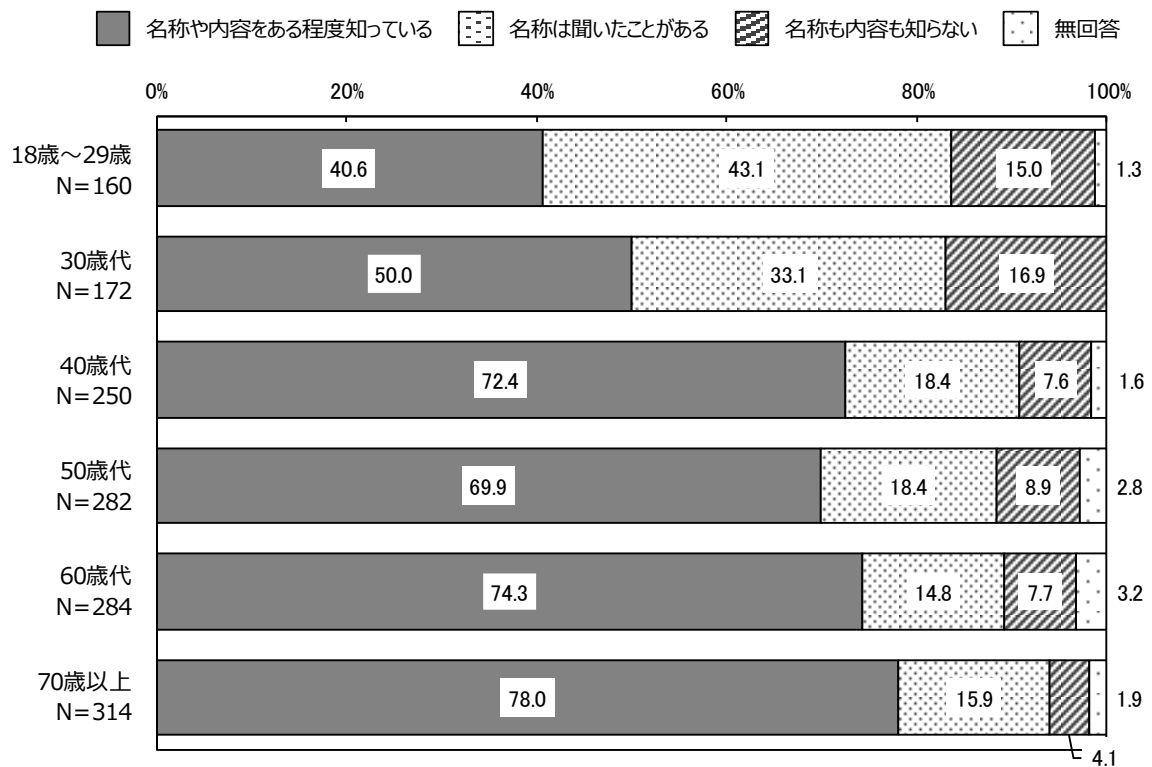
- ※ 平成 24 年 4 月から地域自治センターが、平成 25 年 4 月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。
- ※ 協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。

「協働センター」の『認知度』は 88.8%

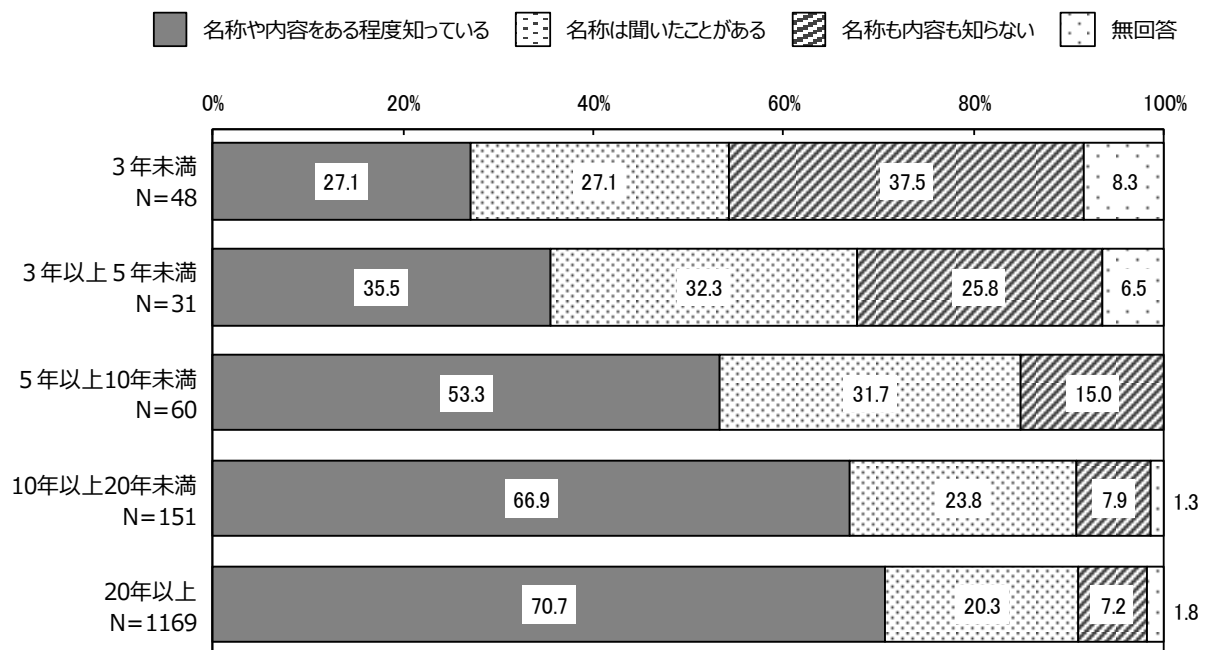


- 「名称や内容をある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『認知度』は 88.8%となった。令和2年度との比較では、『認知度』は 1.4 ポイント上回った。
- 年代別でみると、「名称や内容をある程度知っている」と回答した割合は 70 歳以上の 78.0% が最も高く、次いで 60 歳代の 74.3%となった。年代が高くなるほど「名称や内容をある程度知っている」割合が高い。
- 居住年数別では、「名称や内容をある程度知っている」と回答した割合は 20 年以上の 70.7% が最も高く、3 年未満が 27.1%と最も低い。居住年数が長いほど「名称や内容をある程度知っている」割合が高い。

【年代別】



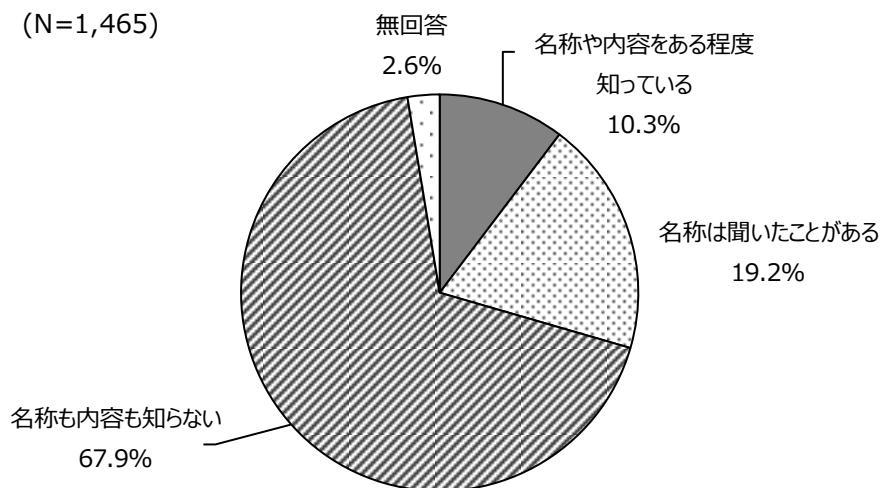
【居住年数別】



③ やさしい日本語

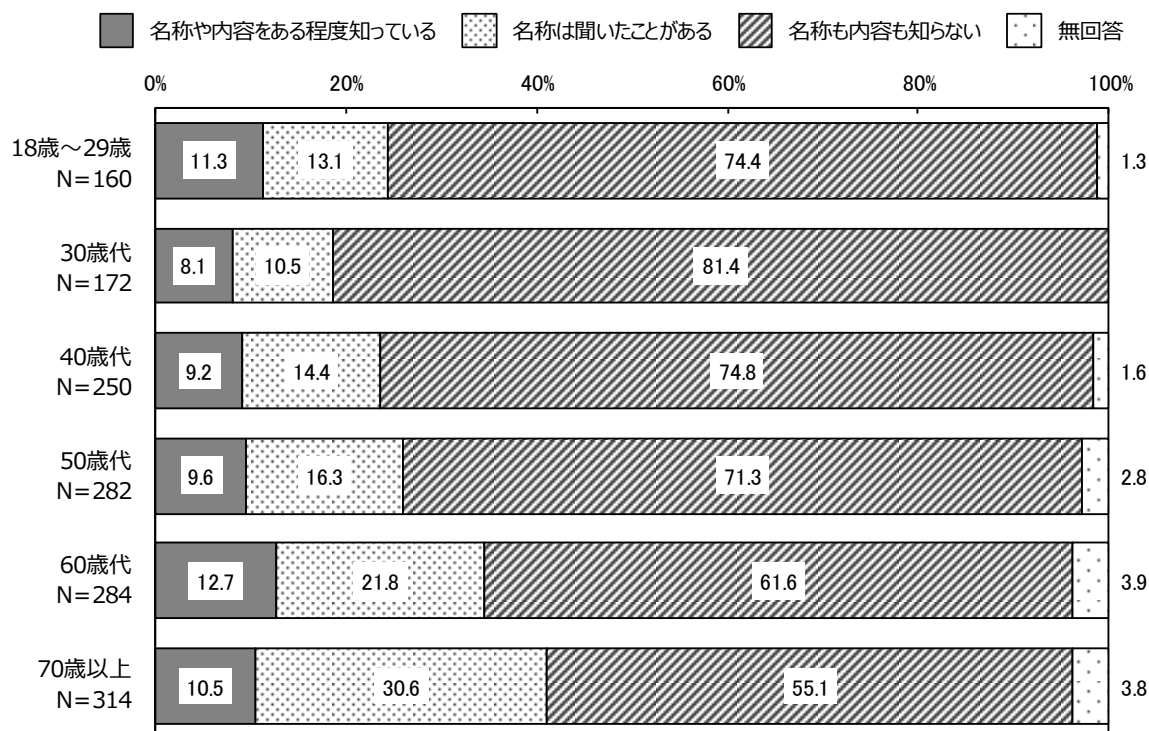
※ 多くの方に広く伝達が可能なコミュニケーション支援策として「やさしい日本語」の活用を進めています。特に、多くの外国人市民に対して多言語での対応が必要とされますが、全ての言語に対応することは困難なため、簡単でわかりやすい日本語で情報提供していく取り組みです。

「やさしい日本語」の『認知度』は 29.5%

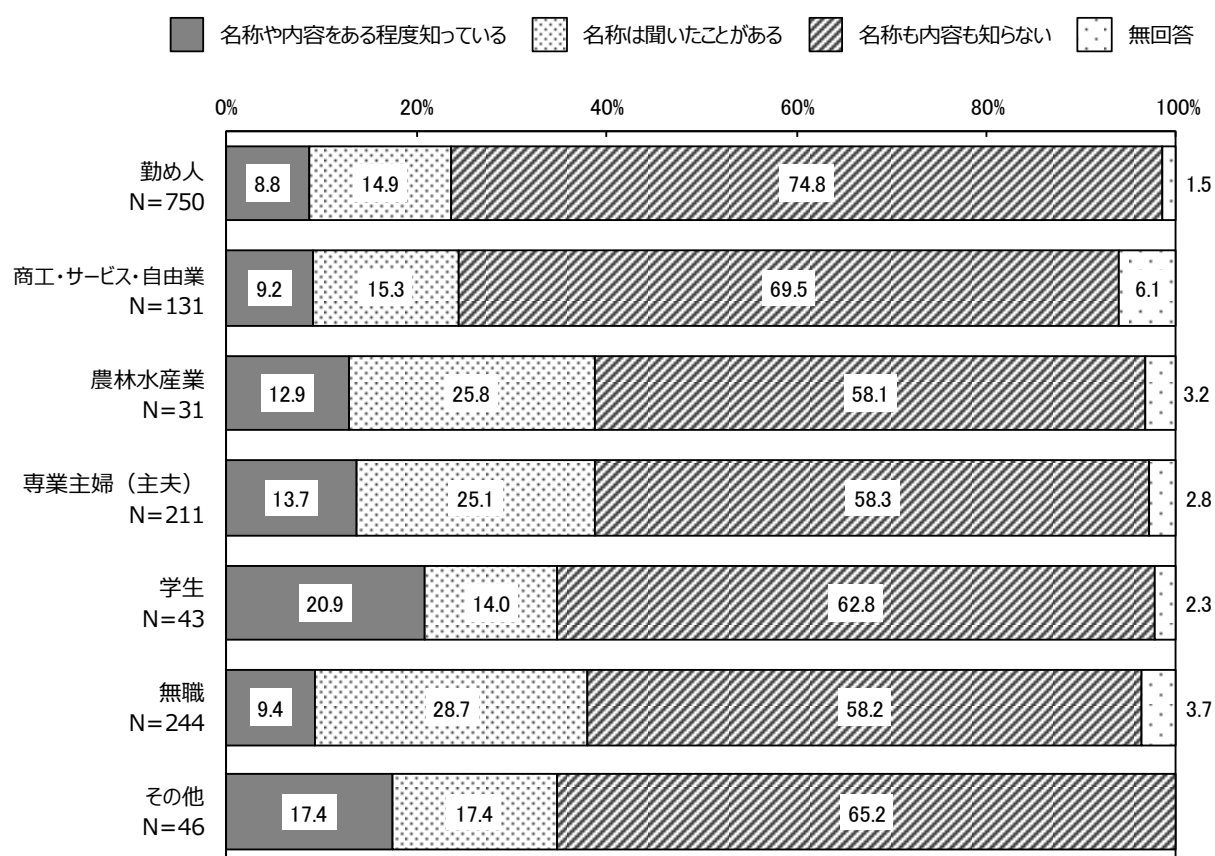


- 「名称や内容をある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『認知度』は 29.5%となり、「名称も内容も知らない」の 67.9%を 38.4 ポイント下回った。
- 年代別でみると、「名称や内容をある程度知っている」と回答した割合は 60 歳代の 12.7%が最も高く、次いで 18 歳～29 歳が 11.3%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は 30 歳代が 81.4%と、唯一 8 割を超えた。『認知度』は 70 歳以上が 41.1%となり、他の年代では 4 割以下となった。
- 職業別では、「名称や内容をある程度知っている」と回答した割合は学生の 20.9%が最も高く、「名称や内容をある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『認知度』は、専業主婦（主夫）が 38.8%、次いで農林水産業が 38.7%となった。最も低い勤め人が 23.7%となり、最も高い専業主婦（主夫）とは、15.1 ポイントの差がみられた。

【年代別】



【職業別】

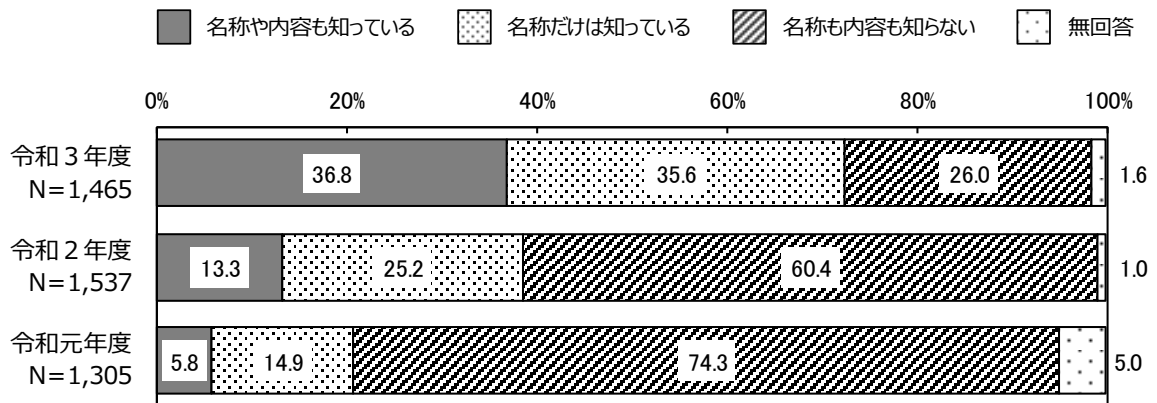


2 SDGsの達成に向けて

2-1 SDGsの認知度

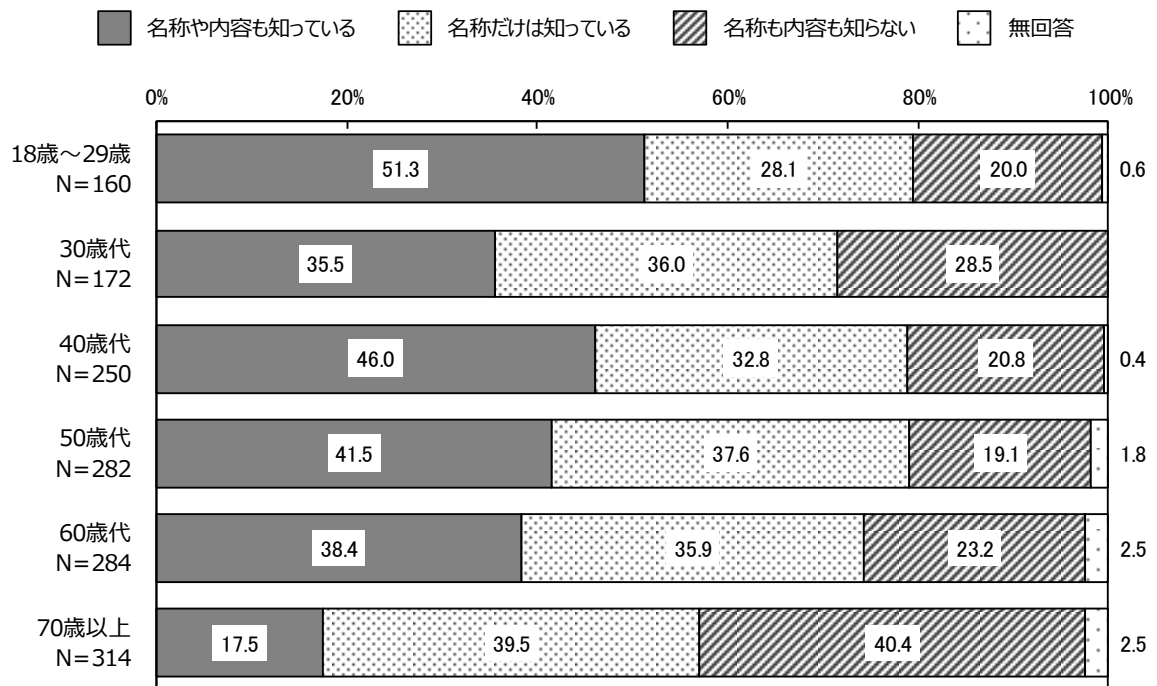
問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

「SDGs」の『認知度』は72.4%

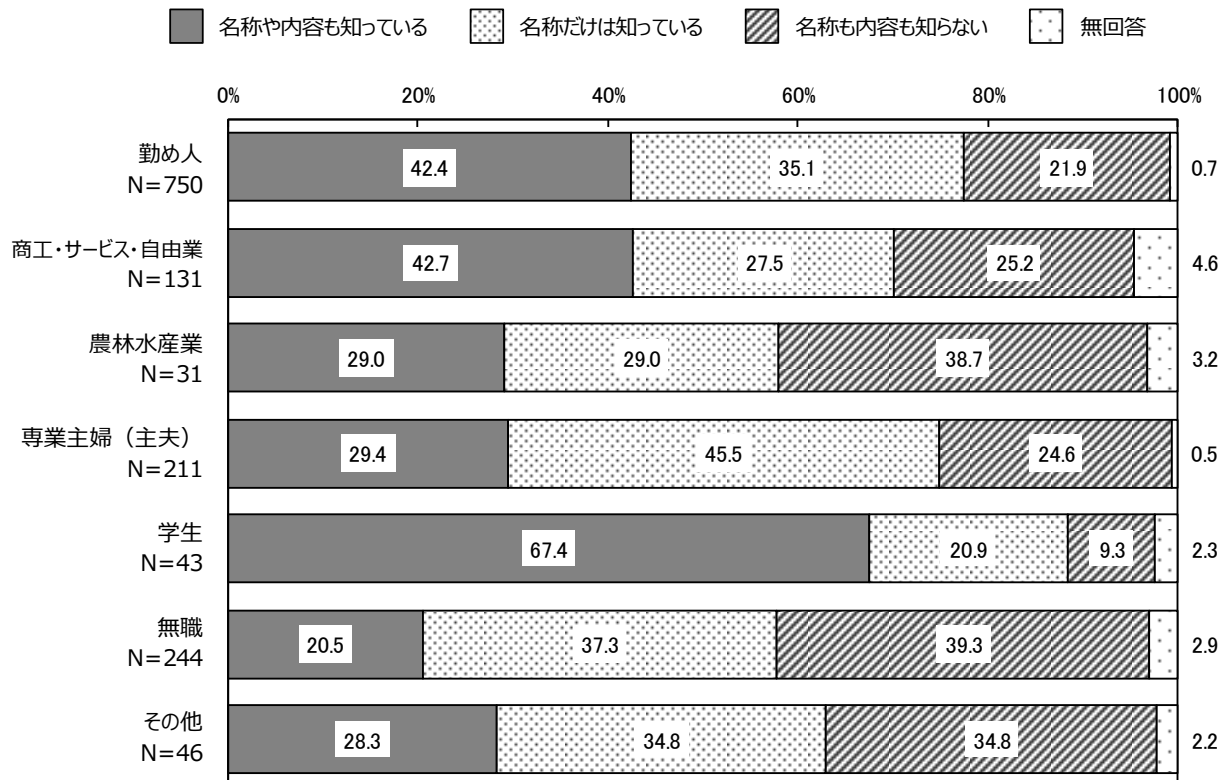


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は72.4%となり、「名称も内容も知らない」の26.0%を46.4ポイント上回った。令和2年度との比較では、『認知度』は33.9ポイント増加となった。市をはじめとし、教育機関や民間企業など、多様な主体の取り組みやメディアへの露出増加による社会全体への浸透が伺える。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は18歳～29歳の51.3%が最も高く、次いで40歳代が46.0%となった。最も低い70歳以上が17.5%となり、最も高い18歳～29歳とは、33.8ポイントの差がみられた。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は学生の67.4%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業が42.7%となった。『認知度』は、すべての職業で5割を超えていた。

【年代別】



【職業別】



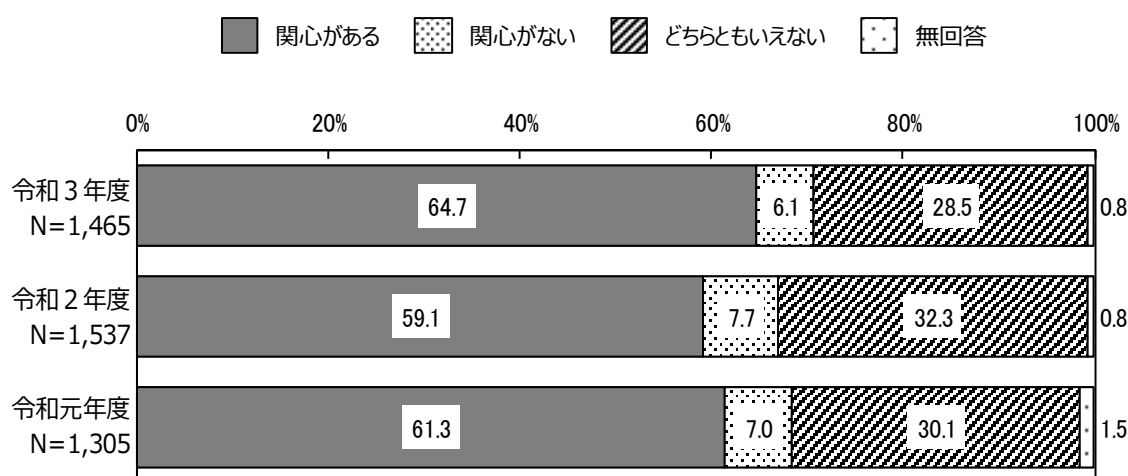
2-2 再生可能エネルギーについて

問3 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

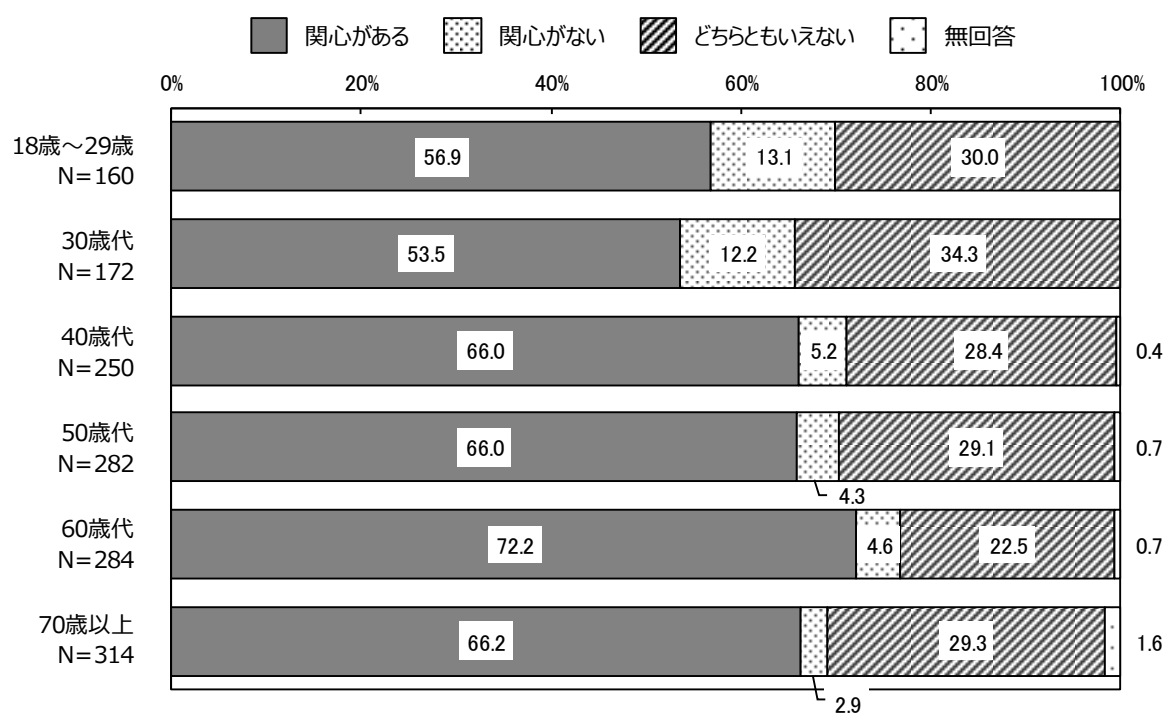
※ 再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱、その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

「再生可能エネルギー」について関心がある人は 64.7%

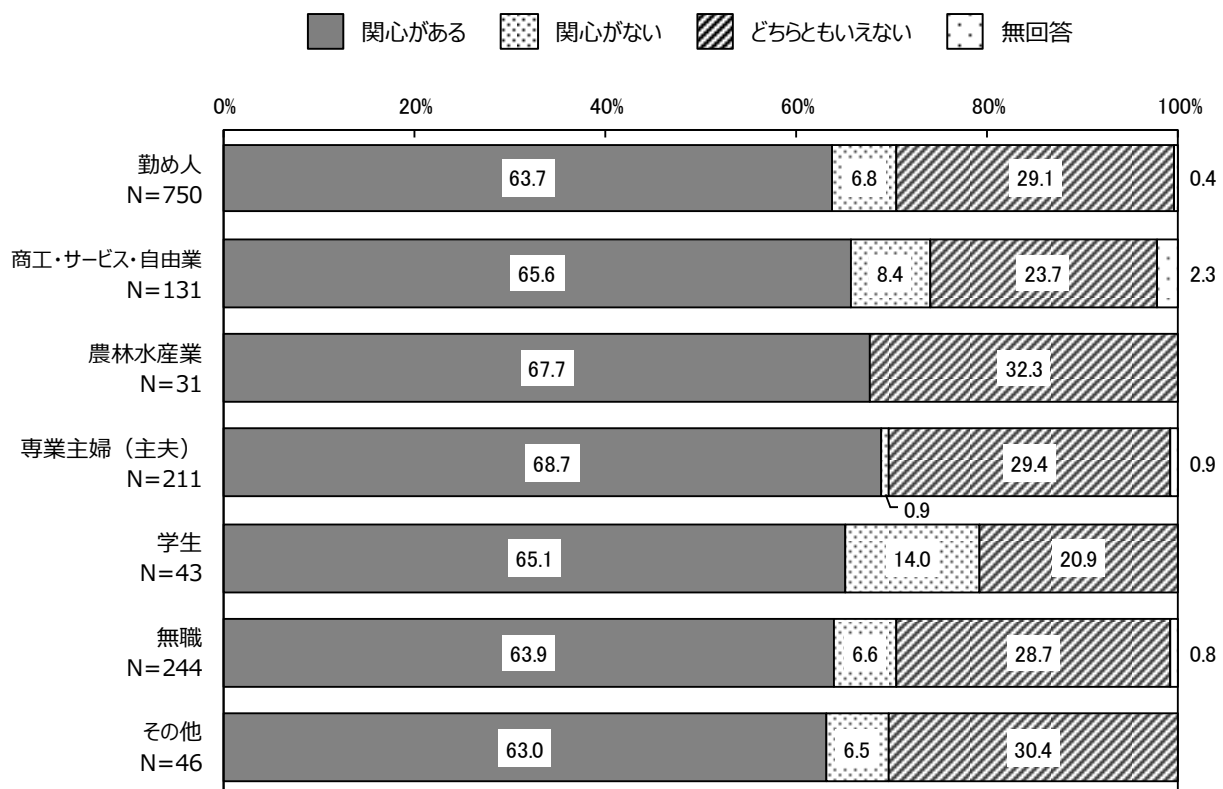


- 「関心がある」が 64.7%となり、「関心がない」の 6.1%を 58.6 ポイント上回った。令和2年度との比較では、「関心がある」が 5.6 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、「関心がある」と回答した割合は、60 歳代の 72.2%が最も高く、次いで 70 歳以上が 66.2%となった。年齢が低いほど「関心がない」割合が高い傾向がみられ、30 歳代以下では 1 割を超えた。
- 職業別でみると、「関心がある」と回答した割合は、専業主婦（主夫）の 68.7%が最も高く、次いで農林水産業が 67.7%となった。すべての職業で「関心がある」と回答した割合は 6 割を超え、「関心がない」を大きく上回った。

【年代別】

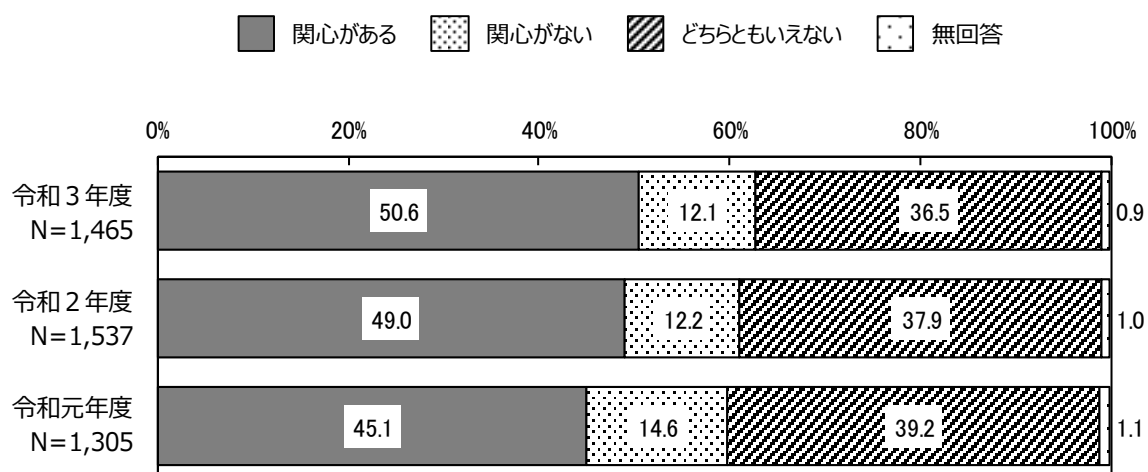


【職業別】



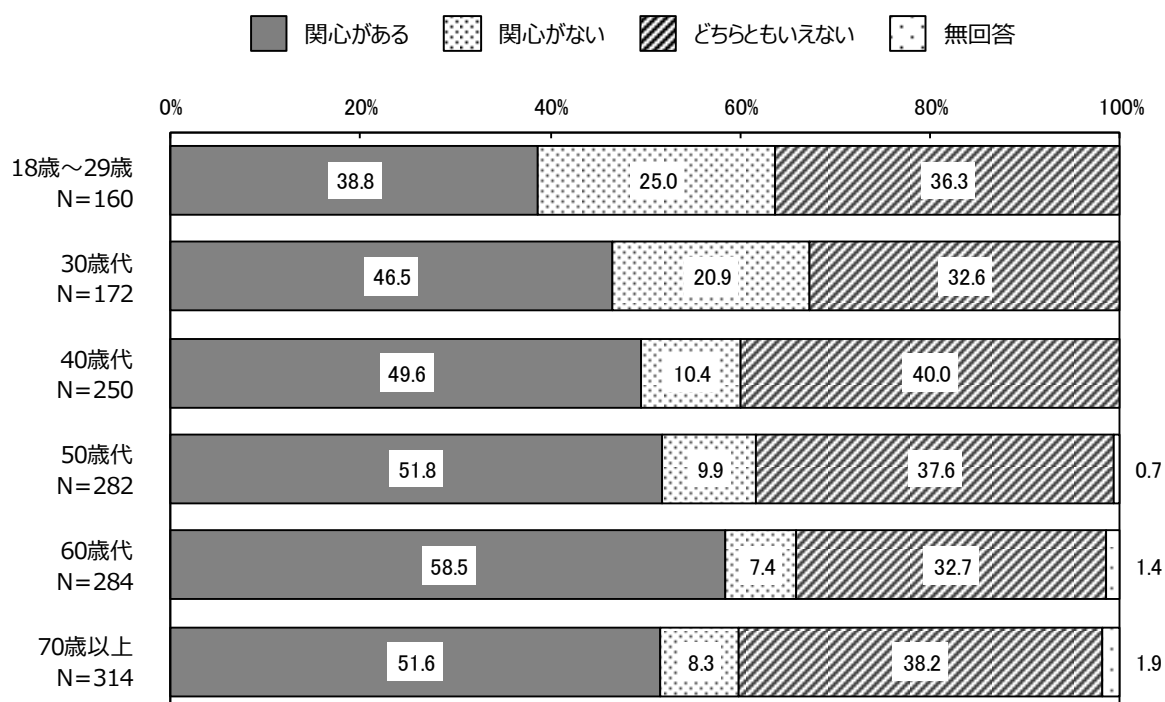
問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することに「関心がある」人は50.6%

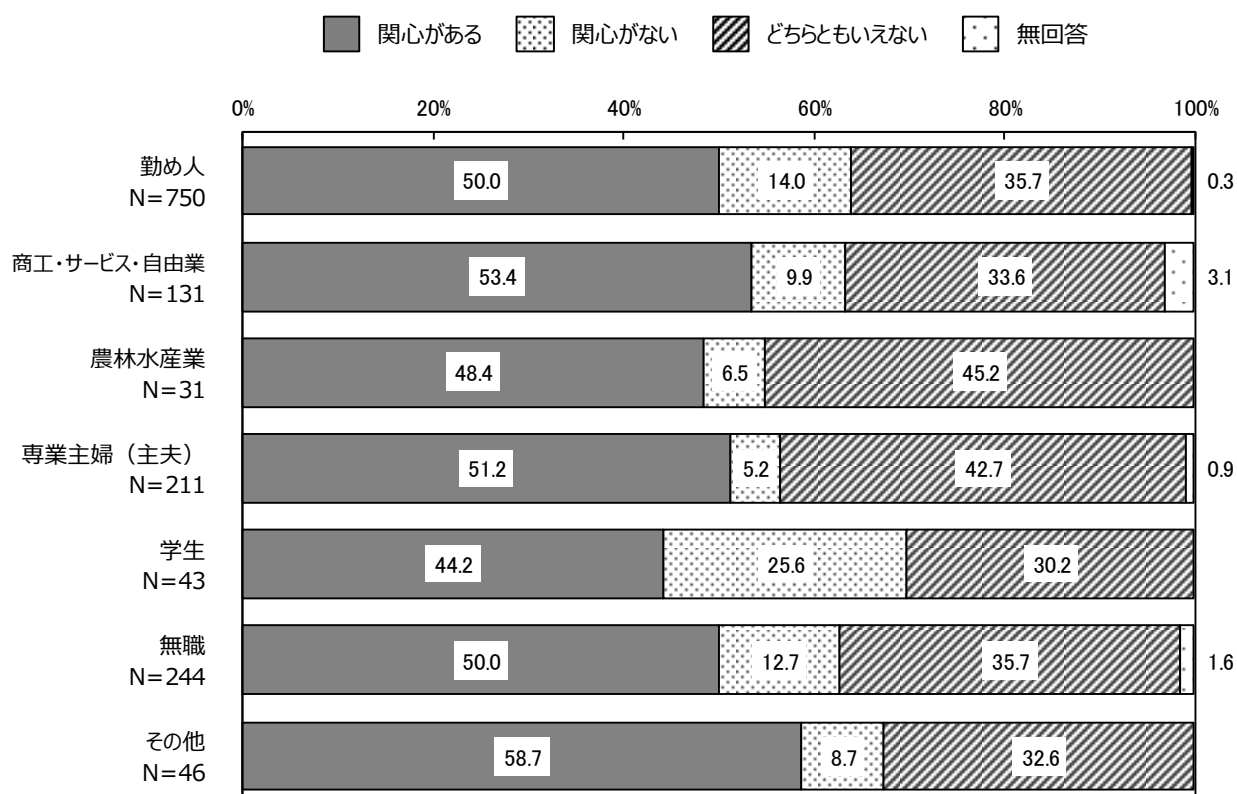


- 「関心がある」が50.6%となり、「関心がない」の12.1%を38.5ポイント上回った。令和2年度との比較では、「関心がある」が1.6ポイント増加となった。
- 年代別でみると、「関心がある」と回答した割合は、60歳代の58.5%が最も高く、次いで50歳代が51.8%となった。問3「再生可能エネルギー」の関心度と同様、年齢が低いほど「関心がない」割合が高い傾向がみられ、30歳代以下では2割を超えた。
- 職業別でみると、「関心がある」と回答した割合は、その他の58.7%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業の53.4%となった。「関心がない」と回答した割合は学生の25.6%が最も高く、唯一2割を超えた。

【年代別】

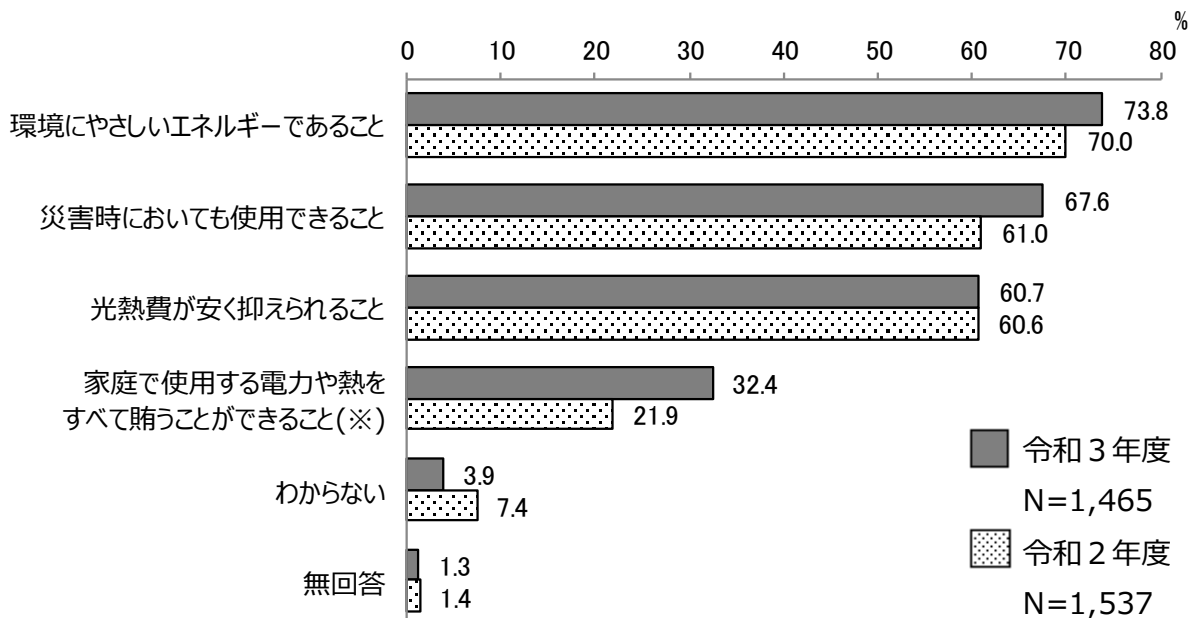


【職業別】



問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が73.8%



※ 令和2年度調査では、「再生可能エネルギーで使用する電力や熱をすべて賄えること」となっている。

- 「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が73.8%と最も高く、次いで「災害時においても使用できること」が67.6%、「光熱費が安く抑えられること」が60.7%となった。令和2年度との比較では、「わからない」を除いたすべての回答で増加となった。
- 年代別でみると、18歳～29歳と50歳代以上では「環境にやさしいエネルギーであること」が最も高い。30歳代では「光熱費が安く抑えられること」が69.8%で最も高く、40歳代では「災害時においても使用できること」が74.0%で最も高い。すべての年代で「家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること」は、4割以下と低くなっている。
- 職業別でみると、すべての職業で「環境にやさしいエネルギーであること」が7割を超え最も高い。農林水産業と学生では「家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること」が2割以下と、他の職業と比較して低い。

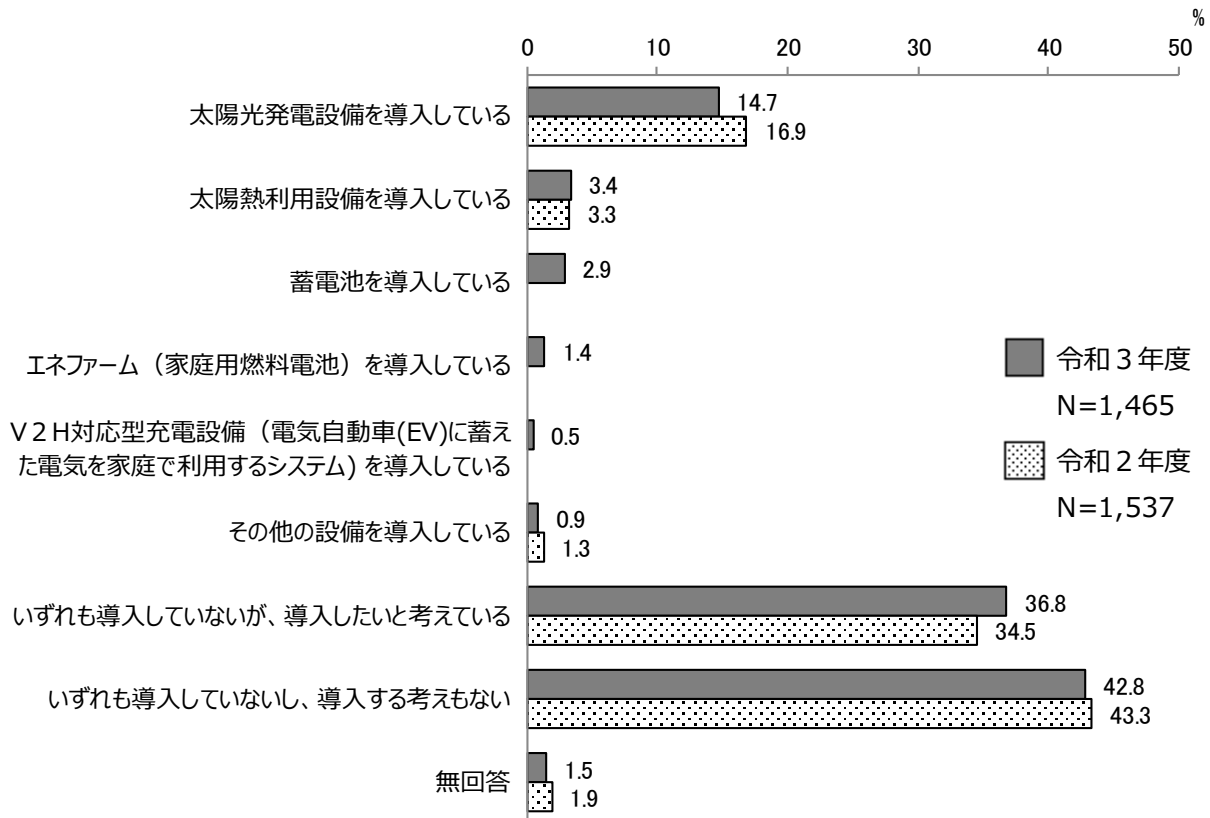
【年代別・職業別】

(単位：%)

		環境にやさしいエネルギーで	災害時においても使用できる	光熱費が安く抑えられること	家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること	わからない	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	66.9	57.5	60.0	20.0	7.5	0.6
	30歳代 N=172	59.9	66.9	69.8	34.3	5.2	1.7
	40歳代 N=250	69.2	74.0	67.2	32.0	4.4	0.8
	50歳代 N=282	75.9	71.3	61.7	35.1	1.1	1.1
	60歳代 N=284	81.3	69.0	57.4	30.3	3.2	1.1
	70歳以上 N=314	79.9	63.7	52.9	37.3	4.1	1.9
職業別	勤め人 N=750	71.2	68.8	62.8	30.9	3.6	0.9
	商工・サービス・自由業 N=131	74.8	69.5	53.4	36.6	3.8	3.1
	農林水産業 N=31	77.4	61.3	51.6	19.4	6.5	3.2
	専業主婦（主夫） N=211	85.3	72.0	59.7	35.1	1.4	0.9
	学生 N=43	72.1	53.5	58.1	16.3	4.7	0.0
	無職 N=244	70.1	61.5	58.6	34.0	6.1	1.6
	その他 N=46	80.4	73.9	67.4	41.3	4.3	0.0

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）を既に導入していますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

「再生可能エネルギー」の活用機器の導入について、「太陽光発電設備を導入している」人は14.7%



- 導入済の中では、「太陽光発電設備を導入している」が14.7%と最も高く、次いで「太陽熱利用設備を導入している」が3.4%、「蓄電池を導入している」が2.9%となった。回答割合の中では「いずれも導入していないし、導入する考えもない」が42.8%と最も高いが、次いで「いずれも導入していないが、導入したいと考えている」が36.8%と、前向きな回答も高くなっている。令和2年度との比較では、「太陽光発電設備を導入している」は2.2ポイント減少となった。
- 年代別でみると、「太陽光発電設備を導入している」と回答した割合は、30歳代が23.8%と最も高く、次いで40歳代の21.2%となった。他の年代ではいずれも1割台となった。60歳代以上では、「いずれも導入していないが、導入したいと考えている」と回答した割合が4割を超えた。
- 職業別でみると、「太陽光発電設備を導入している」と回答した割合は、専業主婦（主夫）の18.0%が最も高く、次いで勤め人の16.4%となった。「いずれも導入していないが、導入したいと考えている」と回答した割合は、その他の50.0%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業の45.8%となった。

【年代別・職業別】

(単位：%)

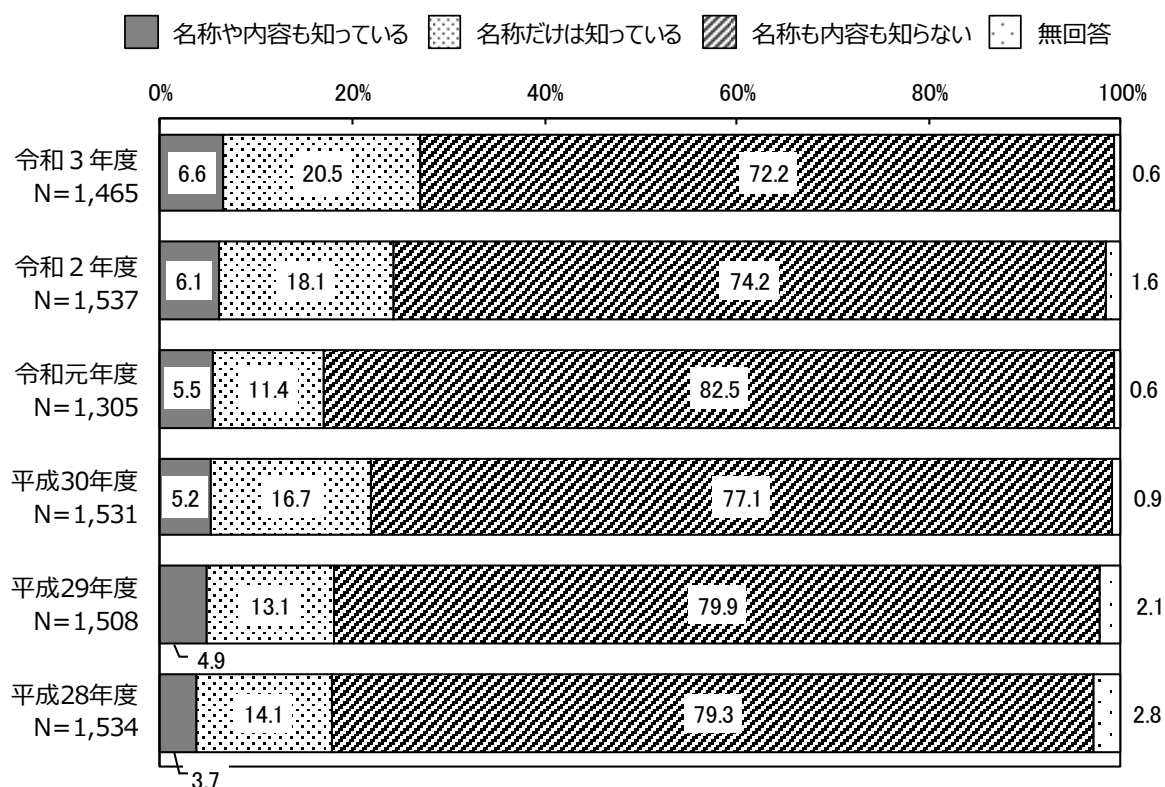
		太陽光発電設備を導入している	太陽熱利用設備を導入している	蓄電池を導入している	エネルギーファームを導入している	V2H対応型充電設備を導入している	その他の設備を導入している	導入したいと考えているが、	導入する考えもないし、	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	10.6	0.6	2.5	0.6	0.0	0.6	27.5	58.1	0.0
	30歳代 N=172	23.8	2.3	3.5	1.7	0.0	0.0	30.2	41.9	0.6
	40歳代 N=250	21.2	1.6	3.2	2.8	0.4	2.4	34.0	40.0	0.8
	50歳代 N=282	13.1	6.4	2.5	0.7	0.4	0.7	34.8	46.8	1.4
	60歳代 N=284	11.6	3.5	3.5	2.1	0.4	1.1	45.1	37.0	1.8
	70歳以上 N=314	10.8	4.1	2.2	0.6	1.3	0.3	41.4	39.8	2.9
職業別	勤め人 N=750	16.4	3.1	2.9	1.5	0.1	1.1	34.3	44.9	0.8
	商工・サービス・自由業 N=131	12.2	5.3	2.3	1.5	1.5	0.0	45.8	33.6	3.1
	農林水産業 N=31	12.9	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	41.9	38.7	3.2
	専業主婦（主夫） N=211	18.0	4.3	3.3	1.9	0.5	0.5	36.0	38.9	2.8
	学生 N=43	11.6	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	23.3	62.8	0.0
	無職 N=244	9.8	3.7	2.9	1.6	1.2	1.2	39.3	43.4	1.2
	その他 N=46	10.9	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2	50.0	34.8	0.0

2-3 FSC森林認証について

問7 あなたは「FSC森林認証※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

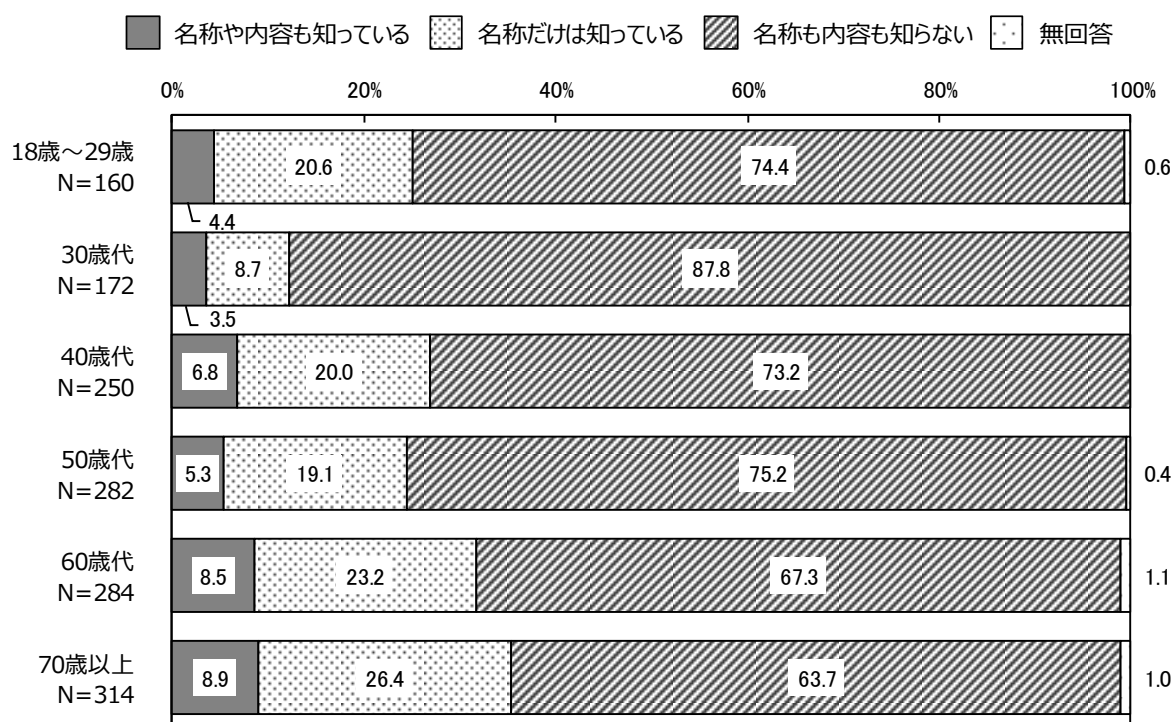
※ 「FSC森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

「FSC森林認証」の『認知度』は27.1%

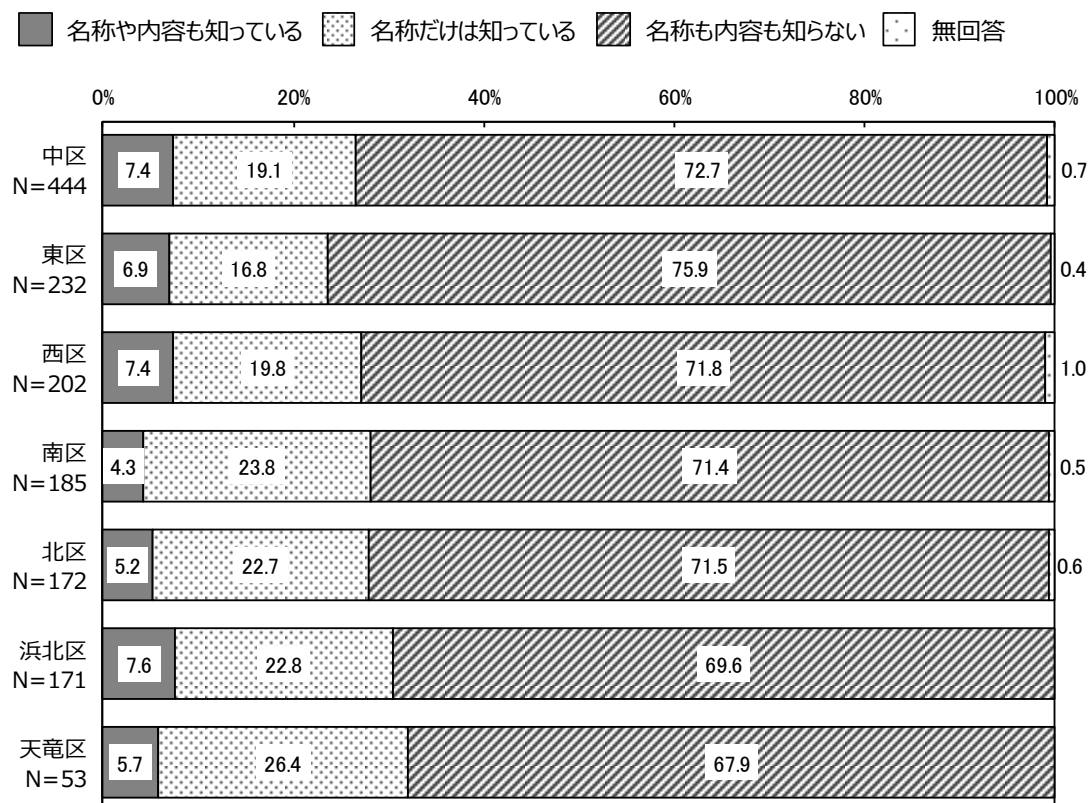


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は27.1%となり、「名称も内容も知らない」の72.2%を45.1ポイント下回った。令和2年度との比較では、『認知度』は2.9ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』の回答割合は、70歳以上が35.3%と最も高く、次いで60歳代が31.7%となった。最も低い30歳代が12.2%となり、最も高い70歳以上とは、23.1ポイントの差がみられた。
- 行政区別でみると、天竜区の『認知度』が32.1%と最も高い。天竜区はFSC森林認証に関連が強い地域であるためと考えられる。次いで浜北区が30.4%となり、他の行政区についてはいずれも2割台であるため、引き続き、認知度の向上に努める必要がある。

【年代別】

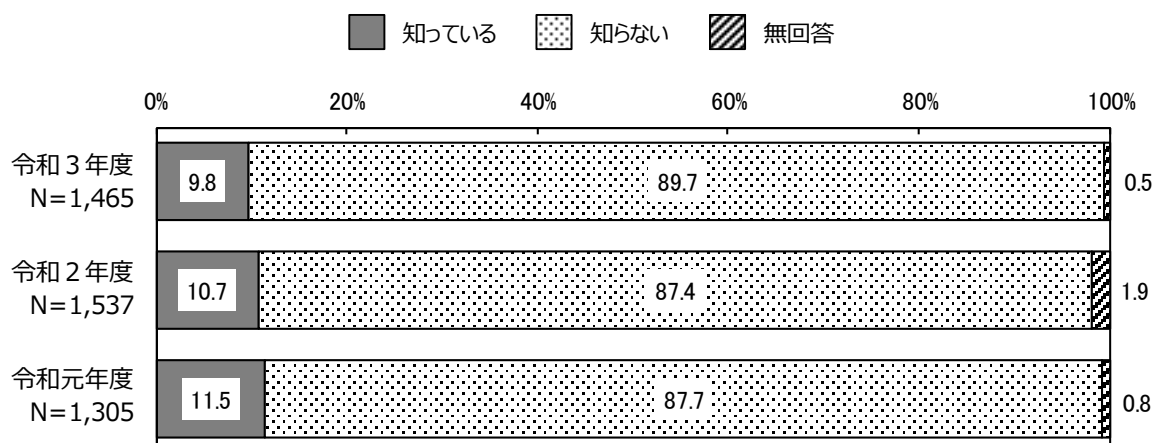


【行政区別】



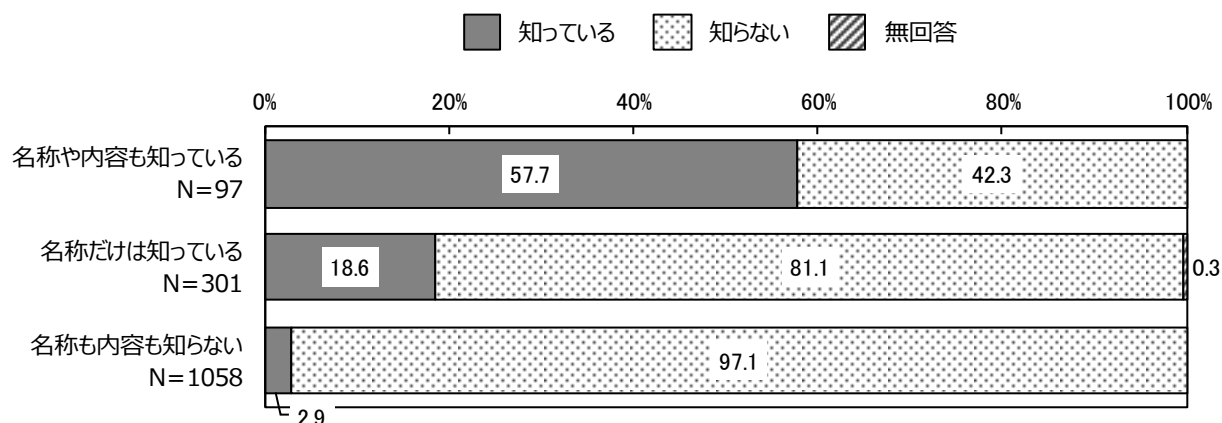
問8 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積
(約 49,130ha (令和3年4月1日現在)) を有していることをご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

浜松市が市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを知っている人は9.8%

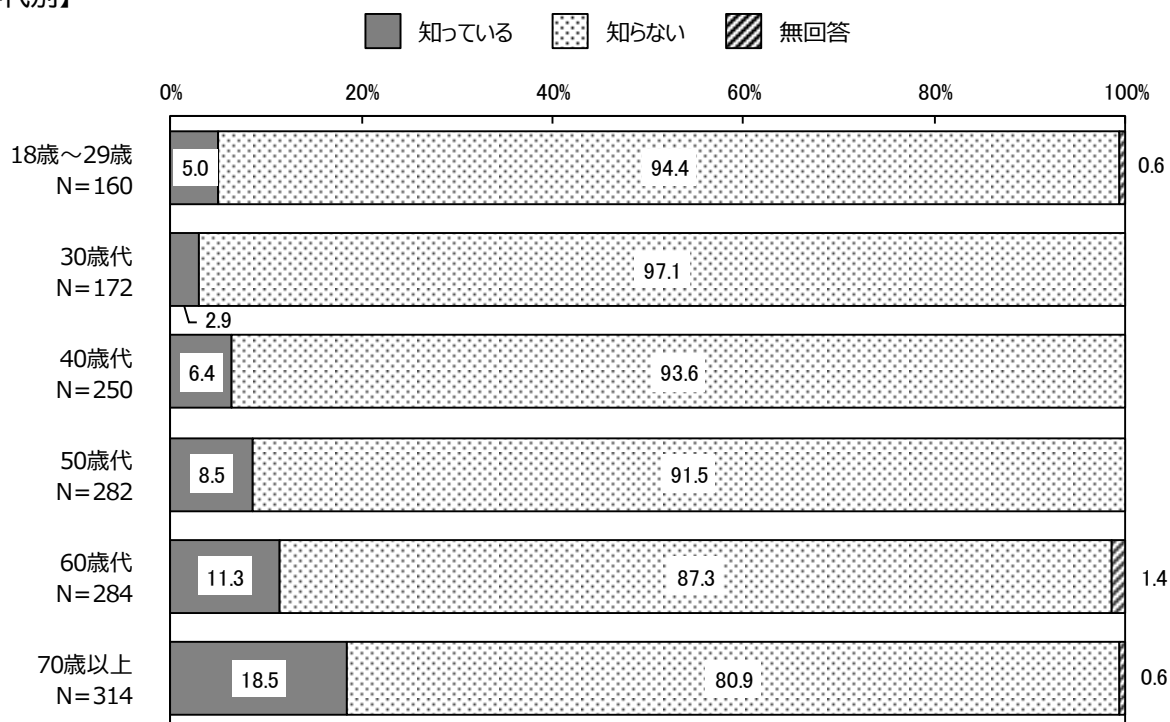


- 「知っている」が9.8%となり、「知らない」の89.7%を79.9ポイント下回った。令和元年度から減少傾向となっている。また、問7のF S C森林認証の認知度と比べて17.3ポイント低い回答結果となった。
- 年代別でみると、「知っている」と回答した割合は70歳以上の18.5%が最も高く、次いで60歳代が11.3%となった。他の年代ではいずれも1割未満となった。
- 行政区別でみると、「知っている」と回答した割合は天竜区の17.0%が最も高く、次いで北区が11.0%となった。中区と東区では1割未満となった。
- F S C森林認証の認知度と、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることの認知度の関連性は高く、F S C森林認証の認知度を高めていくことが必要である。

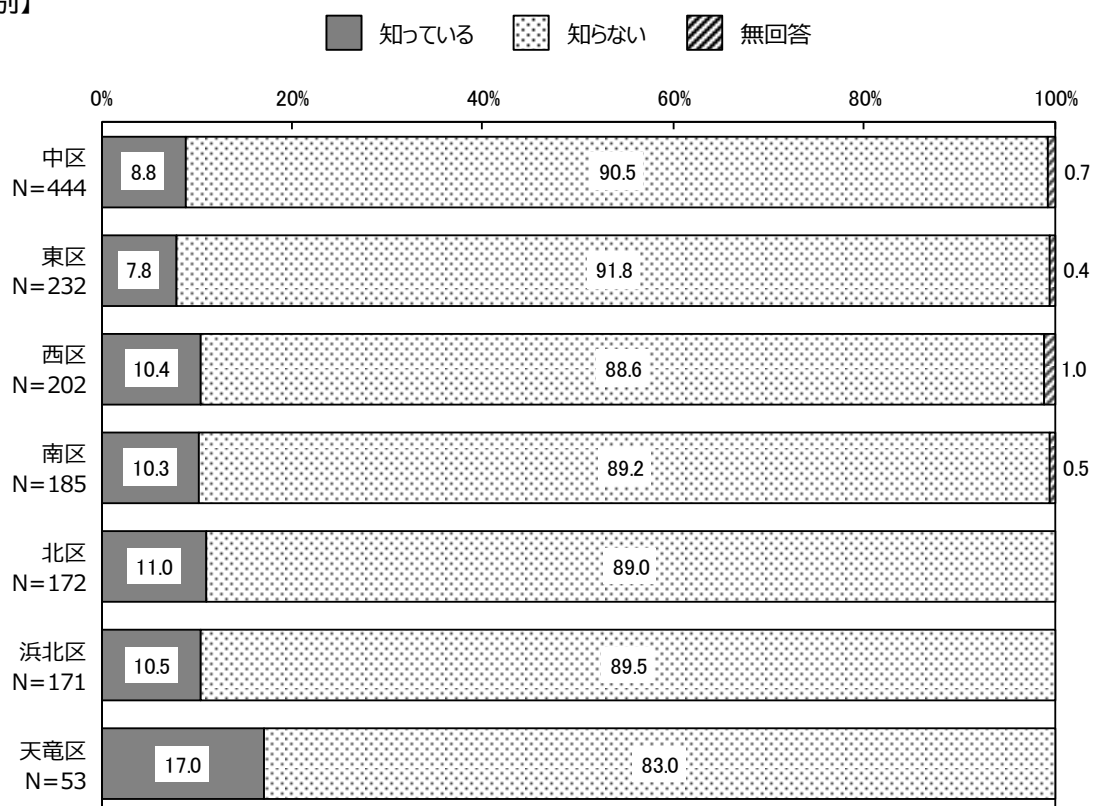
【問7 F S C森林認証の認知度別】



【年代別】

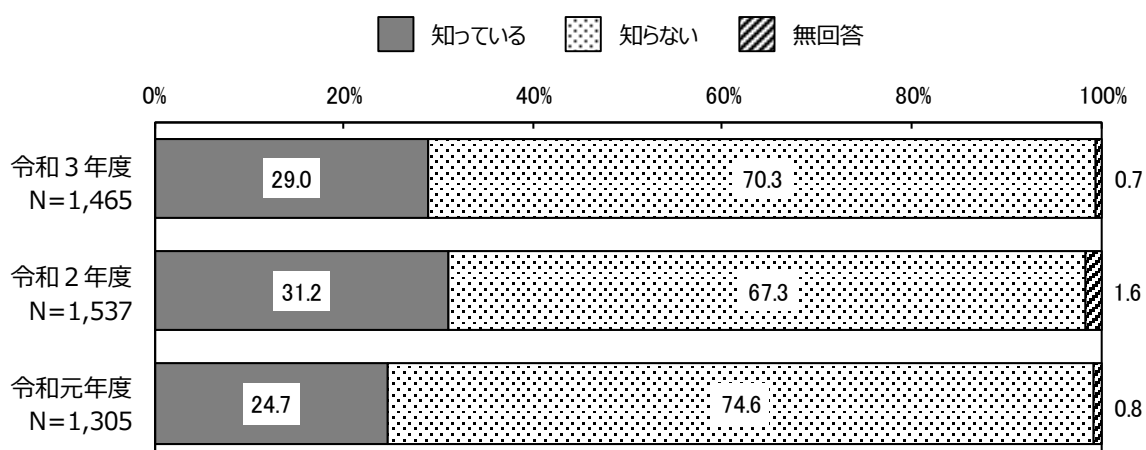


【行政区別】



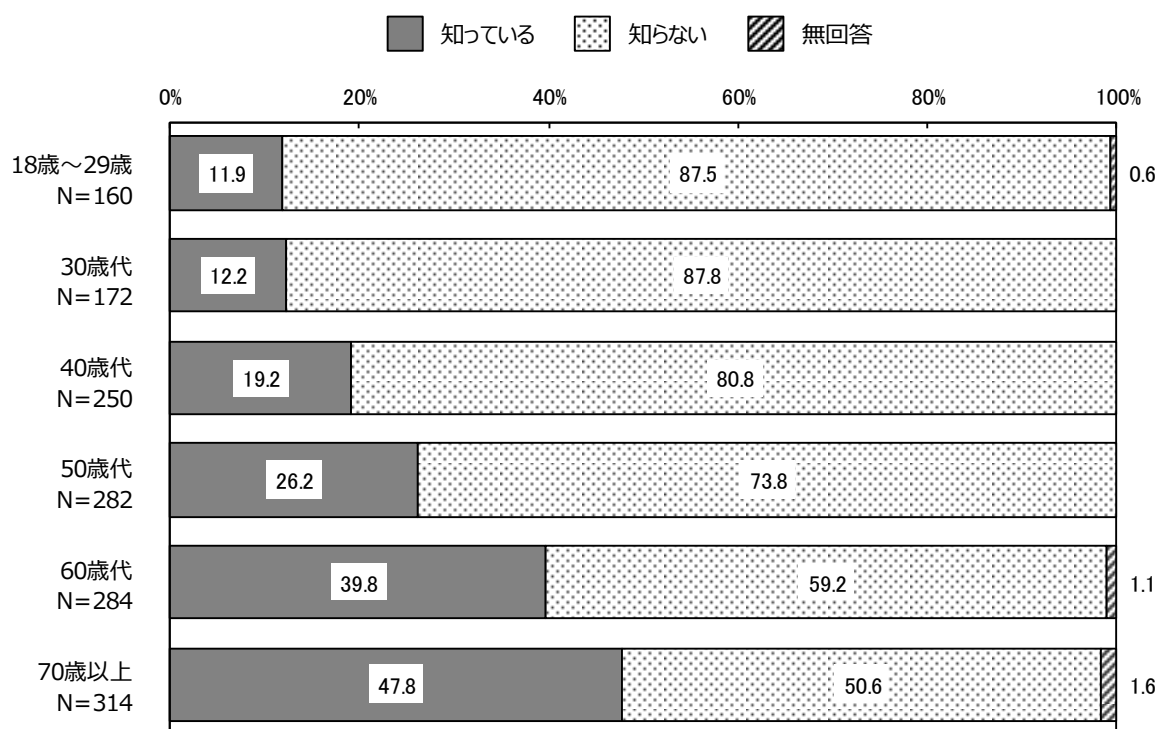
問9 あなたは東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「F S C 森林認証」の森林から生産された木材が使用されたことをご存じですか。（1 つだけ○を付けてください）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設に、浜松市の「F S C 森林認証」の森林から生産された木材が使用されることを「知っている」人は 29.0%

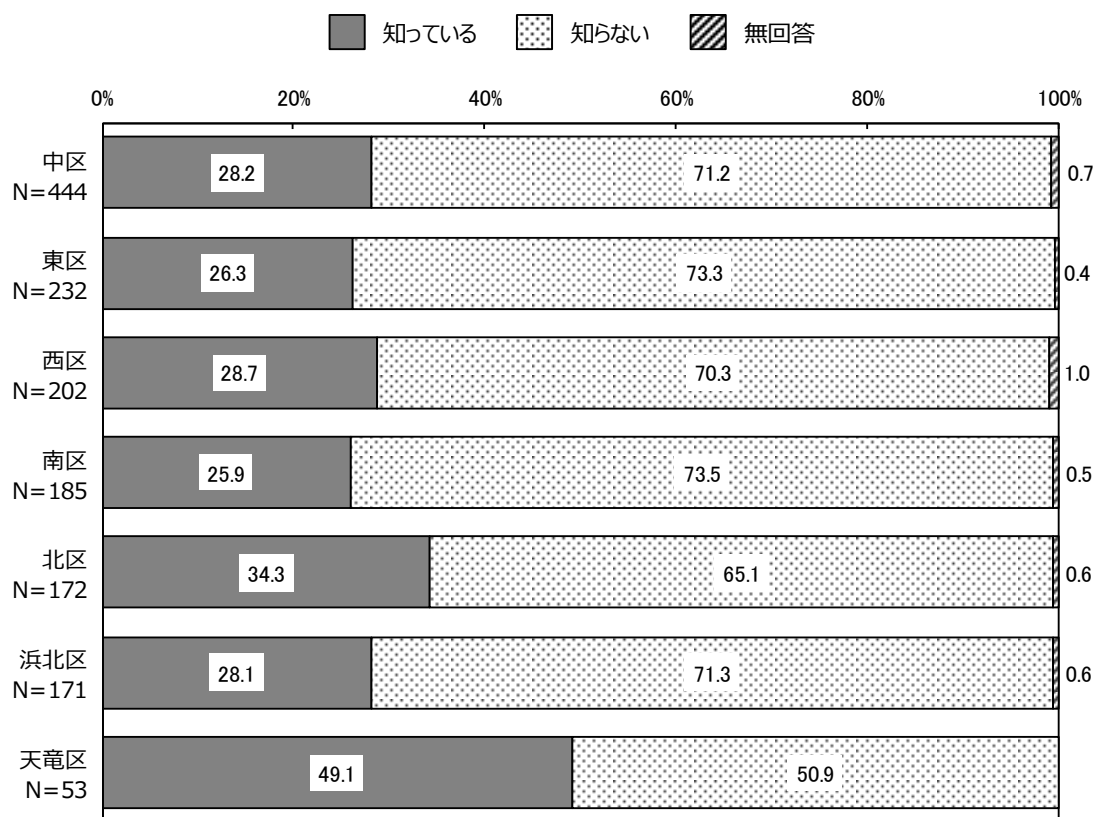


- 「知っている」は 29.0% となり、「知らない」の 70.3% を 41.3 ポイント下回った。問7や問8の F S C 森林認証などの認知度と比べると高い。令和2年度との比較では、「知っている」は 2.2 ポイント減少となった。
- 年代別でみると、「知っている」と回答した割合は 70 歳以上の 47.8% が最も高く、次いで 60 歳代が 39.8% となった。年代が高くなるほど「知っている」割合が高い傾向がみられ、40 歳代以下では 2 割未満となった。
- 行政区別でみると、「知っている」と回答した割合は天竜区が 49.1% と最も高く、他の行政区と比べて突出して高い。天竜区以外の行政区では 2 割半ばから 3 割半ばにとどまる。
- 天竜区は F S C 森林認証に関連が強い地域であることから、F S C 森林認証の木材の用途への関心も高いことがうかがえる。

【年代別】



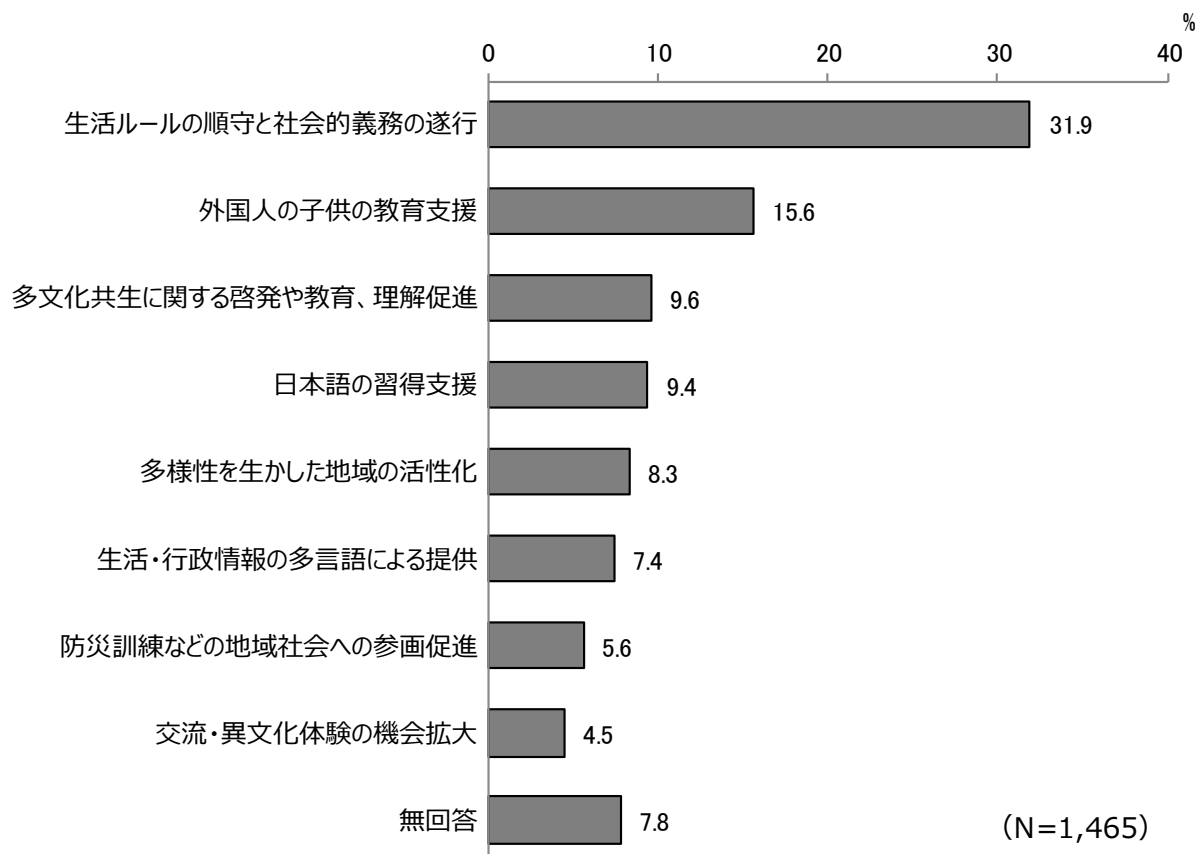
【行政区別】



2-4 多文化共生について

問 10 あなたは、浜松市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。（1 つだけ○を付けてください）

最も力を入れるべき取り組みは「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が 31.9%



- 「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が 31.9%と最も高く、次いで「外国人の子供の教育支援」が 15.6%、「多文化共生に関する啓発や教育、理解促進」が 9.6%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。年代が高くなるほど「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」と回答した割合も高い傾向がみられ、18 歳～29 歳では 18.8%と、他の年代と比較して低い。「外国人の子供の教育支援」はどの年代も 1 割を超えており、年代に関係なく求められている取り組みであることがうかがえる。
- 居住形態別でみると、すべての居住形態で「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。なかでも公営住宅と持ち家（集合住宅）が 4 割を超え、全体と比較して 10 ポイント以上高い。

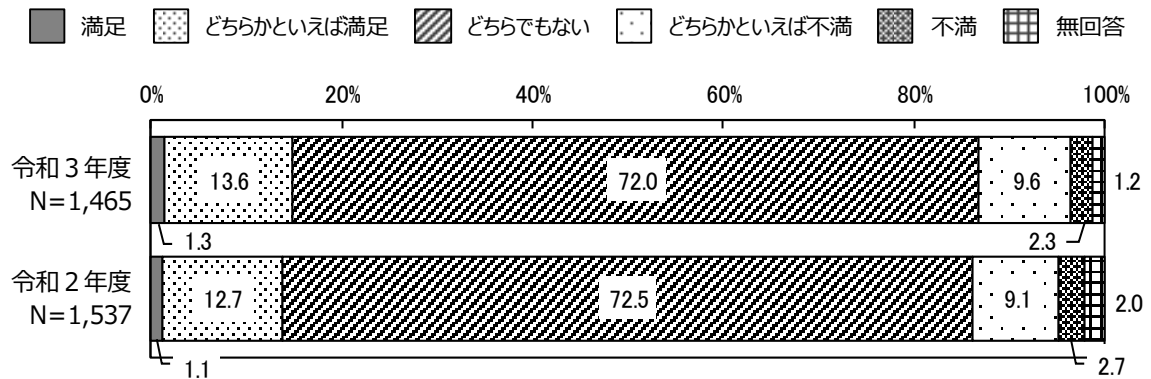
【年代別・居住形態別】

(単位：％)

		遂生活 行ルールの 順守と社会的 義務の	外国人の子 供の教育支 援	理多文化 解共生に 関する啓発 や教育、	日本語の 習得支援	多様性を 生かした地 域の活性化	提生活・ 供行政情 報の多言語 による	促進災 訓練などの 地域社会へ の参画	交流・異 文化体験の 機会拡大	無回 答
年代別	18歳～29歳 N=160	18.8	12.5	8.8	7.5	12.5	14.4	11.3	7.5	6.9
	30歳代 N=172	24.4	15.7	7.6	15.1	12.8	7.0	4.7	3.5	9.3
	40歳代 N=250	30.4	14.4	12.4	7.6	10.4	7.2	4.4	5.2	8.0
	50歳代 N=282	33.7	18.8	7.4	8.5	6.7	7.4	4.6	5.3	7.4
	60歳代 N=284	35.2	18.7	12.7	7.7	6.7	5.6	4.9	3.2	5.3
	70歳以上 N=314	39.8	12.4	8.0	10.5	4.8	5.4	5.7	3.5	9.9
居住形態別	持ち家（一戸建て） N=1115	31.5	16.1	9.4	8.8	8.3	7.8	5.9	4.4	7.7
	持ち家（集合住宅） N=67	43.3	17.9	7.5	9.0	6.0	3.0	4.5	4.5	4.5
	借家 N=40	27.5	2.5	17.5	10.0	5.0	12.5	2.5	5.0	17.5
	賃貸アパート・賃貸マンション N=199	30.7	15.6	8.5	12.6	8.5	5.5	5.5	5.0	8.0
	公営住宅 N=13	46.2	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
	社宅・寮 N=19	26.3	10.5	10.5	10.5	15.8	5.3	5.3	10.5	5.3
	その他 N=5	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0

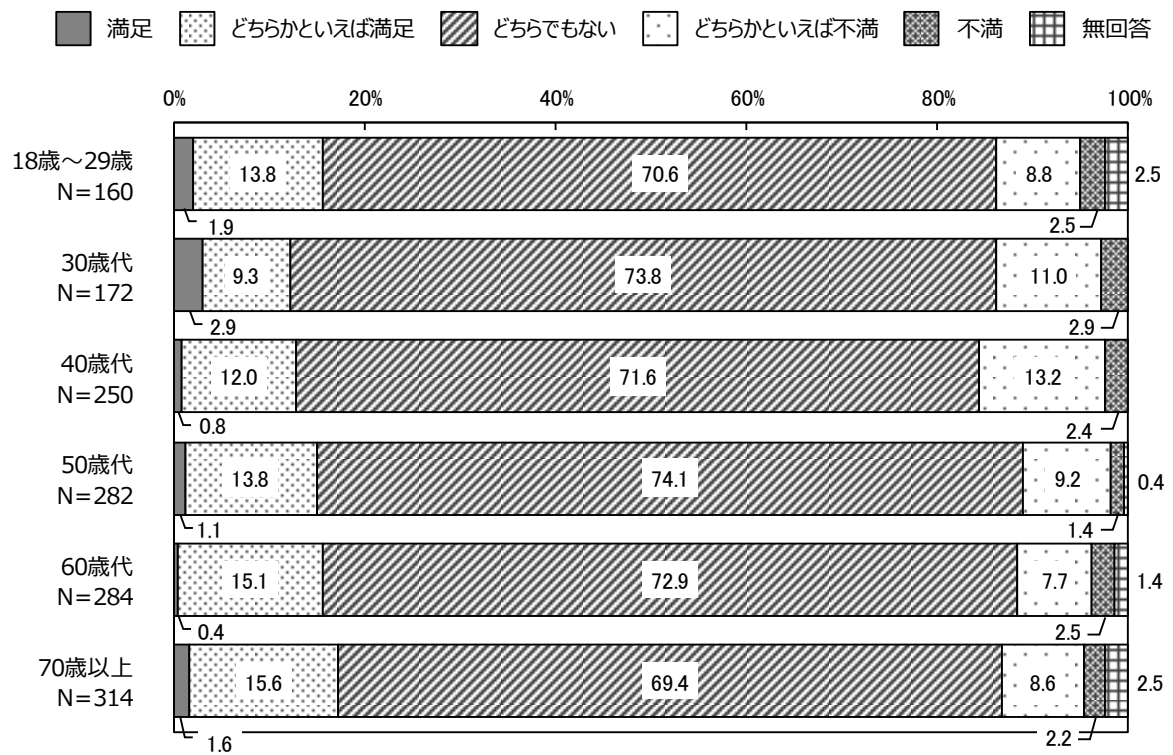
問 11 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

外国人市民との共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みに『満足である』は 14.9%

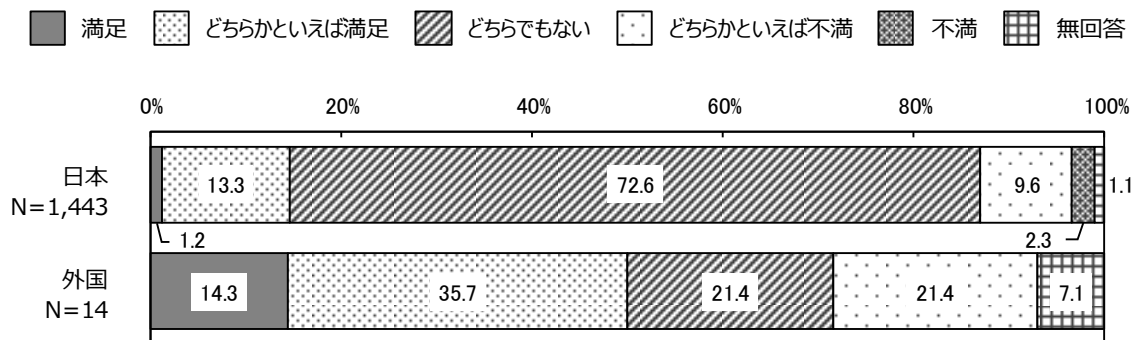


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は 14.9%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は 11.9%となり、『満足である』が『不満である』を 3.0 ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は 72.0%と7割を超える。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は70歳以上が17.2%と最も高く、次いで18歳～29歳の15.7%となった。また、30歳代と40歳代を除いて、『満足である』が『不満である』を上回った。
- 国籍別でみると、日本人以外の回答が少ないので留意が必要だが、『満足である』と回答した割合は、日本人が14.5%、外国人が50.0%となり、外国人からみた満足度は日本人と比べて高いことがうかがえる。
- 市民の満足度を高められるよう、「第2次浜松市多文化共生都市ビジョン」にもとづいた浜松型の多文化共生社会の実現を目指していく。

【年代別】

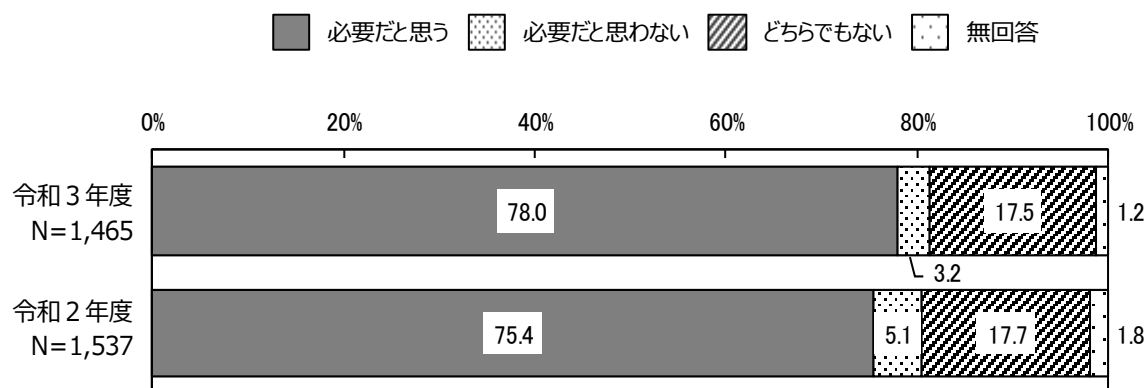


【国籍別】



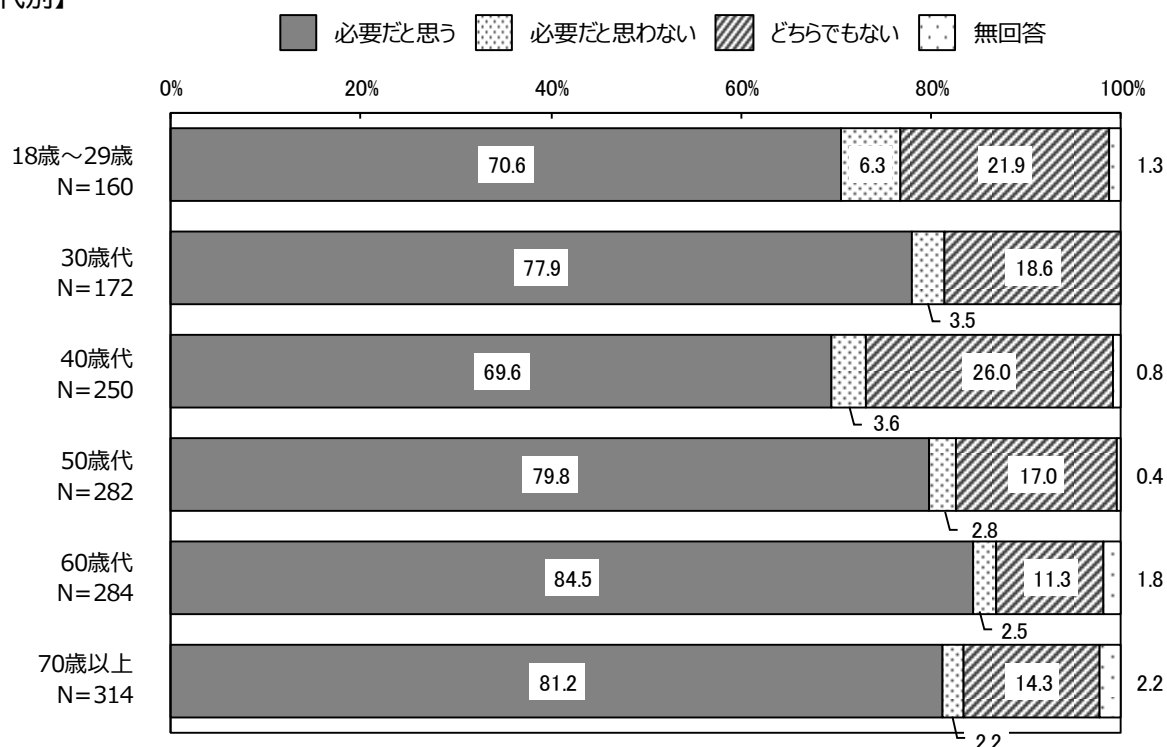
問 12 外国人材の受け入れ拡大の動きが全国的に進む中、共生社会を築くため、浜松市では外国人が生活言語である日本語を話せるよう日本語習得を促進していますが、日本語学習支援体制の一層の充実が必要だと思いますか。（1つだけ○を付けてください）

外国人への日本語学習支援体制の一層の充実が「必要だと思う」人は 78.0%

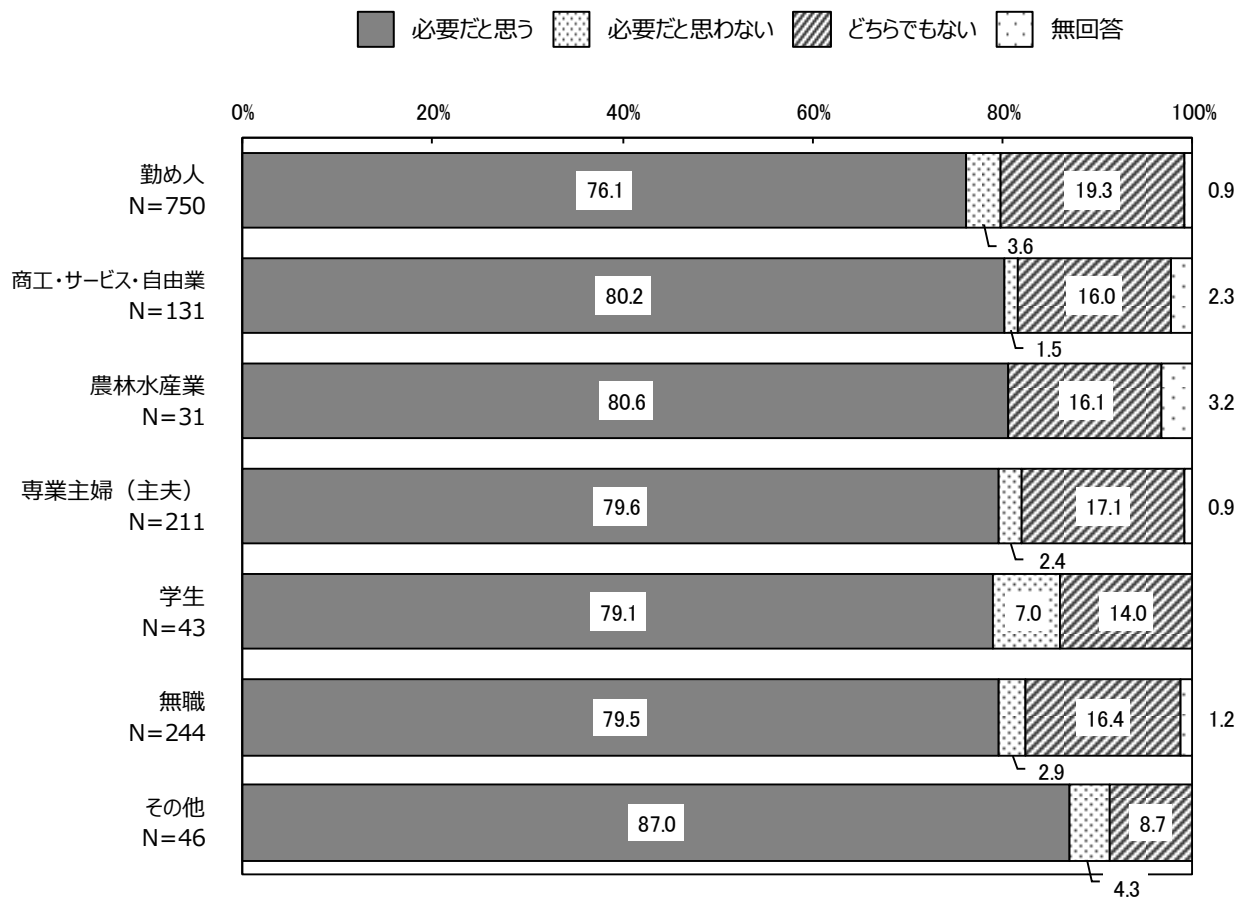


- 「必要だと思う」は 78.0% となり、「必要だと思わない」の 3.2% を 74.8 ポイント上回った。令和2年度との比較では、「必要だと思う」は 2.6 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、「必要だと思う」と回答した割合は 60 歳代の 84.5% が最も高く、次いで 70 歳以上が 81.2% となった。40 歳代では 69.6% となり、唯一 7 割を下回った。
- 職業別でみると、「必要だと思う」と回答した割合はその他の 87.0% が最も高く、次いで農林水産業が 80.6% となった。他の職業でも 7 割半ばを超えて高い。

【年代別】

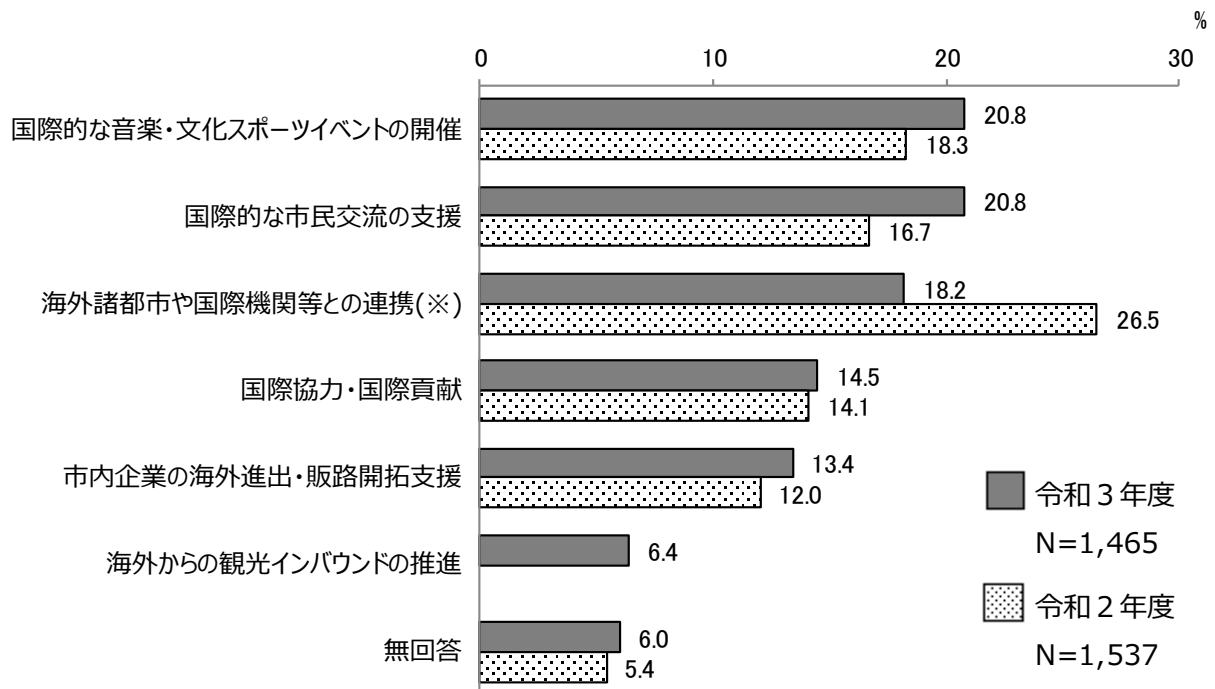


【職業別】



問 13 あなたは、浜松市が行っている国際化推進施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。（1 つだけ○を付けてください）

最も力を入れるべき取り組みは、「国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催」および「国際的な市民交流の支援」が 20.8%



※ 令和 2 年度調査では、「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」となっている。

- 「国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催」および「国際的な市民交流の支援」が 20.8%と最も高く、次いで「海外諸都市や国際機関等との連携」が 18.2%となった。令和 2 年度との比較では、選択肢の数異なるため留意が必要だが、「海外諸都市や国際機関等との連携」を除いたすべての回答で増加となった。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、市民の交流活動が非接触の形態に制限された反面、改めて、国際的なイベントの開催を通じて、人と人との交流に対する市民意識の高まりが「国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催」及び「国際的な市民交流の支援」の回答の増加につながったのではないかと推測される。
- 「海外諸都市や国際機関等との連携」の減少については、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、国と国との往来が制限され、海外渡航に伴う感染拡大に対する市民の予防意識が高まったことが影響しているものと考えられる。

【年代別・職業別】

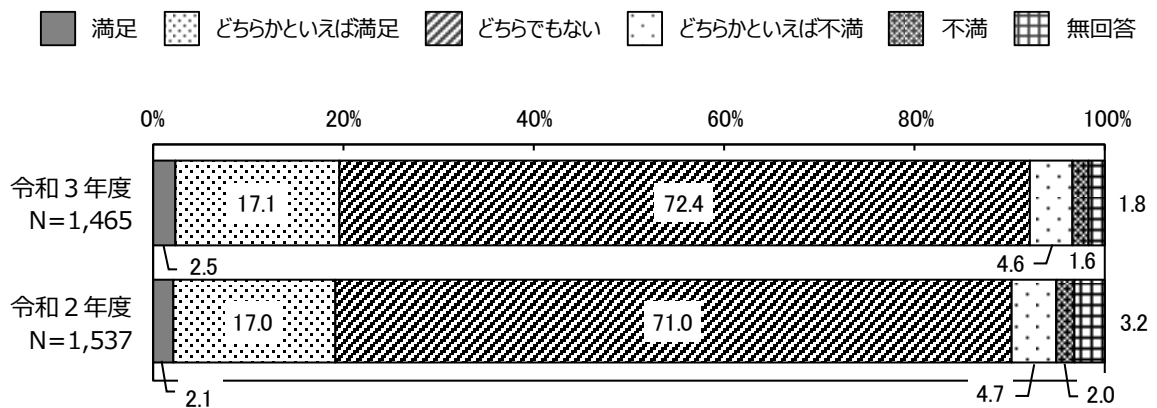
(単位：％)

		国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催	国際的な市民交流の支援	海外諸都市や国際機関等との連携	国際協力・国際貢献	市内企業の海外進出・販路開拓支援	海外からの観光インバウンドの推進	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	22.5	15.6	19.4	13.8	15.0	9.4	4.4
	30歳代 N=172	19.2	16.9	16.3	12.8	18.0	8.7	8.1
	40歳代 N=250	20.4	18.0	15.2	14.0	16.4	9.6	6.4
	50歳代 N=282	19.5	25.2	20.2	15.2	11.0	5.0	3.9
	60歳代 N=284	21.8	24.3	17.6	15.5	10.9	5.3	4.6
	70歳以上 N=314	21.7	20.4	19.4	14.6	12.1	3.5	8.3
職業別	勤め人 N=750	20.8	21.2	18.0	13.2	13.7	7.3	5.7
	商工・サービス・自由業 N=131	22.9	19.8	15.3	12.2	15.3	7.6	6.9
	農林水産業 N=31	25.8	6.5	29.0	9.7	9.7	3.2	16.1
	専業主婦（主夫） N=211	21.8	18.0	19.9	19.0	10.9	4.7	5.7
	学生 N=43	23.3	18.6	20.9	14.0	14.0	7.0	2.3
	無職 N=244	19.7	23.8	16.0	14.8	15.6	4.9	5.3
	その他 N=46	10.9	23.9	21.7	23.9	6.5	6.5	6.5

- 年代別でみると、50歳代と60歳代では「国際的な市民交流の支援」が最も高く、他の年代では「国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催」が最も高い。また、50歳代では「海外諸都市や国際機関等との連携」が唯一2割を超えた。
- 職業別でみると、商工・サービス・自由業、専業主婦、学生では「国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催」が最も高く、勤め人、無職では「国際的な市民交流の支援」が最も高い。農林水産業では「海外諸都市や国際機関等との連携」は29.0%と突出して高く、その他では「国際協力・国際貢献」と「国際的な市民交流の支援」が最も高い。

問 14 姉妹都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。例えば、公益財団法人浜松国際交流協会を通じて、国際交流や多文化共生に取り組む市民活動への助成を行っています。
(1 つだけ○を付けてください)

世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みに『満足である』は 19.6%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は 19.6%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は 6.2%となり、『満足である』が『不満である』を 13.4 ポイント上回った。一方で、「どちらでもない」は 72.4%と7割を超える。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は70歳以上の24.8%が最も高く、次いで18歳～29歳の21.9%となった。すべての年代で『満足である』が『不満である』を上回った。
- 職業別でみると、『満足である』と回答した割合は学生の34.9%が突出して高く、唯一3割を超えた。次いで専業主婦（主夫）の25.1%、無職の21.7%となった。最も低い農林水産業が6.5%となり、最も高い学生とは、28.4ポイントの差がみられた。

【年代別・職業別】

(単位：%)

		満 足	ど ち ら か と い え ば 満 足	ど ち ら で も な い	ど ち ら か と い え ば 不 満	不 満	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 N=160	5.6	16.3	73.8	2.5	0.6	1.3
	30歳代 N=172	1.7	12.8	77.9	4.7	2.9	0.0
	40歳代 N=250	2.4	14.8	74.8	4.8	2.4	0.8
	50歳代 N=282	1.1	17.4	76.2	3.9	0.7	0.7
	60歳代 N=284	1.4	17.6	71.5	4.9	2.8	1.8
	70歳以上 N=314	3.8	21.0	64.0	6.1	0.6	4.5
職 業 別	勤め人 N=750	1.7	15.1	75.1	5.2	1.9	1.1
	商工・サービス・自由業 N=131	5.3	16.0	65.6	6.9	2.3	3.8
	農林水産業 N=31	0.0	6.5	90.3	0.0	3.2	0.0
	専業主婦（主夫） N=211	1.9	23.2	68.2	3.8	1.4	1.4
	学生 N=43	9.3	25.6	62.8	2.3	0.0	0.0
	無職 N=244	3.3	18.4	71.3	3.3	0.8	2.9
	その他 N=46	2.2	17.4	71.7	4.3	2.2	2.2

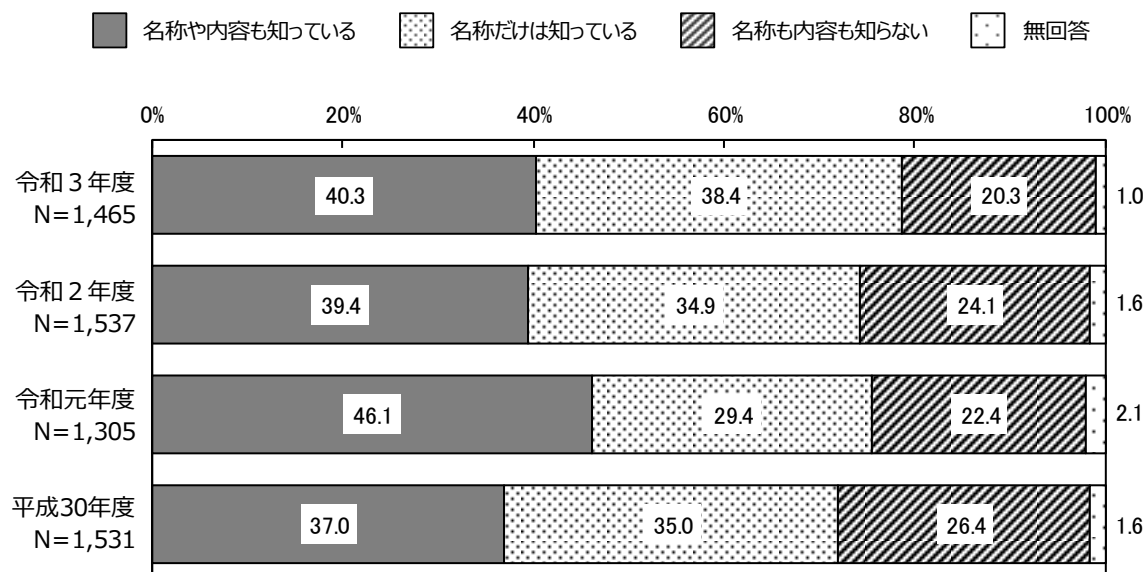
2-5 ユニバーサルデザイン・男女共同参画について

問 15 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

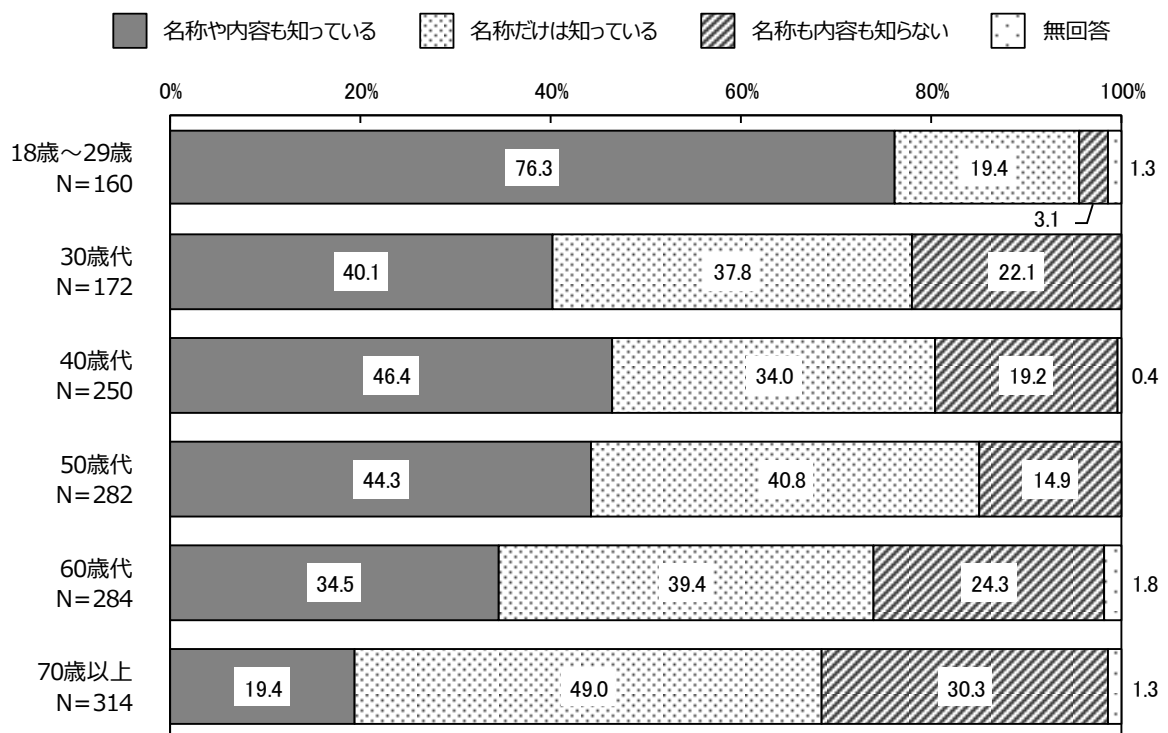
※ ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。

「ユニバーサルデザイン」を知っている人は 78.7%

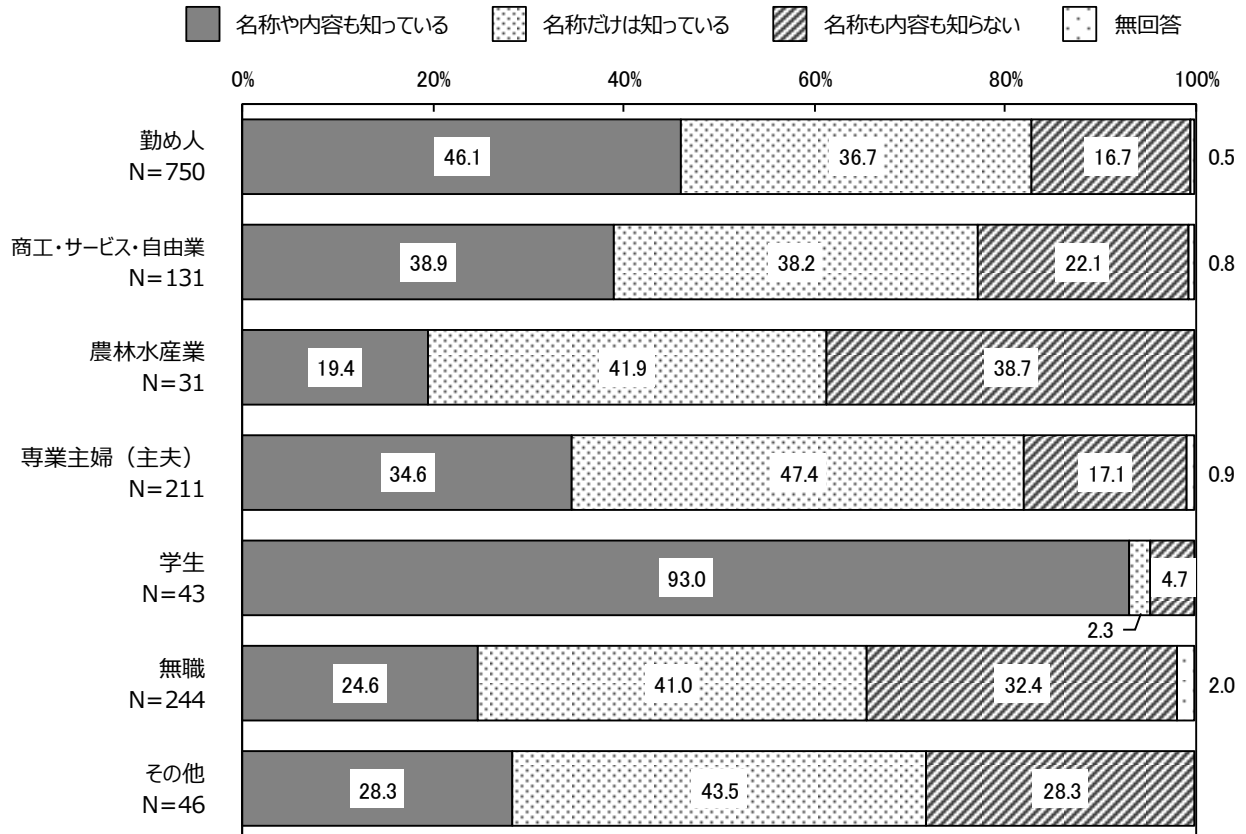


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせたユニバーサルデザインの『認知度』は 78.7% となり、令和2年度と比較して 4.4 ポイントの増加となった。ユニバーサルデザインの理解度である「名称や内容も知っている」は 40.3% となり、令和2年度と比較して 0.9 ポイントの増加となった。令和2年度との比較では、いずれも増加となった。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は 18 歳～29 歳が 76.3% となり、他の年代と比較して高く、これは、学校教育においてユニバーサルデザイン学習が定着してきた成果であると考えられる。また、30 歳代・40 歳代・50 歳代についても 4 割以上と高く、学校教育における子供を通じた保護者への普及が要因であると推察される。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は、学生が 93.0% と最も高く、次いで勤め人の 46.1% となった。

【年代別】

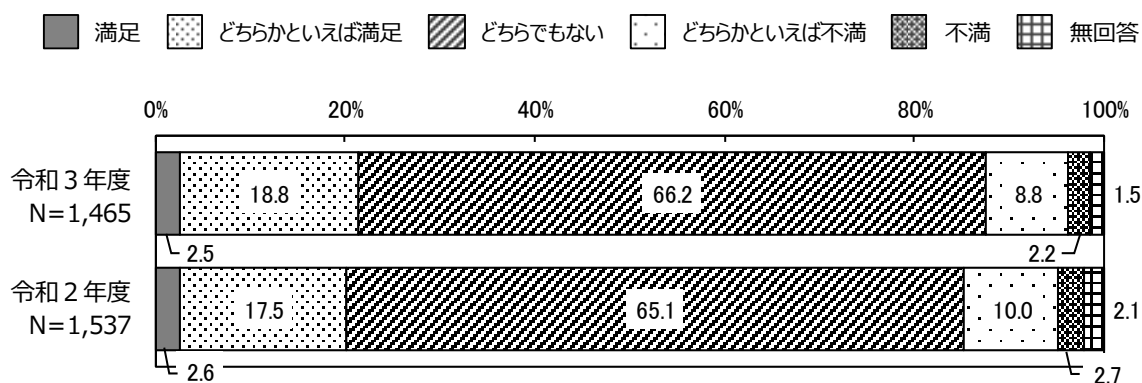


【職業別】



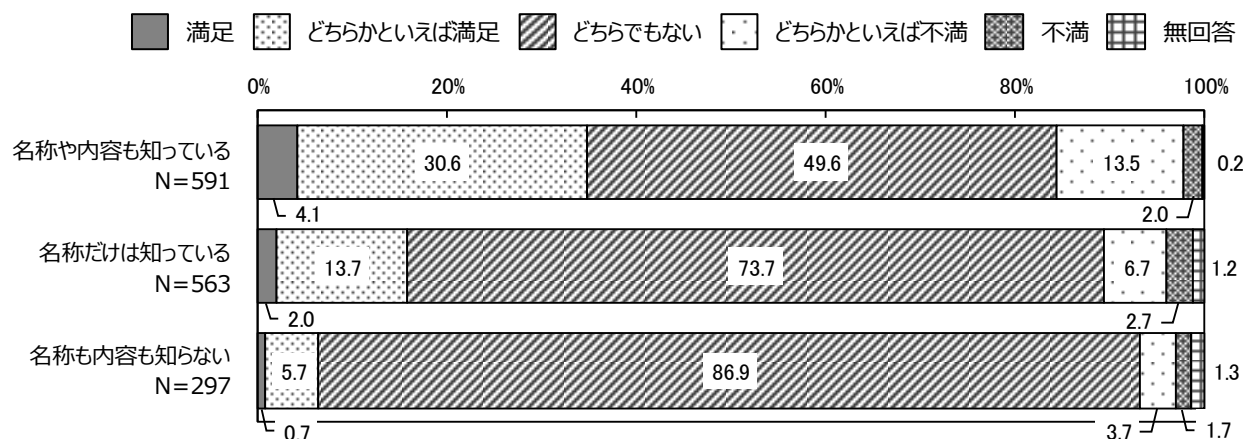
問 16 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくりについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

ユニバーサルデザインによるまちづくりに『満足である』人は21.3%

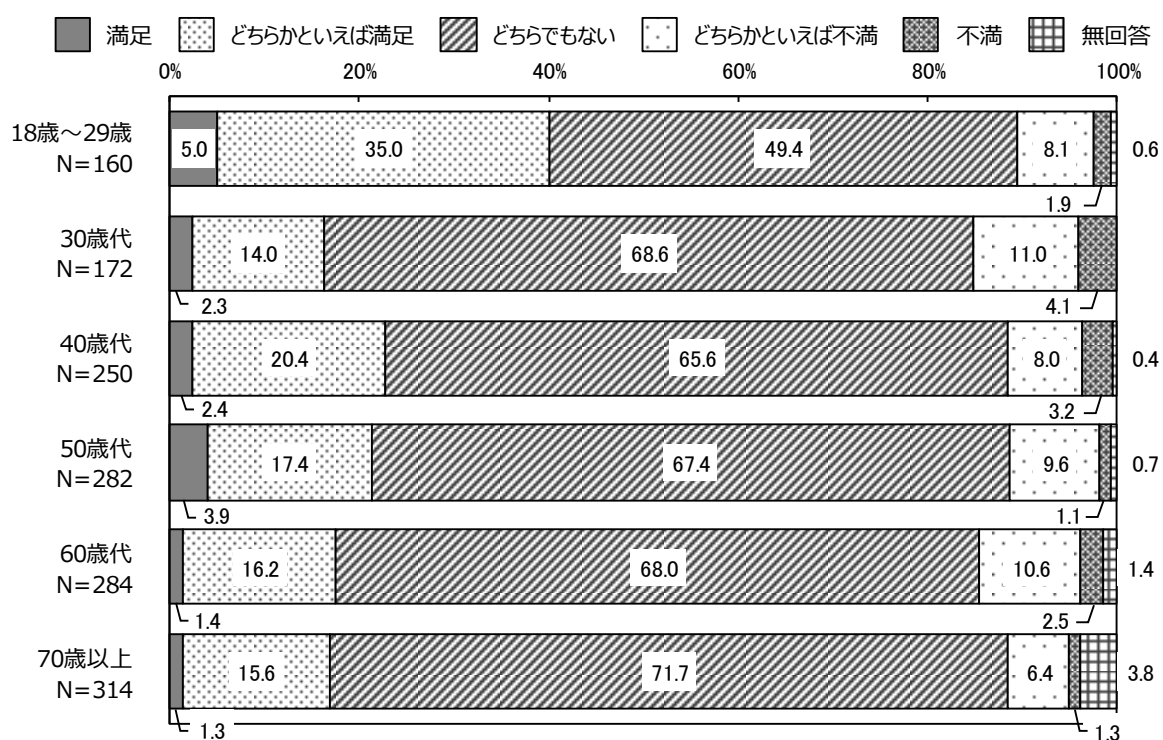


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は21.3%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は11.0%となり、『満足である』が『不満である』を10.3ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は66.2%を占める。令和2年度との比較では、少し改善された結果となった。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は18歳～29歳の40.0%が最も高く、次いで40歳代が22.8%となった。一方、30歳代が16.3%と最も低い結果となった。
- 職業別でみると、『満足である』と回答した割合は学生が48.8%と最も高かった。農林水産業では12.9%と最も低い結果となった。
- ユニバーサルデザインの認知度別にみると、「名称や内容も知っている」層の『満足である』は34.7%となり、「名称だけは知っている」層(15.7%)や「名称も名前も知らない」層(6.4%)の『満足である』と比較して高く、認知度が高いほど、満足度も高い傾向となったことから、ユニバーサルデザインにおける認知や理解を深めていく取り組みを進める必要がある。

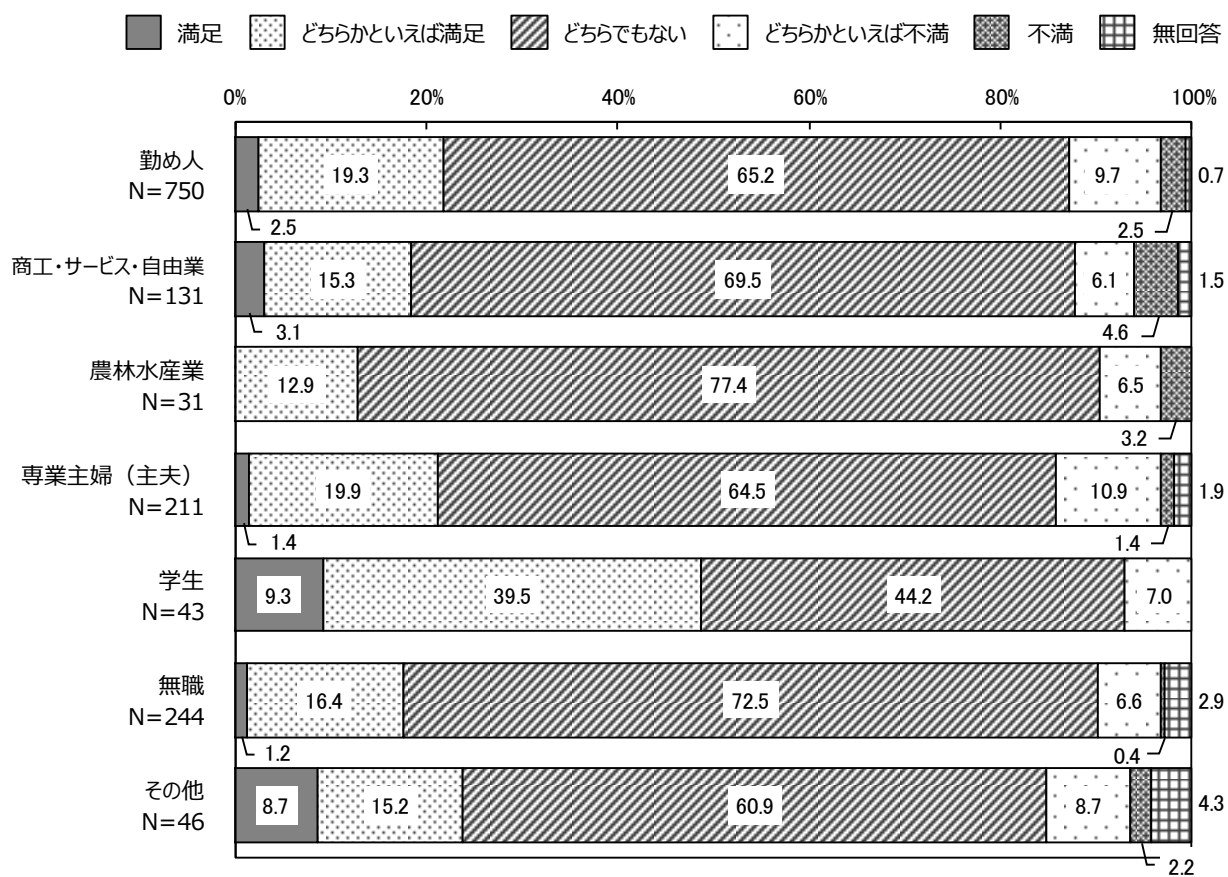
【問 15 ユニバーサルデザインの認知度別】



【年代別】

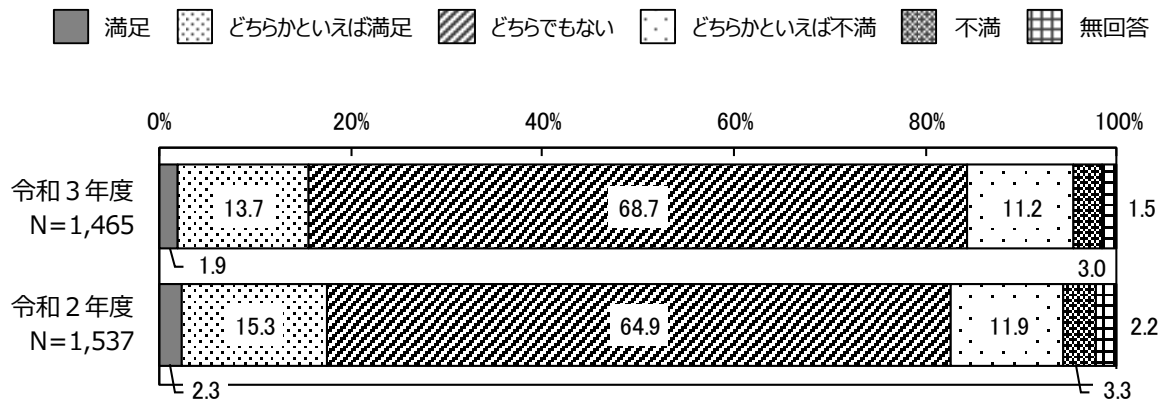


【職業別】



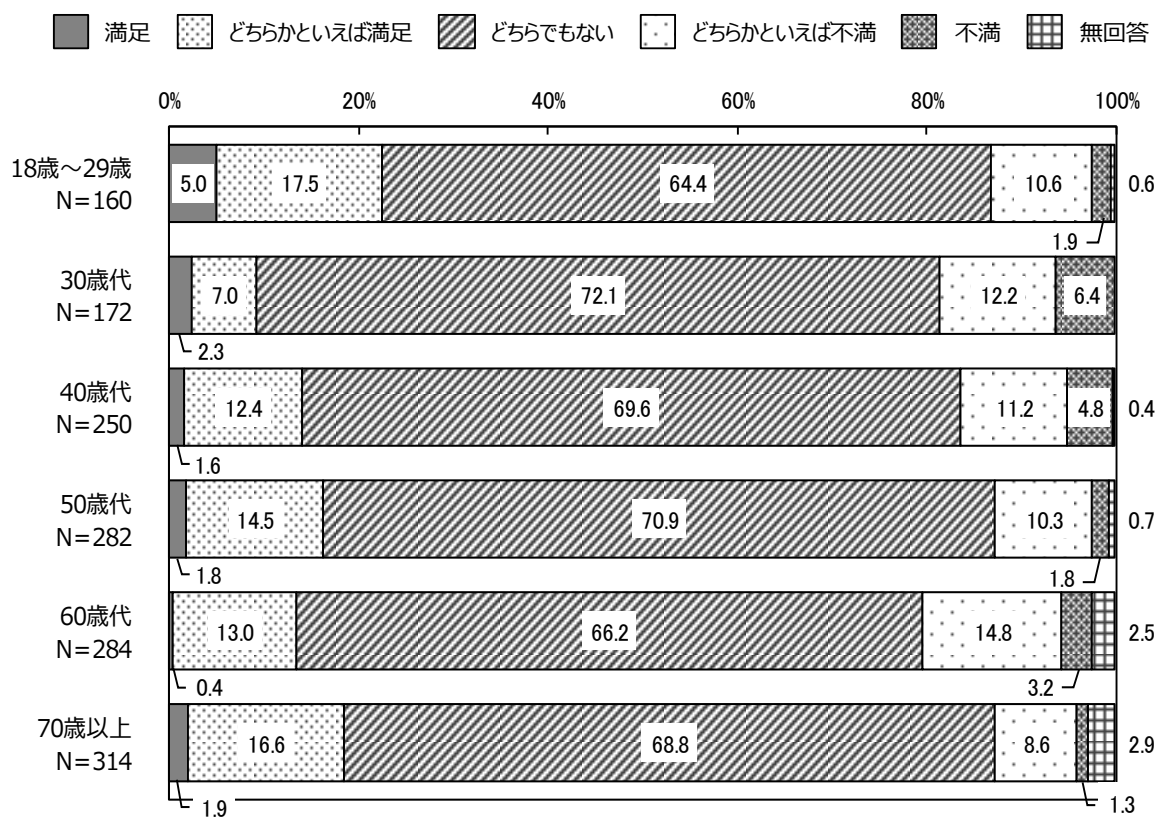
問 17 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて『満足である』人は15.6%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は15.6%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は14.2%となり、『満足である』が『不満である』を1.4ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は68.7%を占める。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は18歳～29歳の22.5%が最も高く、次いで70歳以上が18.5%となった。最も低い30歳代が9.3%となり、最も高い18歳～29歳とは、13.2ポイントの差がみられた。
- 「どちらでもない」が68.7%と非常に大きな割合を占めることから、「男女共同参画社会の実現」がイメージしにくいことなどの理由が推察される。また、年代別において、『満足である』割合が29歳以下の若年層で最も高いのに対し、30・40歳代では低いことから、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍等に関するさらなる取組を進めるとともに、より一層の男女共同参画推進の理解啓発に努めていく。

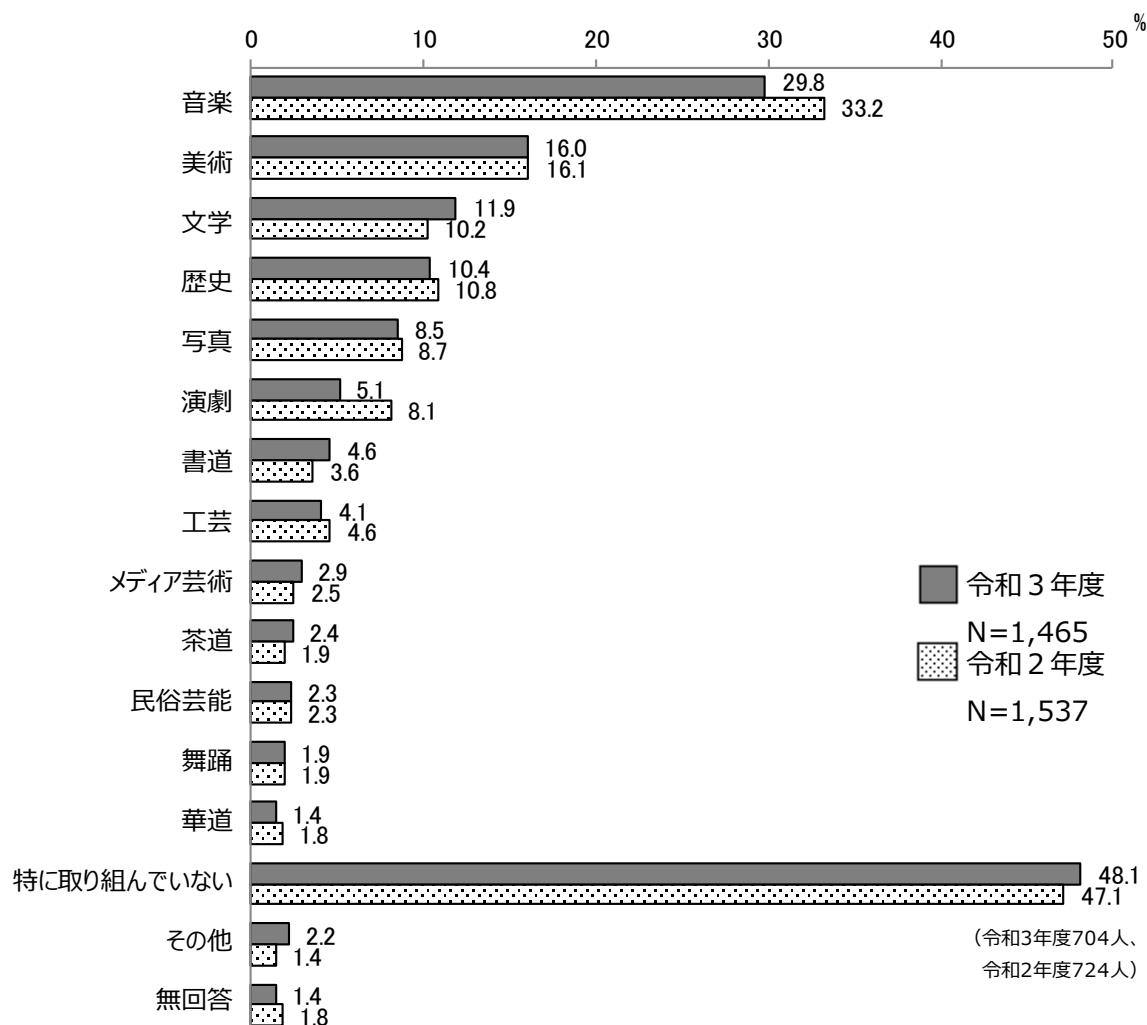
【年代別】



2-6 文化振興について

問 18 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

過去1年間に取り組んだ文化芸術は「音楽」が29.8%



- 取り組んだ芸術は、「音楽」が29.8%と最も高く、次いで「美術」が16.0%、「文学」が11.9%となった。一方で、「特に取り組んでいない」については48.1%と半数に近い回答結果となった。令和2年度との比較では、最も差がみられたのは「音楽」が3.4ポイント減少、次いで「演劇」が3.0ポイント減少、「文学」が1.7ポイント増加となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「音楽」が最も高い。特に18歳～29歳では50.6%と唯一5割を超えた。また「写真」においても23.8%と、他の年代と比較して高い。
- 職業別でみると、すべての職業で「音楽」が最も高い。特に学生では62.8%と突出して高い。「特に取り組んでいない」と回答した割合はその他の60.9%が最も高く、次いで無職の55.3%となった。

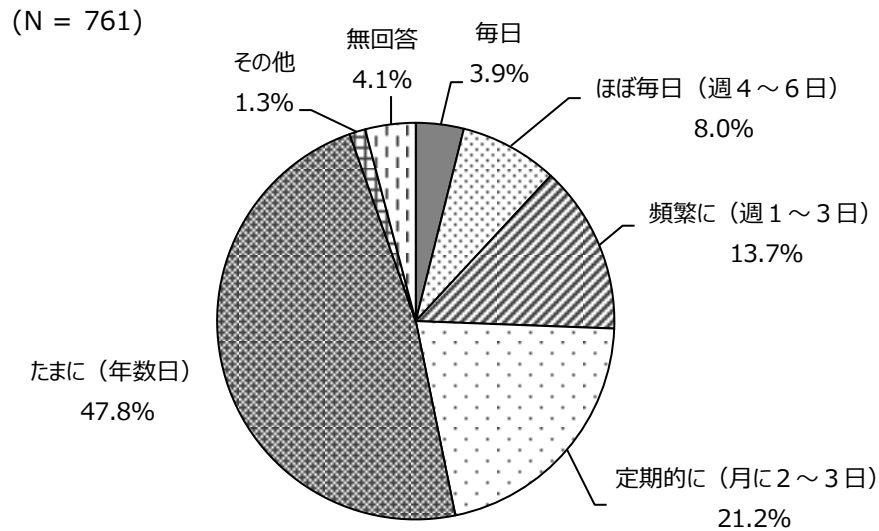
【年代別・職業別】

(単位：%)

		音楽	美術	文学	歴史	写真	演劇	書道	工芸	メディア芸術	茶道	民俗芸能	舞踊	華道	特に取り組んでいない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	50.6	20.0	20.0	13.1	23.8	8.8	5.6	3.8	5.6	1.9	1.9	3.1	0.0	30.0	3.1	0.6
	30歳代 N=172	33.7	11.6	12.2	9.9	15.1	2.9	2.3	1.2	2.3	1.2	1.7	1.2	0.6	50.6	0.0	0.0
	40歳代 N=250	32.4	14.4	11.6	9.6	6.0	4.0	4.4	4.0	6.0	1.6	2.4	2.4	0.8	49.2	0.8	0.0
	50歳代 N=282	25.5	15.6	11.0	11.7	4.3	3.5	3.5	3.9	3.2	2.8	1.1	1.8	1.8	52.5	2.8	1.1
	60歳代 N=284	27.1	20.4	14.8	10.2	4.2	6.3	5.3	4.2	1.1	4.9	2.5	2.5	2.1	44.7	1.8	2.5
	70歳以上 N=314	21.0	14.3	6.4	8.9	6.7	5.4	5.7	6.1	0.6	1.3	3.5	1.0	1.9	54.5	3.8	2.5
職業別	勤め人 N=750	31.7	15.9	11.5	11.2	9.9	4.5	4.0	3.5	3.3	2.0	2.4	2.3	0.9	47.5	1.7	0.7
	商工・サービス・自由業 N=131	26.7	16.0	13.0	10.7	6.9	2.3	6.9	6.1	1.5	3.1	1.5	1.5	3.1	50.4	2.3	2.3
	農林水産業 N=31	32.3	25.8	6.5	6.5	6.5	9.7	3.2	3.2	0.0	3.2	3.2	3.2	0.0	48.4	0.0	0.0
	専業主婦（主夫） N=211	29.9	19.9	13.7	8.1	6.2	7.6	4.7	2.8	3.8	3.3	2.4	0.9	2.4	44.5	1.4	1.9
	学生 N=43	62.8	23.3	27.9	14.0	14.0	4.7	0.0	4.7	7.0	0.0	2.3	2.3	0.0	18.6	4.7	2.3
	無職 N=244	18.9	11.5	9.4	9.8	7.0	5.7	4.5	5.3	0.8	2.0	2.5	1.6	1.2	55.3	3.3	2.0
	その他 N=46	28.3	10.9	10.9	8.7	4.3	4.3	13.0	6.5	2.2	4.3	0.0	2.2	2.2	60.9	4.3	2.2

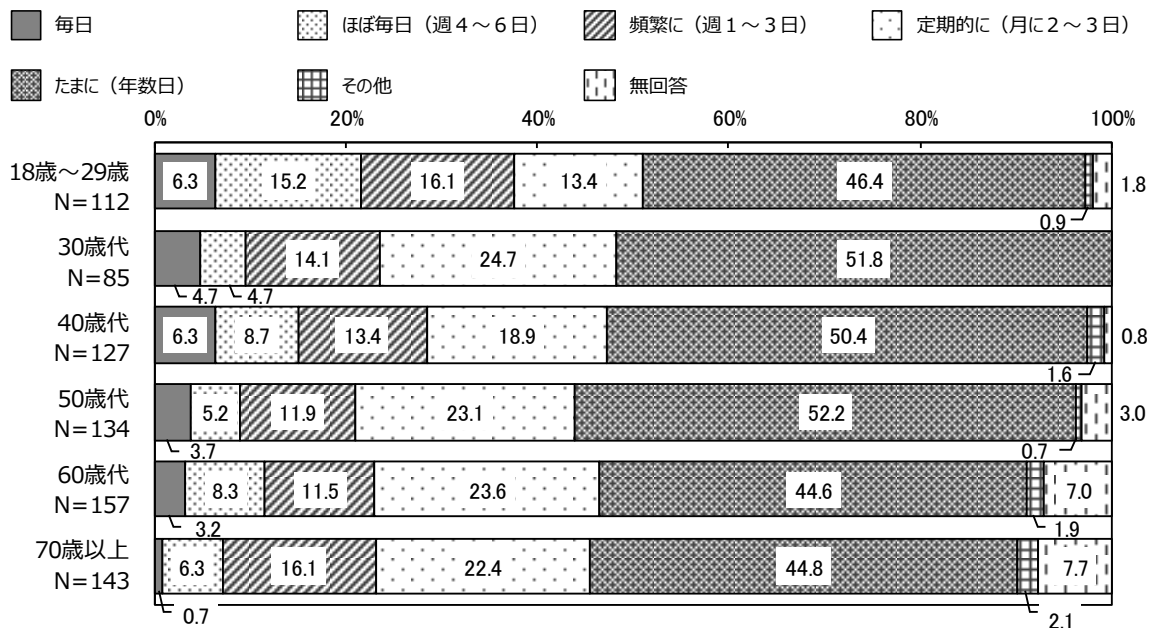
問 19 あなたは、問 18 で回答した文化芸術についてどのくらいの頻度で取り組んでいますか。（問 18 で選んだもののうち最も力を入れているものに関して 1 つだけ○を付けてください）

文化芸術に取り組む頻度は「たまに（年数日）」が 47.8%



- 「たまに（年数日）」が 47.8%と最も高く、次いで「定期的に（月に2～3日）」が 21.2%、「頻繁に（週1～3日）」が 13.7%となった。取り組む頻度が少ないほど、回答割合は高い傾向がみられた。『月2日以上』は 46.8%となった。
- 年代別でみると、『月2日以上』と回答した割合は、18 歳～29 歳が 51.0%と最も高く、次いで 30 歳代の 48.2%となった。最も低い 50 歳代が 43.9%となり、最も高い 18 歳～29 歳とは、7.1 ポイントの差がみられた。

【年代別】



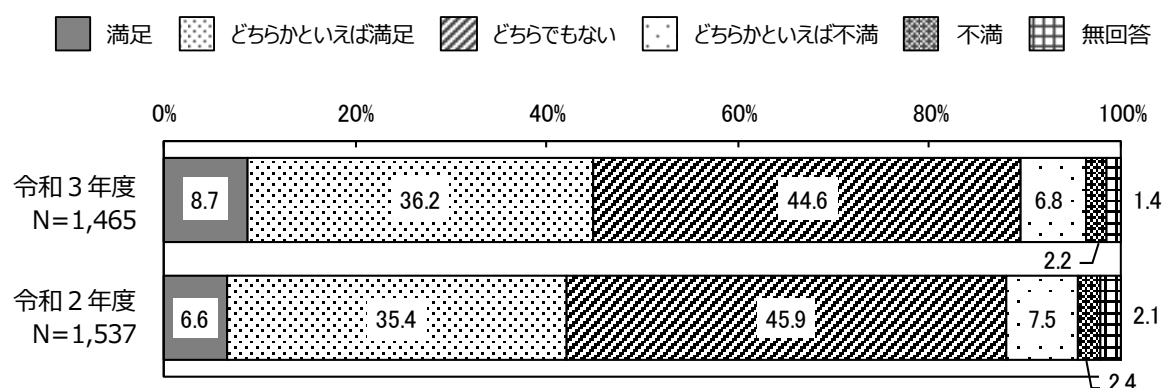
【問 18 過去1年間に取り組んだ文化芸術別】

(単位: %)

	毎日	(週4~6日)	(週1~3日)	(月に2~3日)	(年数日)	その他	無回答
過去1年間に取り組んだ文化芸術							
文学 N=175	6.3	18.9	27.4	21.7	25.7	0.0	0.0
音楽 N=435	6.0	10.1	14.9	21.1	46.2	1.1	0.5
美術 N=235	3.8	6.4	11.9	19.6	56.2	1.3	0.9
写真 N=124	4.8	10.5	16.1	25.0	42.7	0.0	0.8
演劇 N=74	1.4	9.5	14.9	23.0	50.0	1.4	0.0
舞踊 N=28	0.0	7.1	21.4	42.9	25.0	3.6	0.0
民俗芸能 N=33	3.0	3.0	12.1	30.3	48.5	0.0	3.0
茶道 N=34	11.8	2.9	11.8	38.2	32.4	2.9	0.0
華道 N=20	10.0	0.0	10.0	55.0	20.0	5.0	0.0
書道 N=66	3.0	9.1	16.7	37.9	30.3	0.0	3.0
工芸 N=60	3.3	6.7	20.0	31.7	35.0	1.7	1.7
メディア芸術 N=42	14.3	23.8	14.3	23.8	21.4	2.4	0.0
歴史 N=152	2.6	8.6	13.2	21.1	52.0	2.0	0.7
その他 N=31	3.2	6.5	9.7	29.0	25.8	6.5	19.4

問 20 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。（1つだけ○を付けてください）

音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組みについて『満足である』は44.9%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は44.9%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は9.0%となり、『満足である』が『不満である』を35.9ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は44.6%と半数に近い。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は18歳～29歳の49.4%が最も高く、次いで40歳代の48.8%となった。すべての年代が4割台となり、半数を下回った。

【年代別】

(単位：%)

		満 足	満 足 ど ち ら か と い え ば	ど ち ら で も な い	不 満 ど ち ら か と い え ば	不 満	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 N=160	16.9	32.5	44.4	3.1	1.9	1.3
	30歳代 N=172	5.8	36.0	48.8	5.8	3.5	0.0
	40歳代 N=250	9.2	39.6	39.2	8.4	2.8	0.8
	50歳代 N=282	6.7	34.0	49.6	8.5	0.7	0.4
	60歳代 N=284	6.3	42.3	38.4	7.7	2.8	2.5
	70歳以上 N=314	9.9	32.2	48.4	5.4	1.9	2.2

【問 18 過去 1 年間に取り組んだ文化芸術別】

(単位：％)

		満 足	満 足 ど ち ら か と い え ば	ど ち ら で も な い	不 満 ど ち ら か と い え ば	不 満	無 回 答
過 去 1 年 間 に 取 り 組 ん だ 文 化 芸 術 別	文学 N=175	13.1	48.0	28.0	6.3	4.6	0.0
	音楽 N=435	14.4	46.1	29.1	8.5	1.8	0.0
	美術 N=235	12.3	48.1	26.0	9.4	3.8	0.4
	写真 N=124	14.5	41.9	33.1	7.3	2.4	0.8
	演劇 N=74	8.1	52.7	25.7	10.8	2.7	0.0
	舞踊 N=28	14.3	32.1	28.6	17.9	7.1	0.0
	民俗芸能 N=33	12.1	57.6	21.2	6.1	3.0	0.0
	茶道 N=34	14.3	42.9	25.7	11.4	5.7	0.0
	華道 N=20	15.0	40.0	20.0	15.0	5.0	5.0
	書道 N=66	11.9	43.3	28.4	13.4	3.0	0.0
	工芸 N=60	10.0	36.7	40.0	8.3	5.0	0.0
	メディア芸術 N=42	16.7	42.9	35.7	4.8	0.0	0.0
	歴史 N=152	14.5	44.7	31.6	5.9	2.0	1.3
	その他 N=31	18.8	31.3	37.5	6.3	6.3	0.0

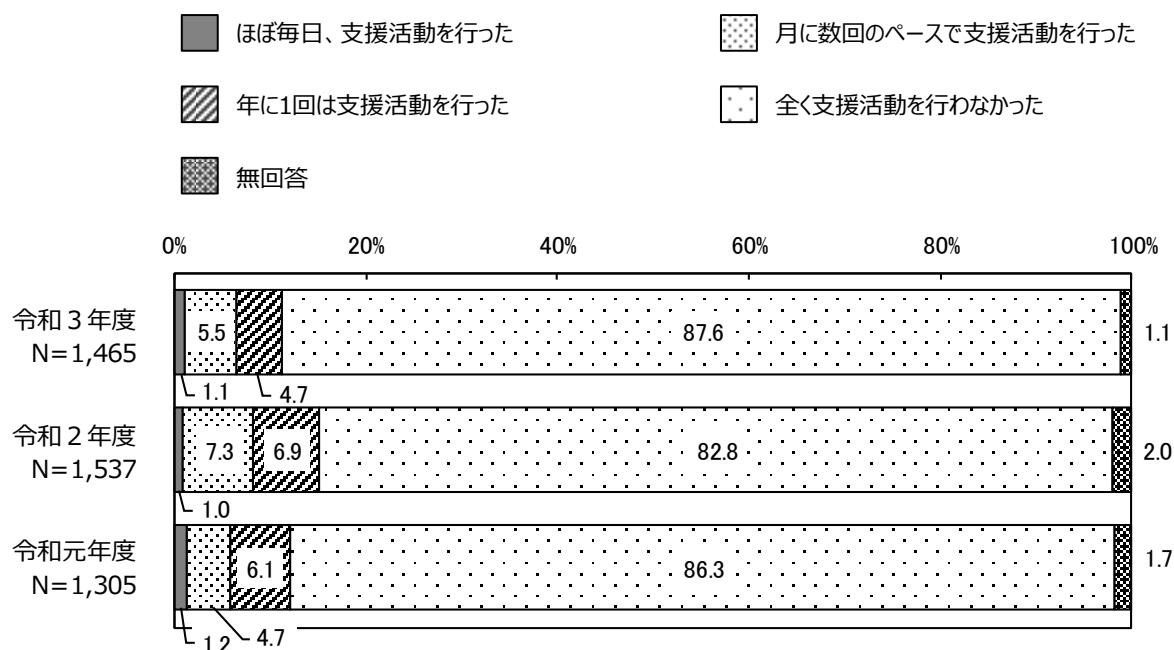
2-7 スポーツの推進について

問 21 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

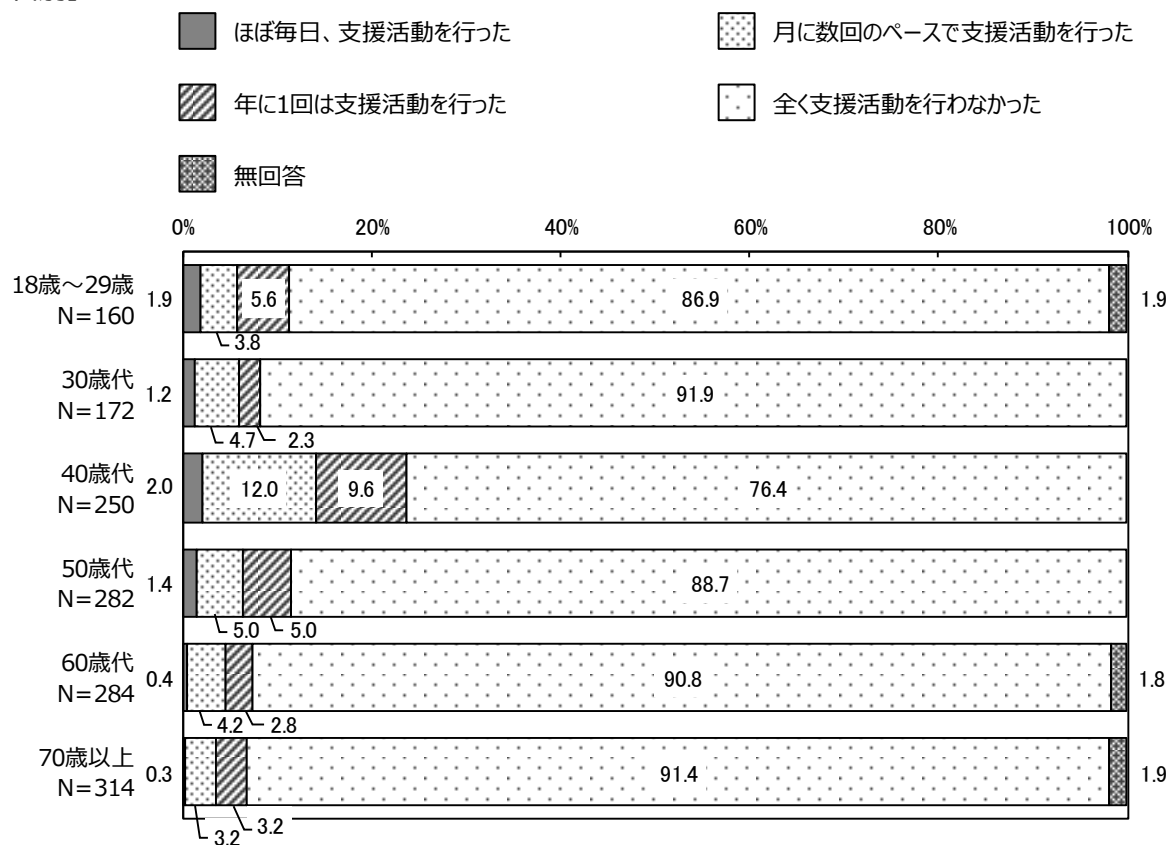
(1つだけ○を付けてください)

スポーツ活動の支援を『年1回以上』行った人は11.3%

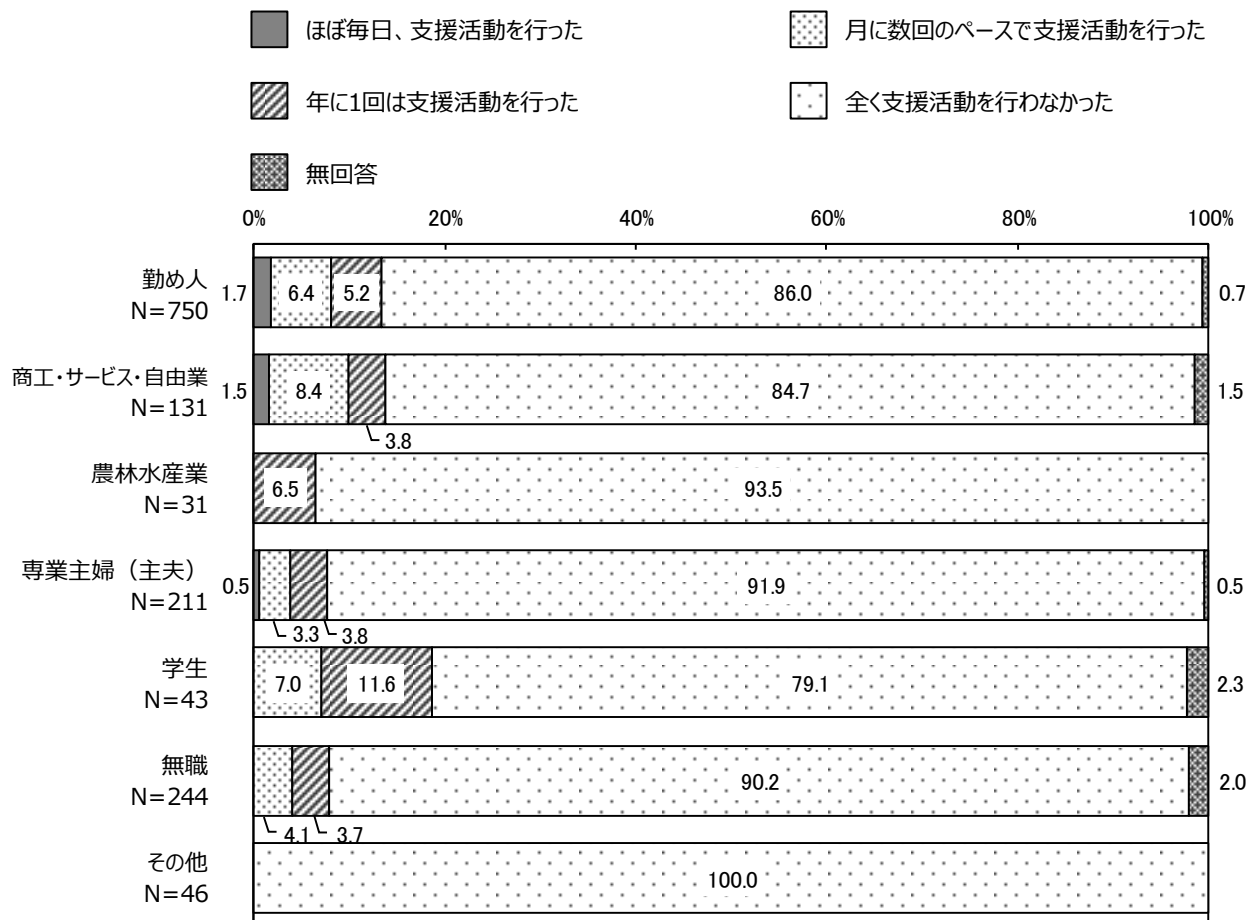


- 「ほぼ毎日、支援活動を行った」、「月に数回のペースで支援活動を行った」、「年に1回は支援活動を行った」を合わせた『年1回以上』は11.3%となった。第2期浜松市スポーツ推進計画では、年1回以上のスポーツ支援実施率35%程度を目標としているが、推進計画の目標を23.7ポイント下回った。令和2年度との比較では、『年1回以上』は3.9ポイント減少となった。
- 年代別でみると、『年1回以上』と回答した割合は40歳代の23.6%が最も高く、次いで50歳代の11.4%、18歳～29歳の11.3%となった。他の年代では「全く支援活動を行わなかった」と回答した割合が9割を超えた。
- 職業別でみると、『年1回以上』と回答した割合は学生の18.6%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業の13.7%、勤め人の13.3%となった。他の職業では「全く支援活動を行わなかった」と回答した割合が9割を超えた。
- 多くの年代に支援の動きが広がるよう、スポーツイベントなどにおけるボランティア活動の醸成や指導の支援者を増やす取り組みも求められる。

【年代別】



【職業別】

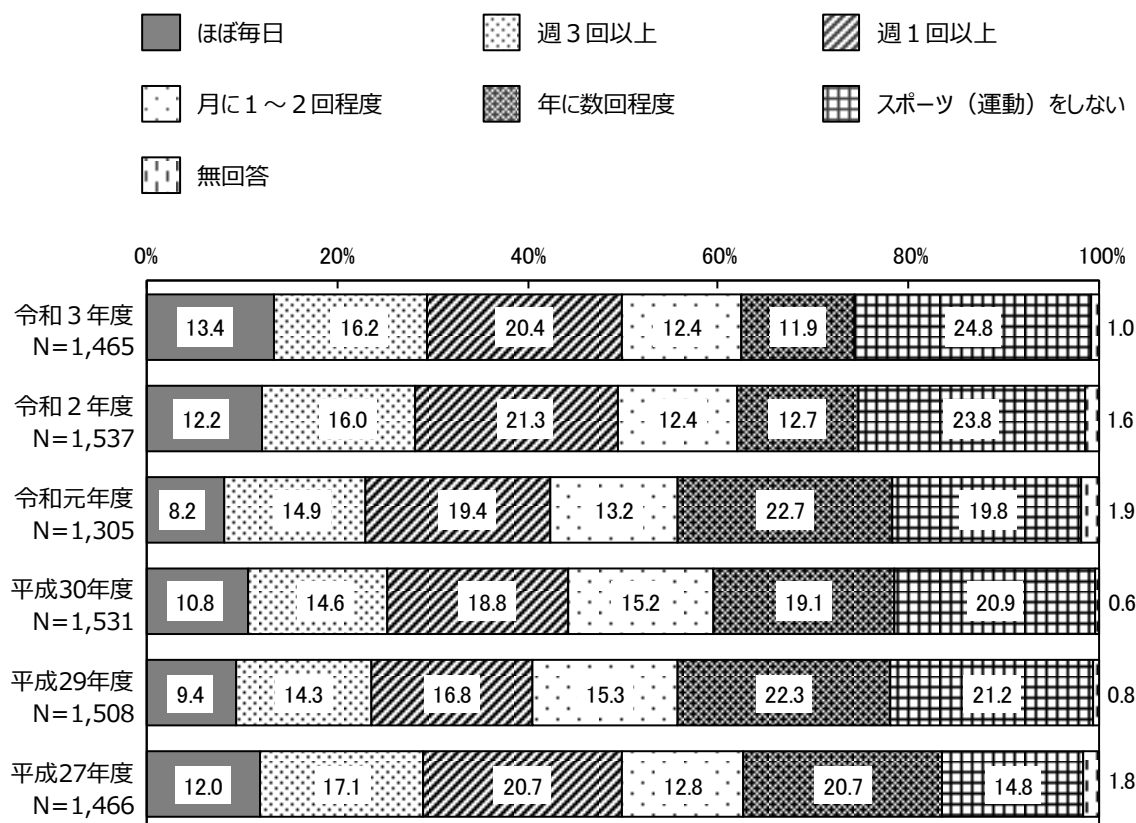


問 22 あなたは、過去1年間でスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。

身体を動かすことを目的としたもの（ウォーキングや階段昇り降りなど）から本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

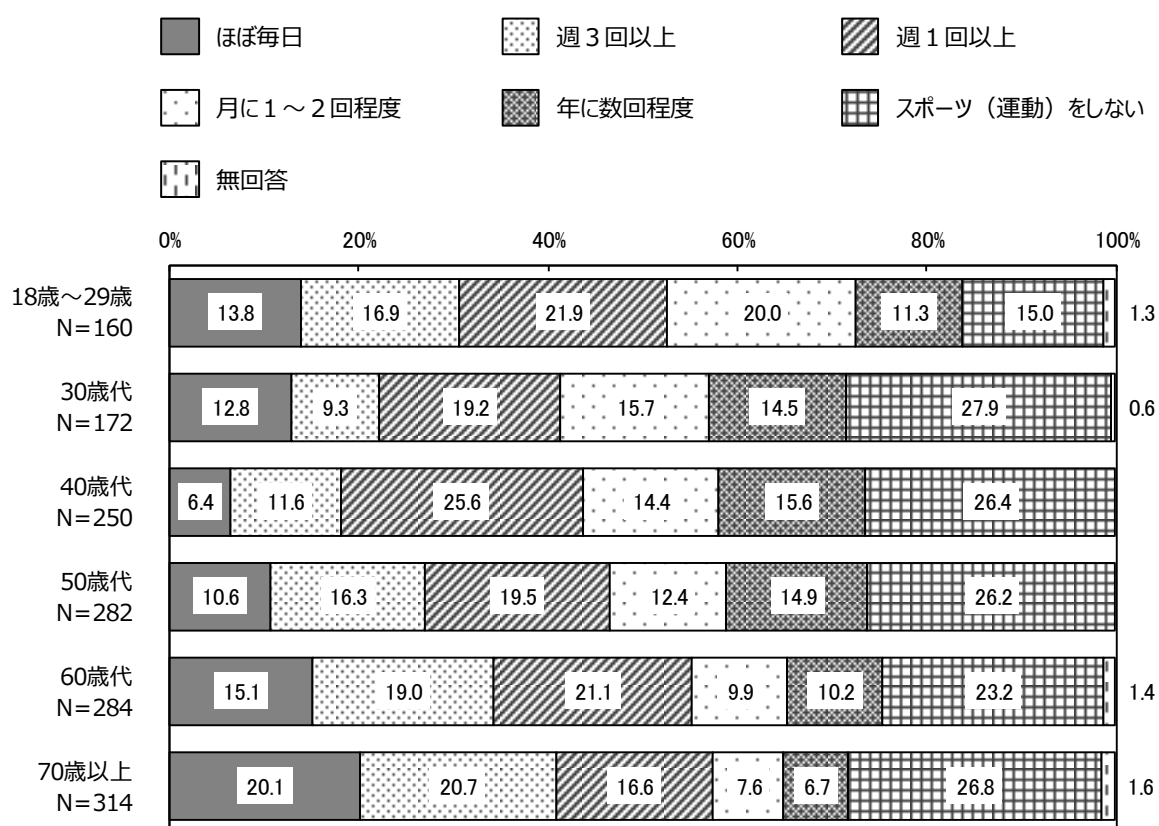
（1つだけ○を付けてください）

スポーツを『週1回以上』行っている人は50.0%

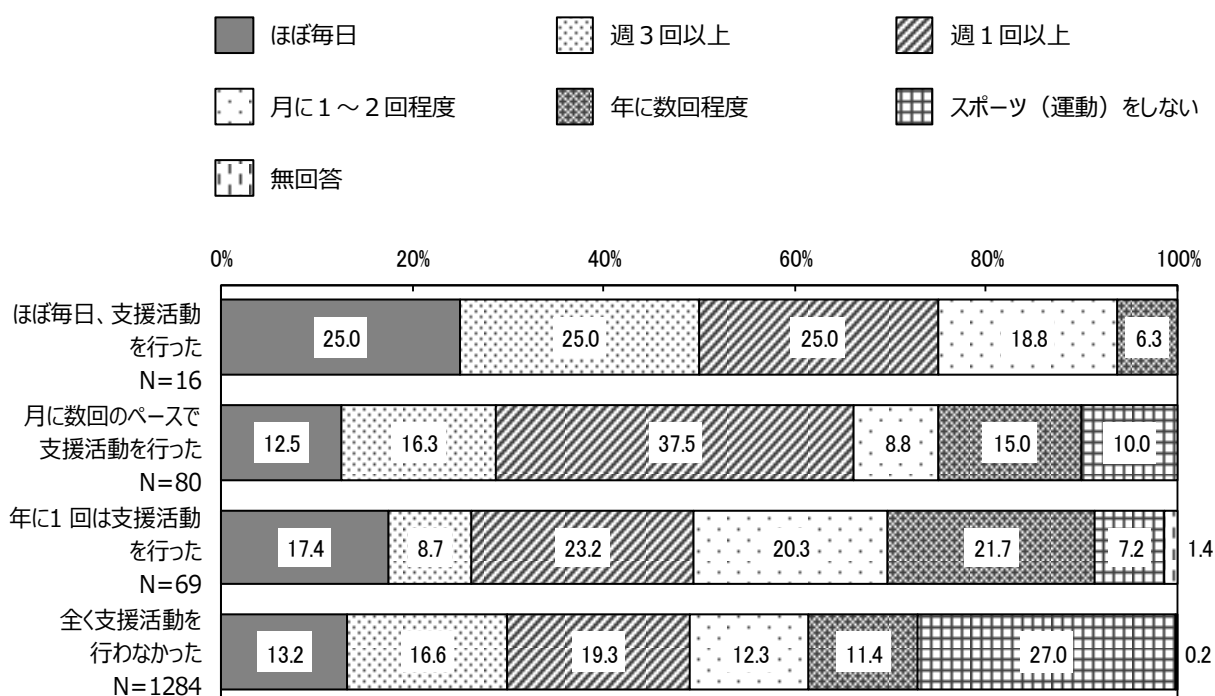


- 「ほぼ毎日」（13.4%）、「週3回以上」（16.2%）を合わせた『週3回以上』が29.6%、『週3回以上』と「週1回以上」（20.4%）を合わせた『週1回以上』は50.0%、「スポーツ（運動）をしない」は24.8%となった。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。第2期浜松市スポーツ推進計画では、週1回以上のスポーツ実施率65%程度、週3回以上のスポーツ実施率30%程度を数値目標としているが、週1回以上は15.0ポイント、週3回以上は0.4ポイント目標値を下回った。
- 年代別でみると、『週3回以上』と回答した割合は70歳以上の40.8%が最も高く、次いで60歳代の34.1%となった。最も低い40歳代が18.0%と2割を下回り、最も高い70歳以上とは、22.8ポイントの差がみられた。

【年代別】

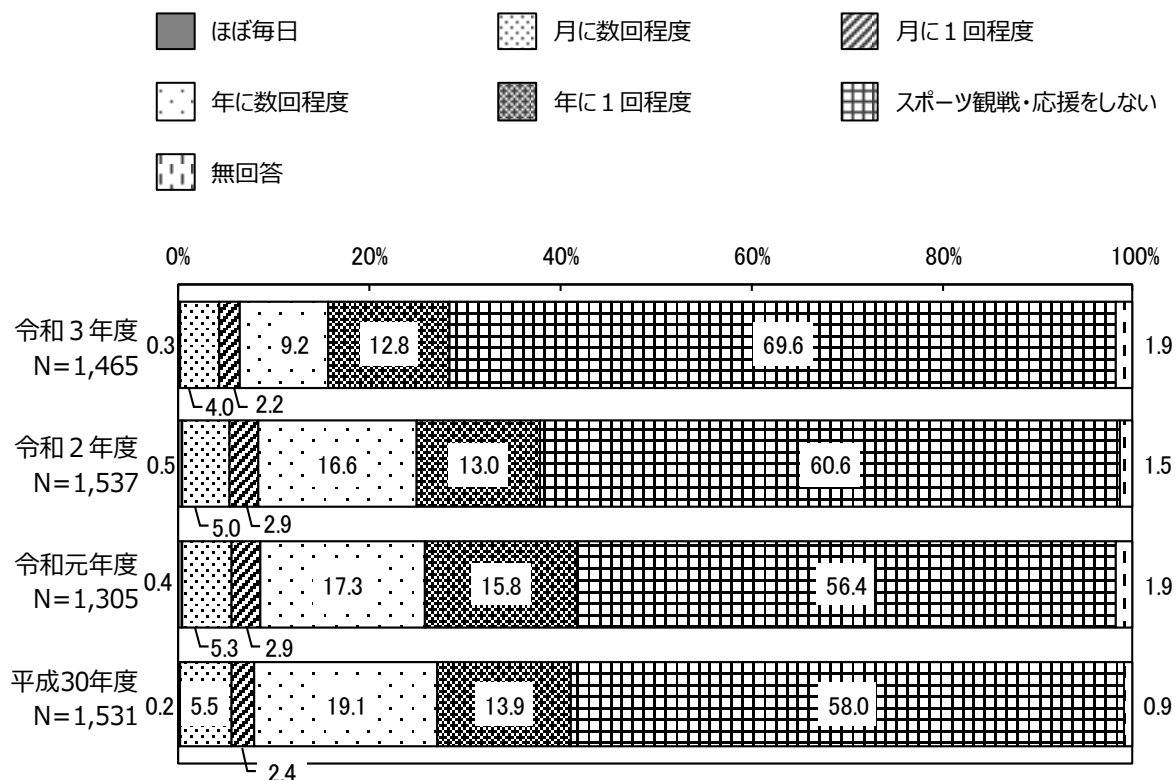


【問 21 過去1年間のスポーツ活動の支援頻度別】



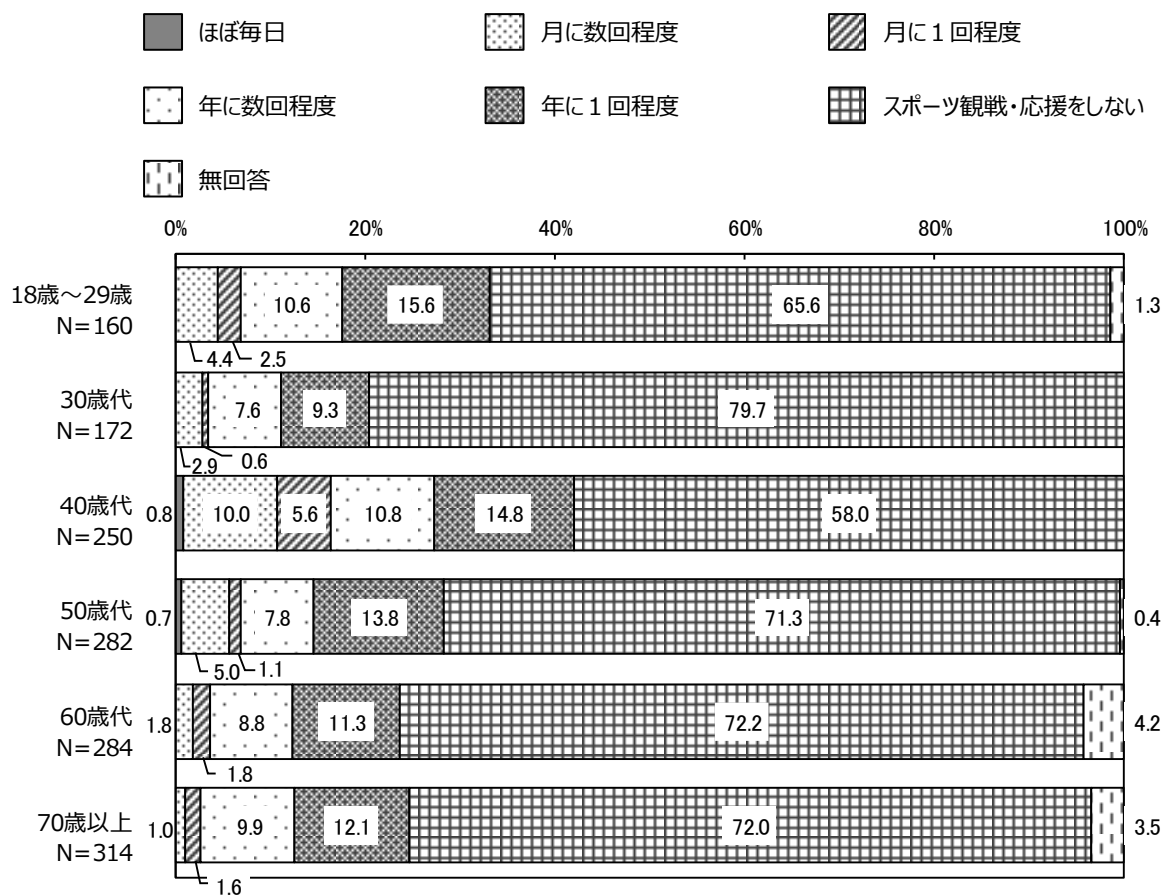
問 23 あなたは、過去 1 年間で実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含みます。（1 つだけ○を付けてください）

スポーツ観戦・応援を『年 1 回以上』行った人は 28.5%

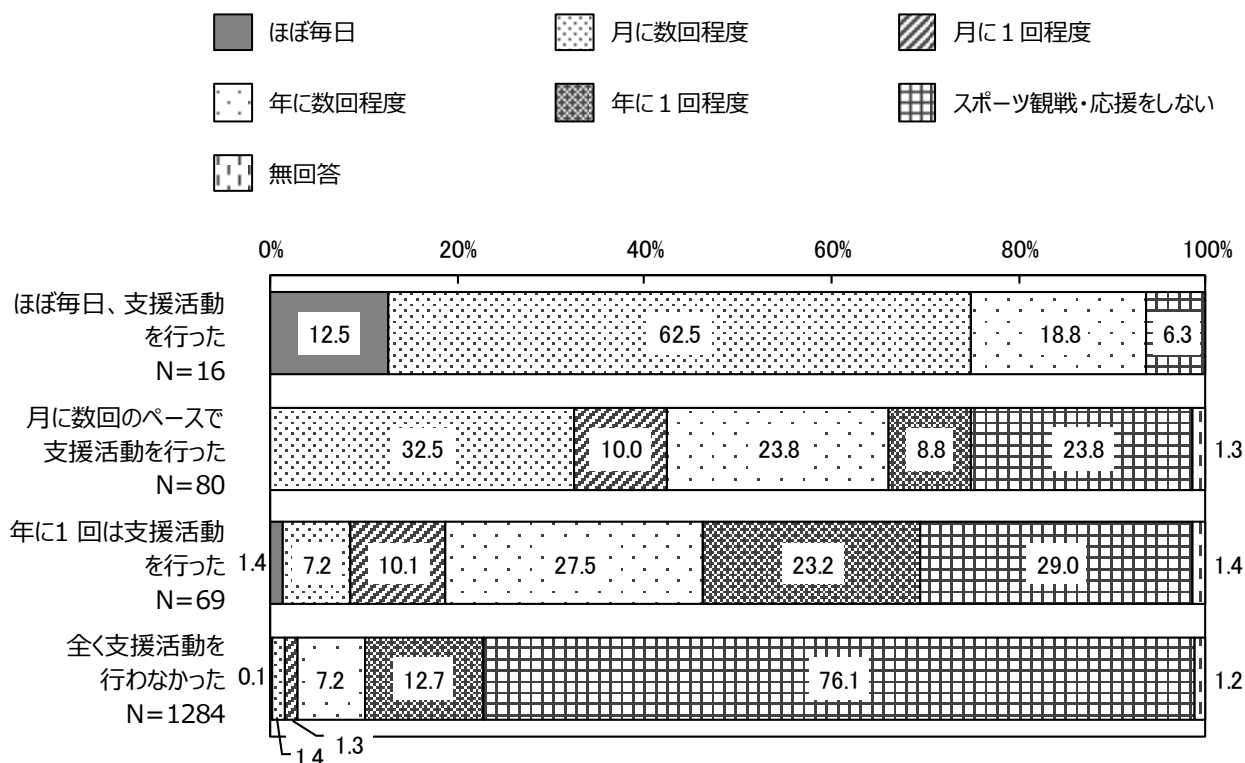


- 「ほぼ毎日」、「月に数回程度」、「月に 1 回程度」、「年に数回程度」、「年に 1 回程度」を合わせた『年 1 回以上』は 28.5%となった。第 2 期浜松市スポーツ推進計画では、年 1 回以上のスポーツ観戦・応援実施率 50%程度を目標としているが、推進計画の目標を 21.5 ポイント下回った。また、令和 2 年度との比較では『年 1 回以上』は 9.5 ポイント下回る回答結果となった。
- 年代別でみると、『年 1 回以上』は 40 歳代の 42.0%が最も高く、次いで 18 歳～29 歳の 33.1%となった。他の年代では 20%台となった。

【年代別】



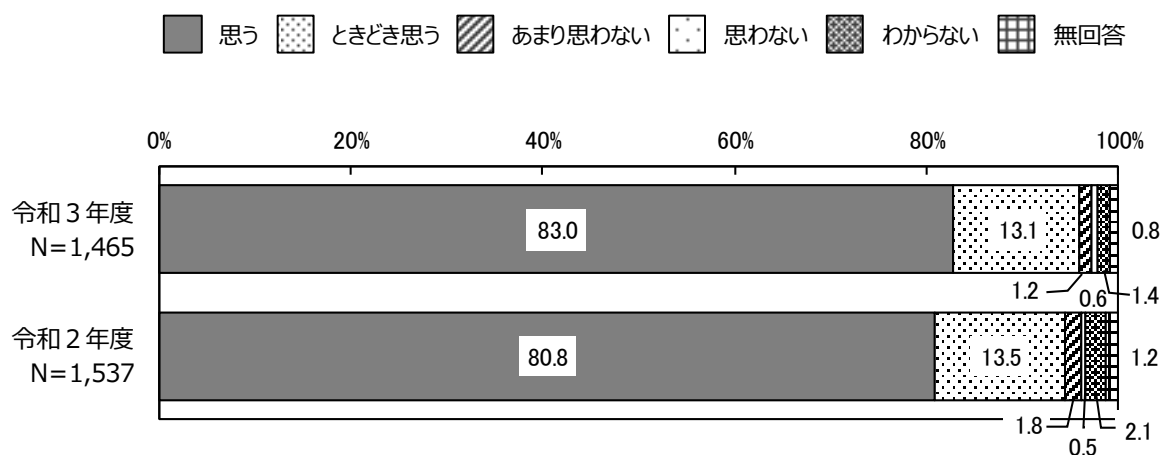
【問 21 過去1年間のスポーツ活動の支援頻度別】



2-8 人権について

問 24 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。（1つだけ○を付けてください）

人権は『重要である』と思う人が 96.1%



- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『重要である』は 96.1%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『重要でない』の 1.8%を大きく上回った。令和2年度との比較では、『重要である』は 1.8 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『重要である』はすべての年代で9割を超えて高い。50 歳代と 60 歳代の 97.2%が最も高く、次いで 18 歳～29 歳の 96.9%となった。
- 職業別でみると、『重要である』はすべての職業で9割を超えて高い。学生の 97.7%が最も高く、次いで専業主婦（主夫）の 97.2%となった。

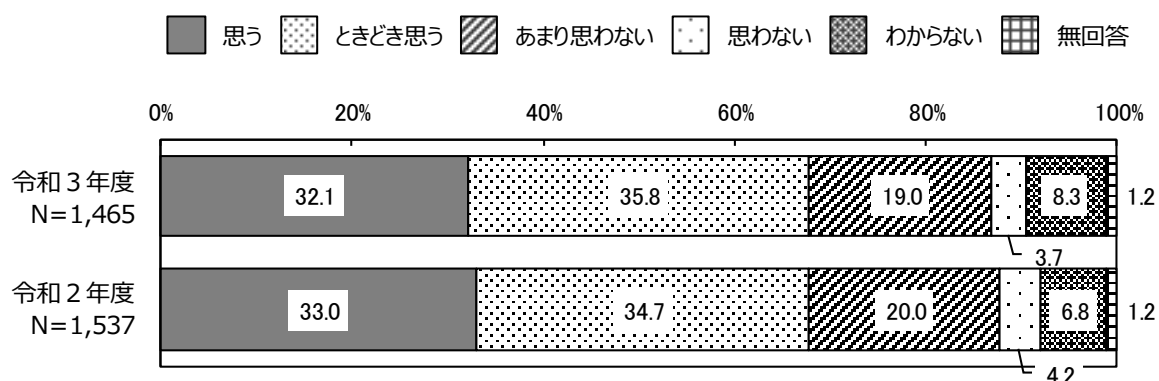
【年代別・職業別】

(単位：％)

		思 う	と き ど き 思 う	あ ま り 思 わ な い	思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 N=160	84.4	12.5	0.6	0.0	1.9	0.6
	30歳代 N=172	84.9	11.6	1.7	0.6	1.2	0.0
	40歳代 N=250	77.6	19.2	0.4	1.6	1.2	0.0
	50歳代 N=282	84.8	12.4	1.4	1.4	0.0	0.0
	60歳代 N=284	87.0	10.2	1.1	0.0	0.7	1.1
	70歳以上 N=314	80.9	12.7	1.6	0.0	3.2	1.6
職 業 別	勤め人 N=750	82.1	14.9	1.2	0.8	0.8	0.1
	商工・サービス・自由業 N=131	84.7	9.2	2.3	1.5	0.8	1.5
	農林水産業 N=31	87.1	6.5	0.0	0.0	6.5	0.0
	専業主婦（主夫） N=211	85.8	11.4	0.5	0.5	1.4	0.5
	学生 N=43	90.7	7.0	0.0	0.0	0.0	2.3
	無職 N=244	79.1	14.8	1.6	0.0	2.9	1.6
	その他 N=46	93.5	4.3	0.0	0.0	2.2	0.0

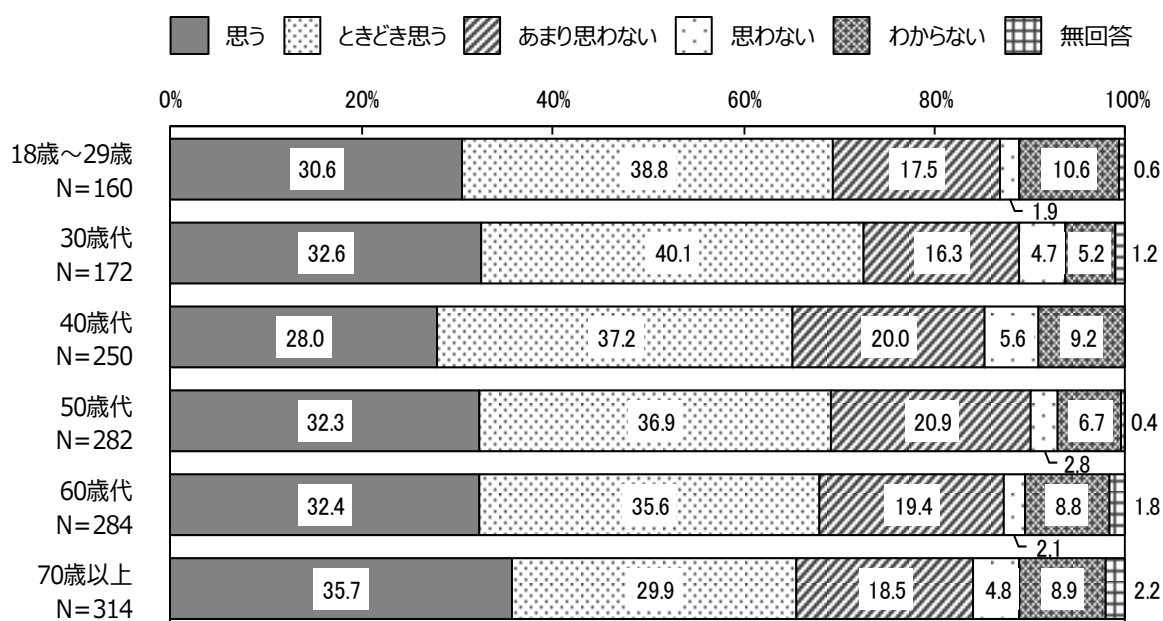
問 25 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。
(1つだけ○を付けてください)

お互いの人権を守りながら『生活できていると思う』人は 67.9%

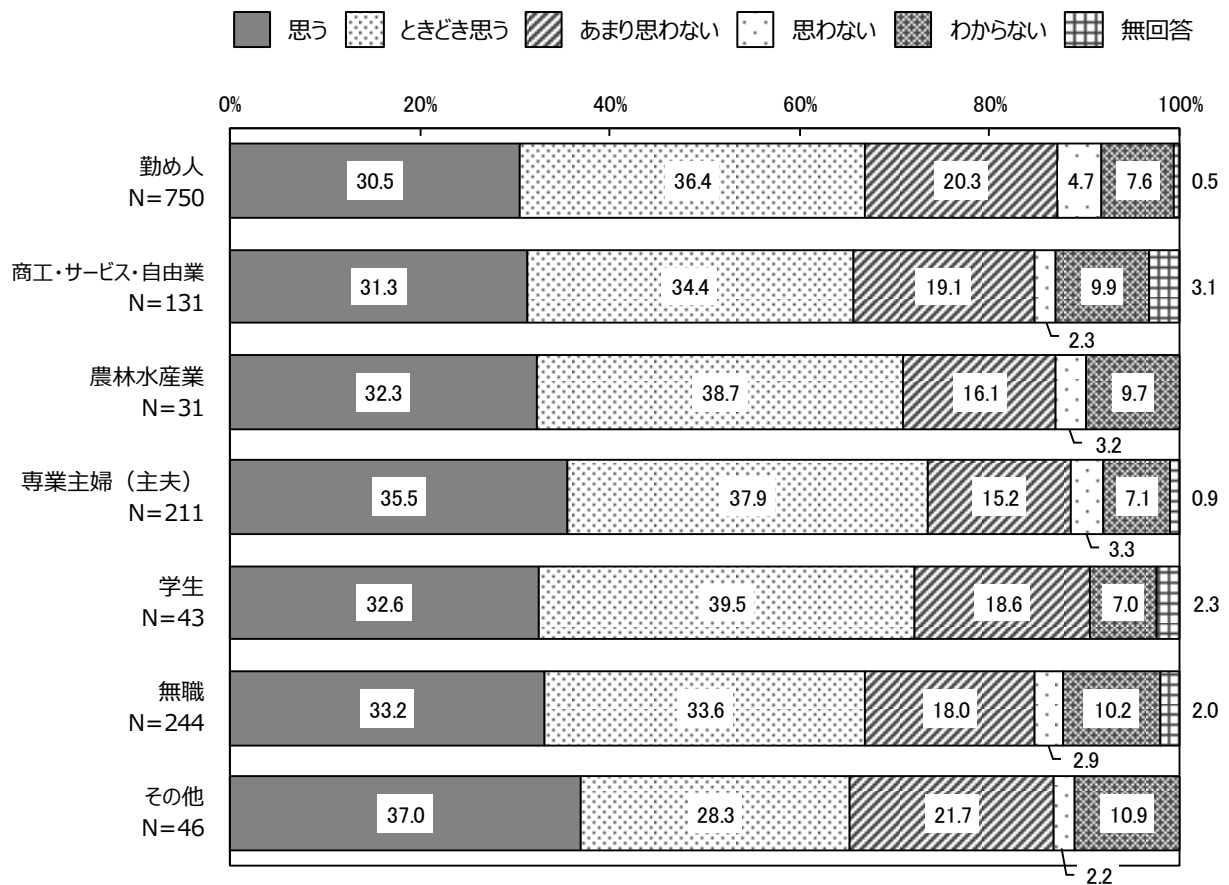


- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『生活できていると思う』は 67.9% となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『生活できていると思わない』の 22.7% を 45.2 ポイント上回った。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、30 歳代の 72.7% が最も高く、次いで 18 歳～29 歳の 69.4% となった。30 歳代のみ 7 割台となり、他の年代層は 6 割台となった。40 歳代が 65.2% と最も低い。
- 職業別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、専業主婦（主夫）が 73.4% と最も高く、次いで学生が 72.1% となった。最も低いその他が 65.3% となり、最も高い専業主婦（主夫）とは、8.1 ポイントの差がみられた。

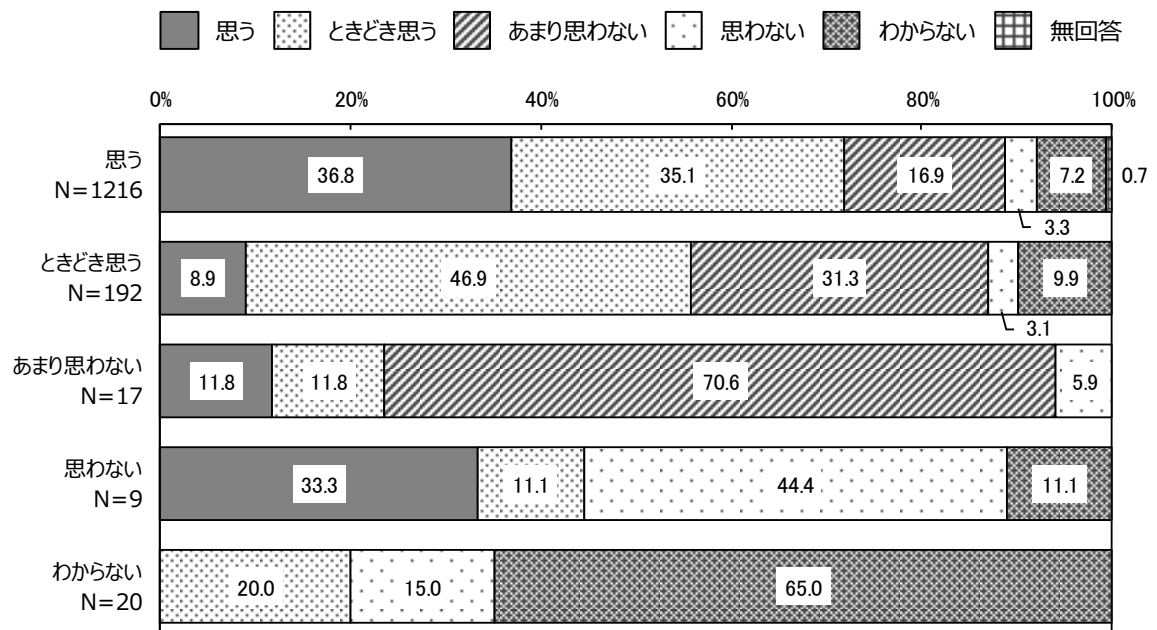
【年代別】



【職業別】



【問 24 人権に対する意識別】

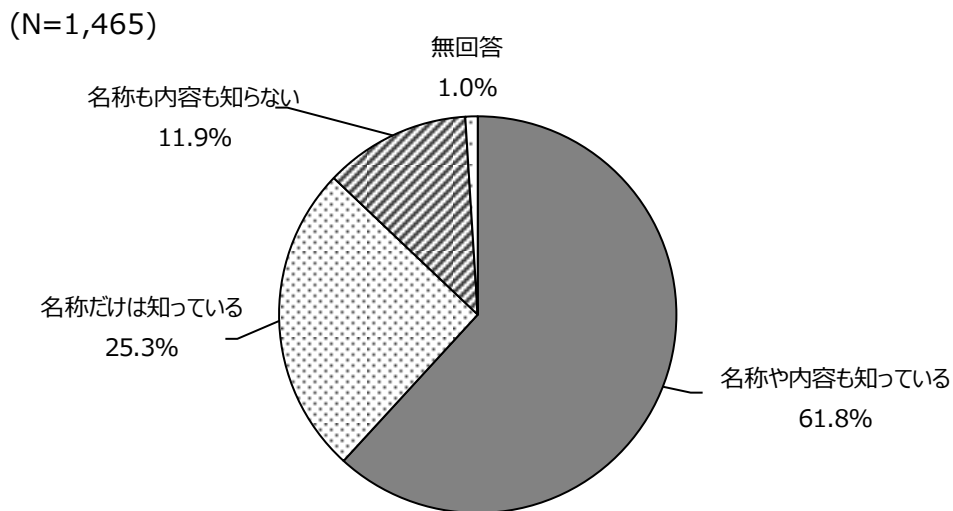


問 26 浜松市では、性の多様性について正しい理解と知識を深めるための研修や啓発事業を実施しています。あなたは「LGBT※」についてご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

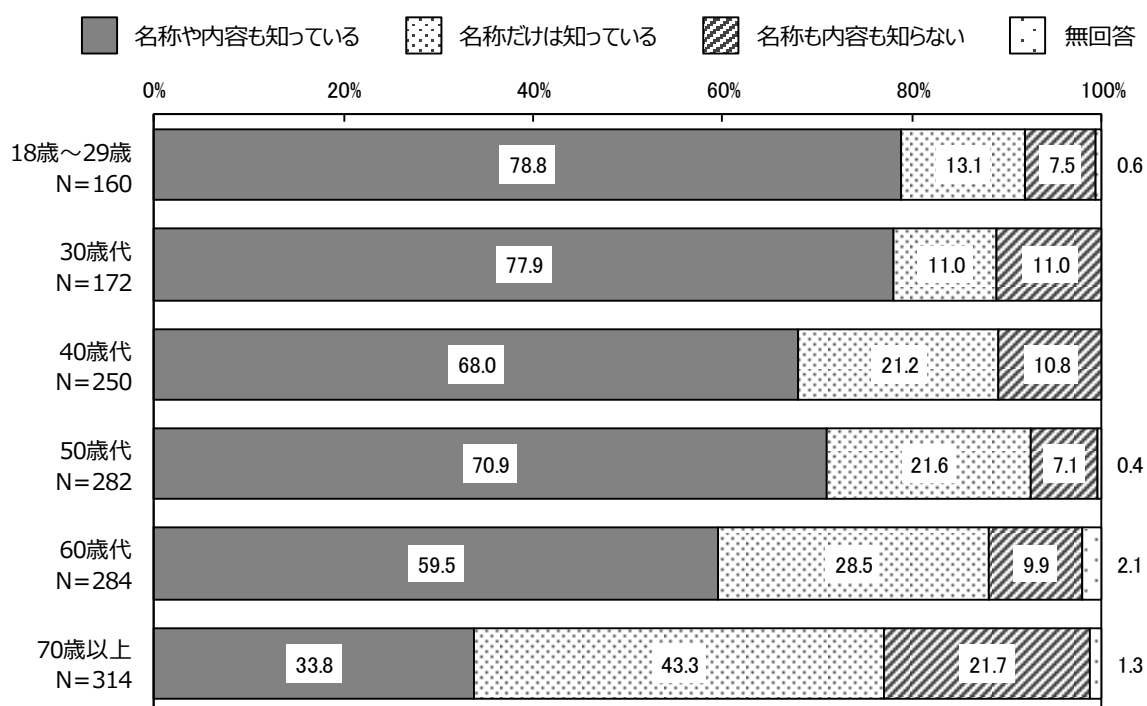
※ 言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で、性的少数者（セクシャルマイノリティ）を表す言葉の一つとして使われることもあります。Lは、レズビアン（女性の同性愛者）、Gは、ゲイ（男性の同性愛者）、Bは、バイセクシャル（両性愛者）、Tは、トランスジェンダー（「身体の性」と「心と性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人。「心の性」にそって生きたいと望む人も多く見られます。）

「LGBT」の『認知度』は87.1%

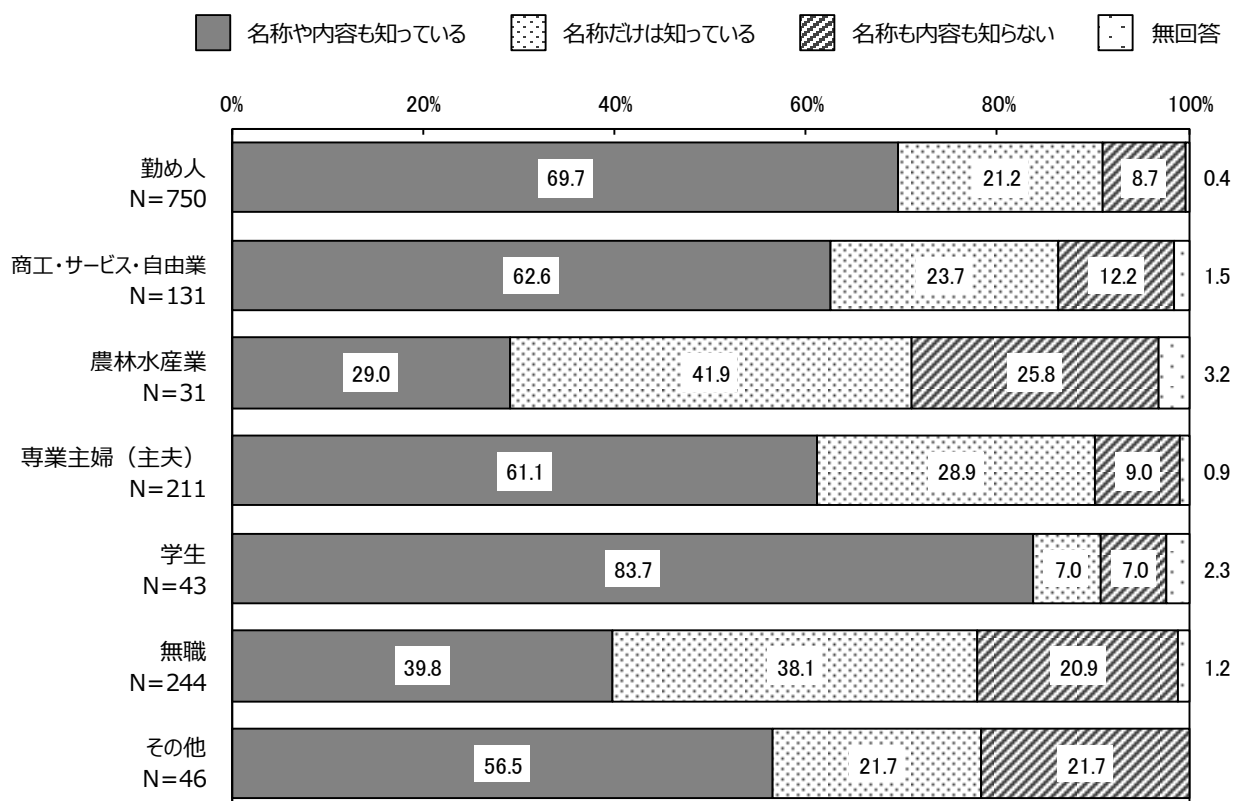


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は87.1%となり、「名称も内容も知らない」の11.9%を大きく上回った。
- 年代別でみると、『認知度』は50歳代の92.5%が最も高く、次いで18歳～29歳の91.9%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は70歳以上が21.7%と、他の年代と比較して高い。
- 職業別でみると、『認知度』は勤め人の90.9%が最も高く、次いで学生の90.7%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は農林水産業が25.8%、その他が21.7%、無職が20.9%と、他の職業と比較して高い。

【年代別】

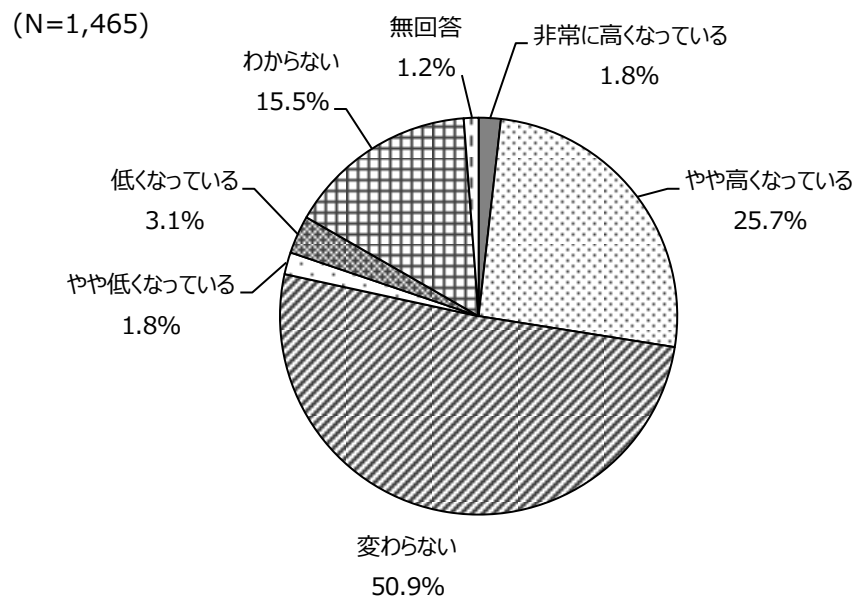


【職業別】



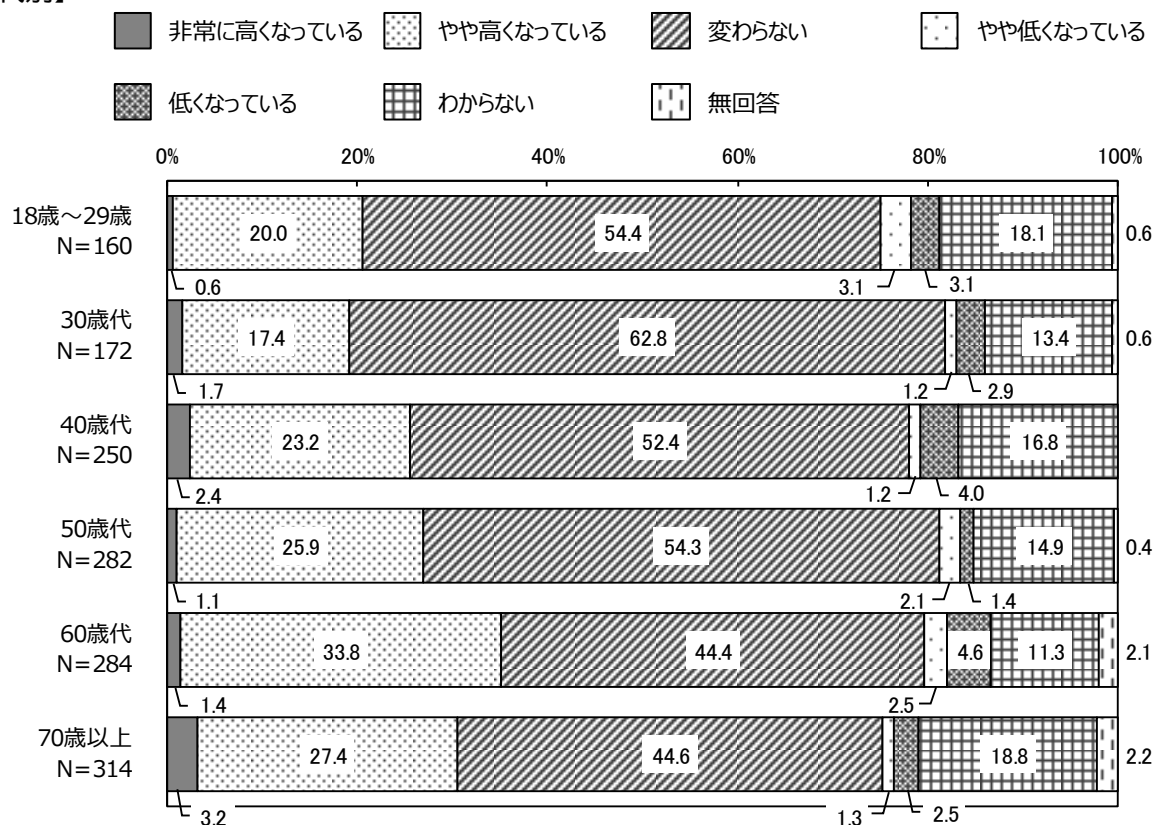
問 27 あなたは、共生社会の実現に向けた取り組みを推進している東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機として、市民一人一人の人権への意識は高くなっていると思いますか。（1 つだけ○を付けてください）

市民一人一人の人権への意識が『高くなっている』と思う人は 27.5%

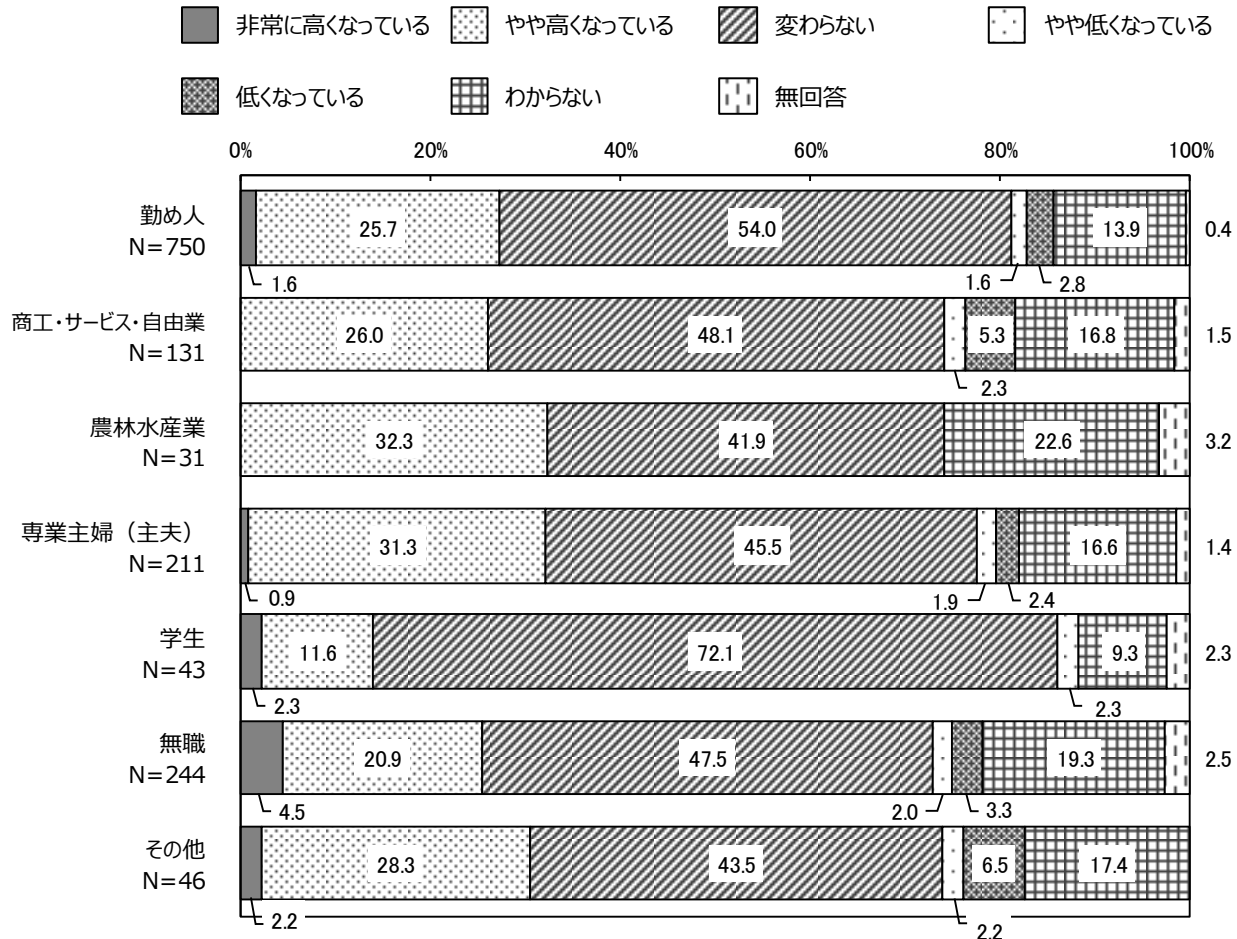


- 「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は 27.5% となった。「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』は 4.9% となり、『高くなっている』が『低くなっている』を 22.6 ポイント上回った。一方で「変わらない」は 50.9% と約 5 割となった。
- 年代別でみると、『高くなっている』は 60 歳代の 35.2% が最も高く、次いで 70 歳以上の 30.6% となった。他の年代では 3 割未満となった。最も低い 30 歳代が 19.1% となり、最も高い 60 歳代とは、16.1 ポイントの差がみられた。また、「変わらない」と回答した割合は 50 歳代以下で 5 割を超えた。
- 職業別でみると、『高くなっている』は農林水産業の 32.3% が最も高く、次いで専業主婦（主夫）の 32.2% となった。最も低い学生が 13.9% となり、最も高い農林水産業とは 18.4 ポイントの差がみられた。また、「変わらない」と回答した割合は学生が 72.1% と、突出して高い。

【年代別】

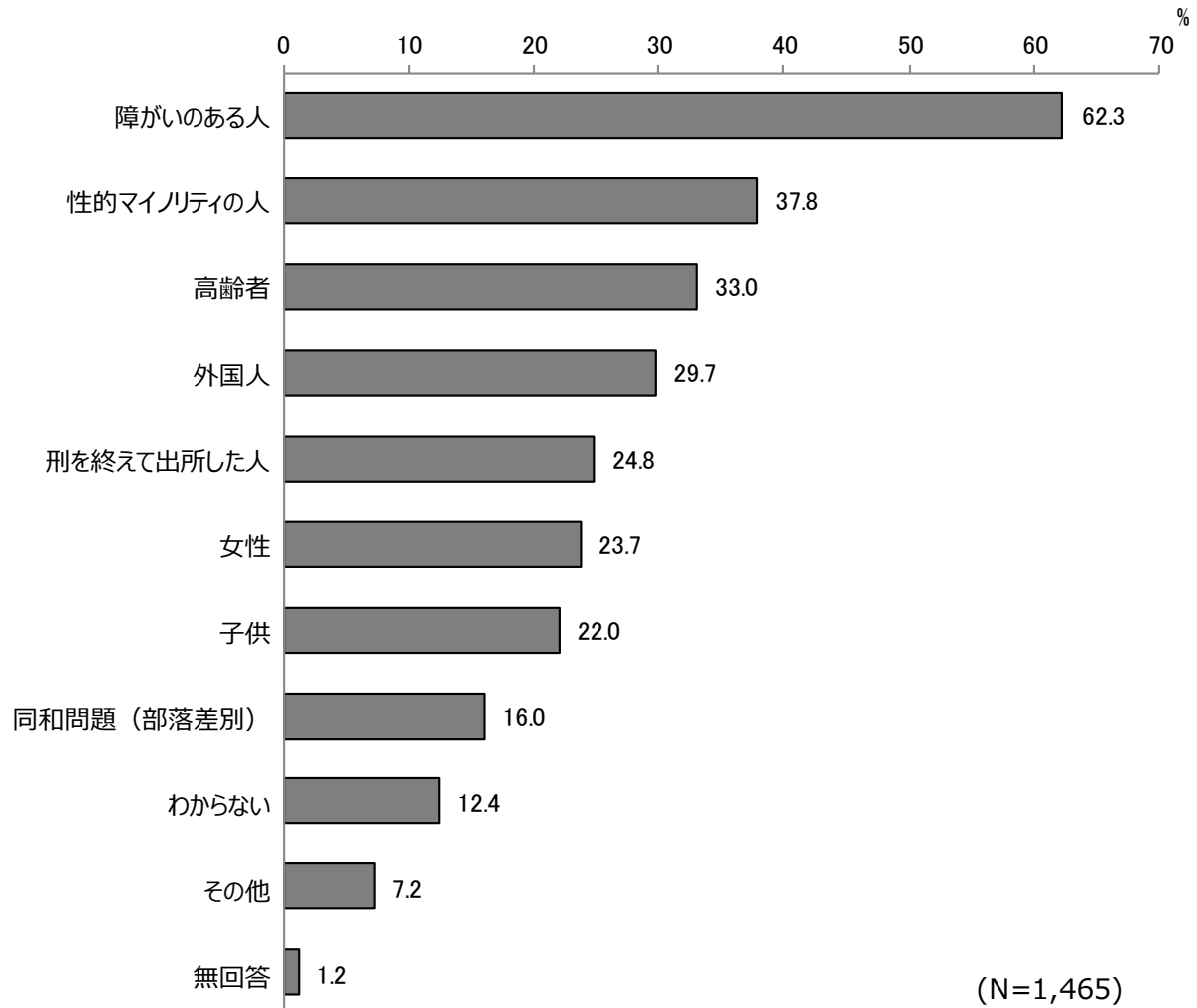


【職業別】



問 28 あなたは社会の中で、生きづらさを感じている人たちはどのような人たちだと思いますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

生きづらさを感じていると思われる人は「障がいのある人」が 62.3%



- 「障がいのある人」が 62.3%と最も高く、次いで「性的マイノリティの人」が 37.8%、「高齢者」が 33.0%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「障がいのある人」が最も高い。次いで 50 歳代以下では「性的マイノリティの人」が高く、60 歳代以上では「高齢者」が高い。また、30 歳代以下では「女性」が 3 割半ばと、他の年代と比較して高い。
- 職業別でみると、学生を除く職業で「障がいのある人」が最も高い。学生では「性的マイノリティの人」の 72.1%と、「外国人」の 51.2%が、突出して高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

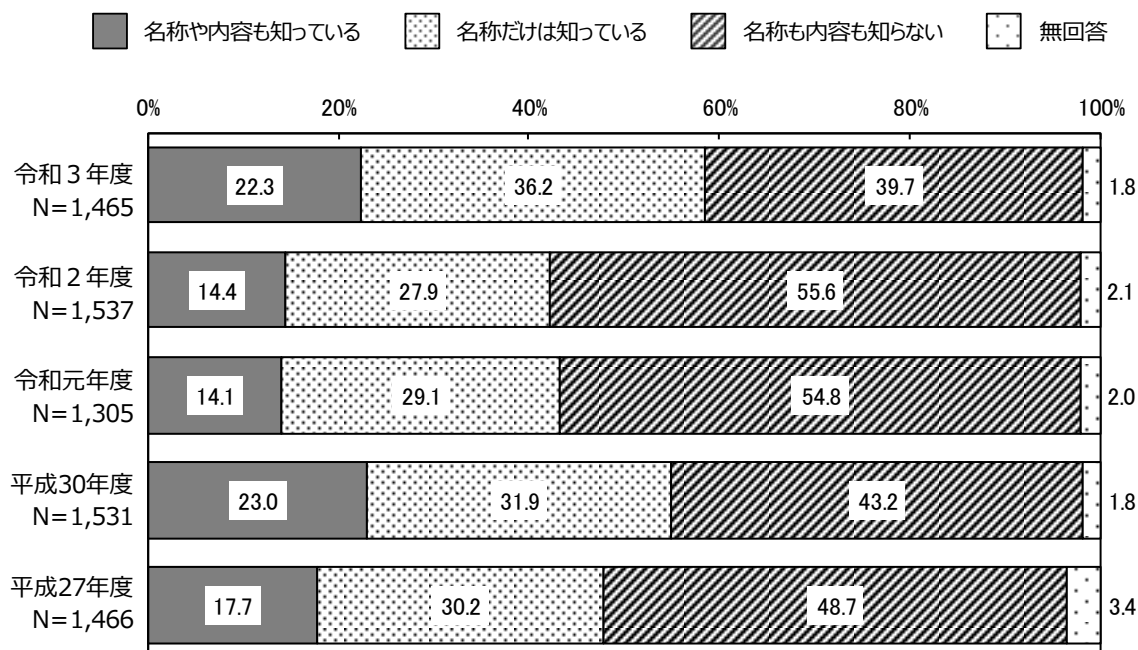
		障 が い の あ る 人	性 的 マ イ ノ リ テ イ の 人	高 齢 者	外 国 人	刑 を 終 え て 出 所 し た 人	女 性	子 供	同 和 問 題 （ 部 落 差 別 ）	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 N=160	62.5	56.3	24.4	41.9	21.9	35.0	25.6	20.0	5.6	7.5	0.6
	30歳代 N=172	62.2	47.1	20.3	32.6	25.6	33.7	27.3	15.7	7.6	9.9	0.6
	40歳代 N=250	63.6	40.0	25.6	37.2	22.4	29.2	28.4	19.6	11.6	12.4	0.8
	50歳代 N=282	60.6	35.8	33.0	24.1	22.0	19.9	20.9	14.5	14.5	7.1	0.0
	60歳代 N=284	71.1	39.8	43.3	29.9	31.0	24.3	23.6	18.0	8.8	4.6	1.8
	70歳以上 N=314	55.1	21.7	41.1	20.7	24.8	11.1	12.1	11.1	20.7	4.1	2.2
職 業 別	勤め人 N=750	64.3	40.3	28.7	31.6	22.5	26.0	23.1	15.9	10.4	8.4	0.7
	商工・サービス・自由業 N=131	64.1	37.4	29.8	34.4	32.8	22.9	19.1	21.4	9.2	5.3	1.5
	農林水産業 N=31	58.1	19.4	25.8	29.0	25.8	16.1	19.4	16.1	19.4	3.2	3.2
	専業主婦（主夫） N=211	62.1	40.8	39.8	24.6	23.7	27.5	28.4	15.6	14.2	7.6	1.4
	学生 N=43	58.1	72.1	18.6	51.2	30.2	27.9	25.6	25.6	2.3	7.0	2.3
	無職 N=244	56.1	25.0	43.4	20.9	26.6	13.9	13.9	13.1	20.9	4.5	1.2
	その他 N=46	67.4	30.4	41.3	34.8	26.1	21.7	28.3	13.0	8.7	8.7	0.0

2-9 生物多様性について

問 29 あなたは「生物多様性※」についてご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

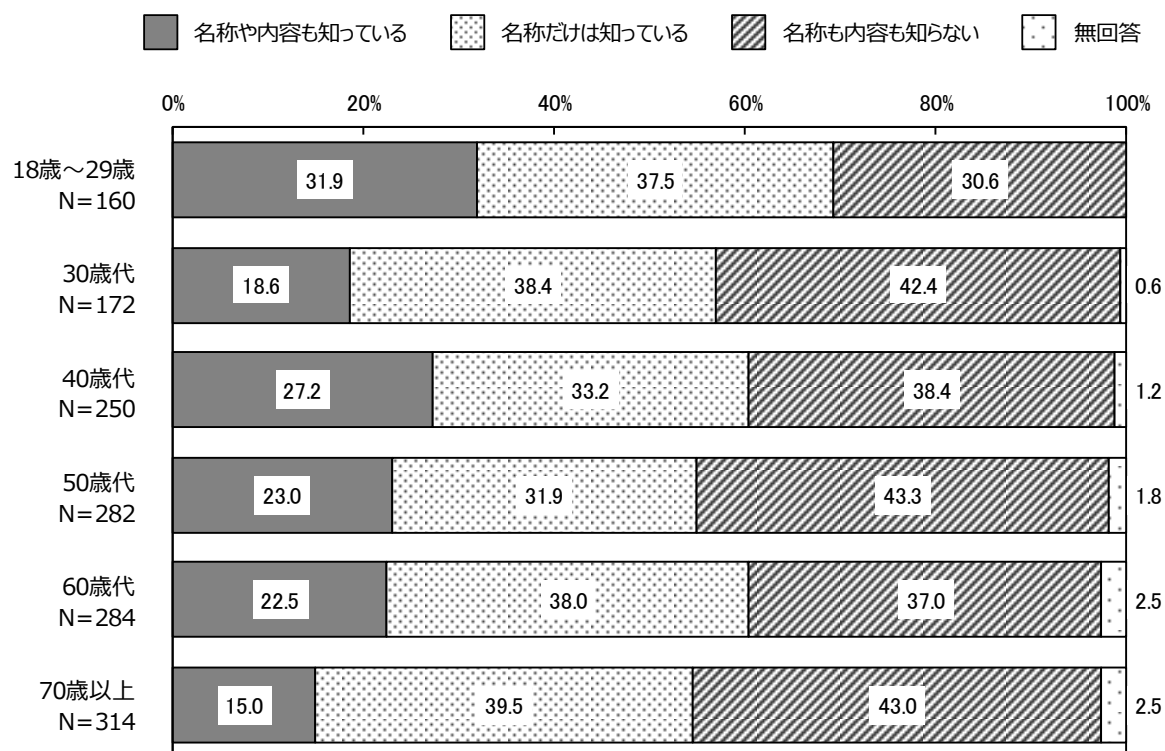
※ 生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

「生物多様性」の『認知度』は 58.5%

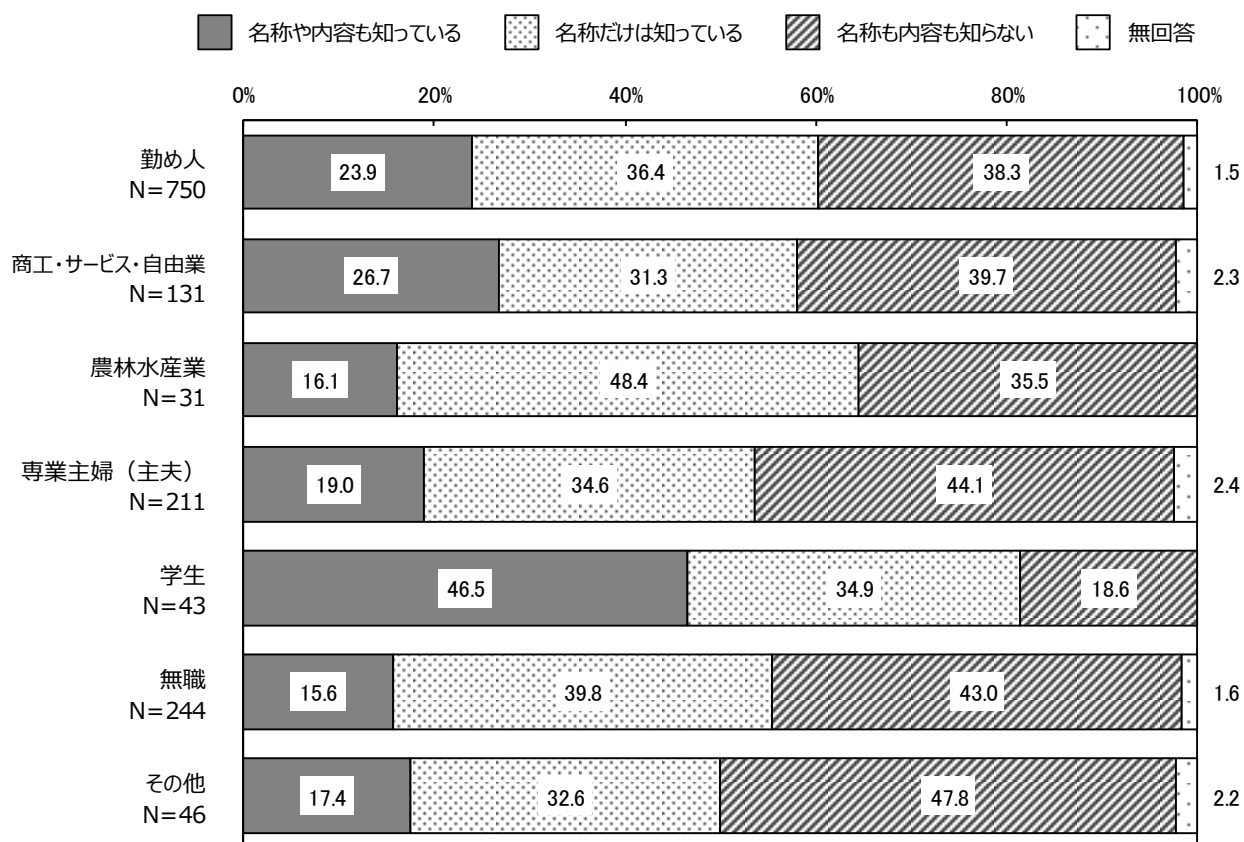


- 「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 58.5% となり、「名称も内容も知らない」の 39.7% を 18.8 ポイント上回った。令和2年度との比較では、『認知度』は 16.2 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』は 18 歳～29 歳の 69.4% が最も高く、次いで 60 歳代の 60.5% となった。すべての年代で5割を超えた。若い世代は他の年代と比べ学校などで「生物多様性」について知る機会が多いと言える。
- 職業別でみると、『認知度』は学生の 81.4% が最も高く、次いで農林水産業の 64.5% となった。最も低いその他が 50.0% となり、最も高い学生とは 31.4 ポイントの差がみられた。

【年代別】



【職業別】

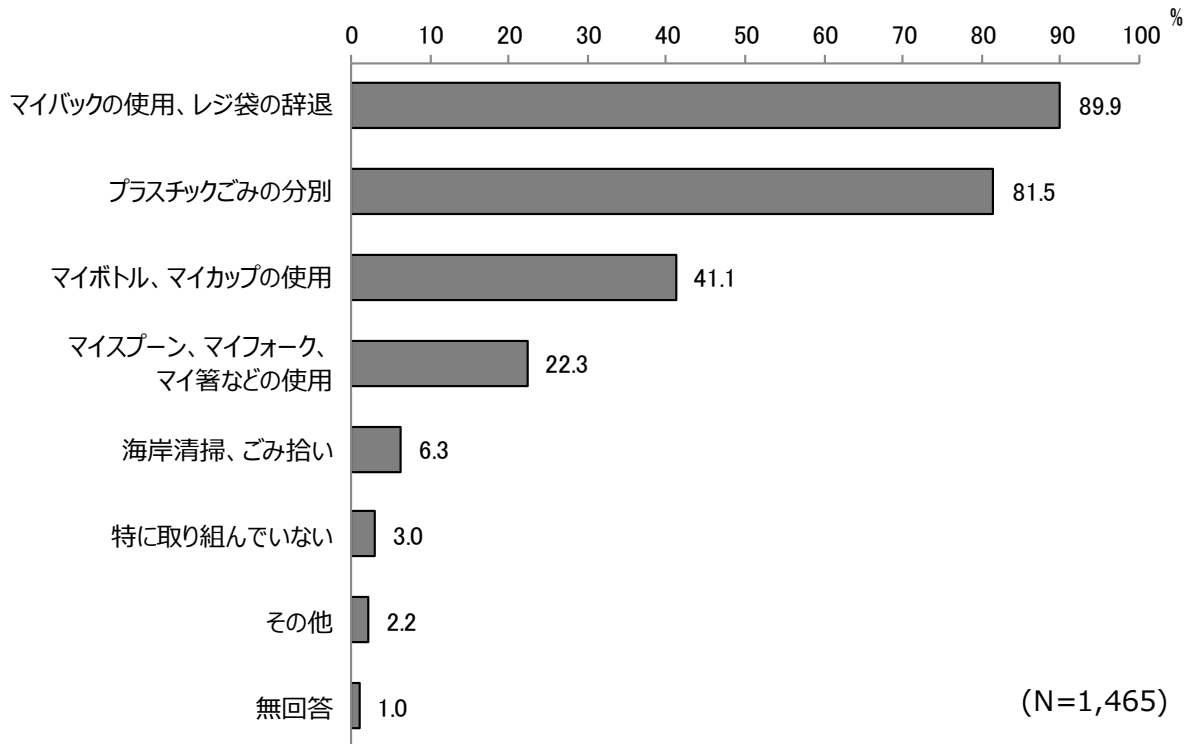


問 30 レジ袋やペットボトルなどのプラスチックが海洋に流出すると、海の生き物が餌と間違えてごみを食べてしまったり、生き物の体に絡まったりして死んでしまうことがあり、生物多様性への影響が懸念されています。

あなたは、海洋プラスチックごみを削減するための取り組みを行っていますか。

(実施しているものすべてに○を付けてください)

海洋プラスチックごみを削減するための取り組みは、「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が89.9%



- 「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が89.9%と最も高く、次いで「プラスチックごみの分別」が81.5%、「マイボトル、マイカップの使用」が41.1%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が最も高い。次いですべての年代で「プラスチックごみの分別」が高いが、30歳代以下では6割台となり、他の年代と比較してやや低い。
- 職業別でみると、農林水産業では「プラスチックごみの分別」が最も高く、他の職業では「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が最も高い。また、専業主婦（主夫）とその他では「マイボトル、マイカップの使用」が5割を超えて高く、学生では「プラスチックごみの分別」が62.8%と低い。

【年代別・職業別】

(単位：％)

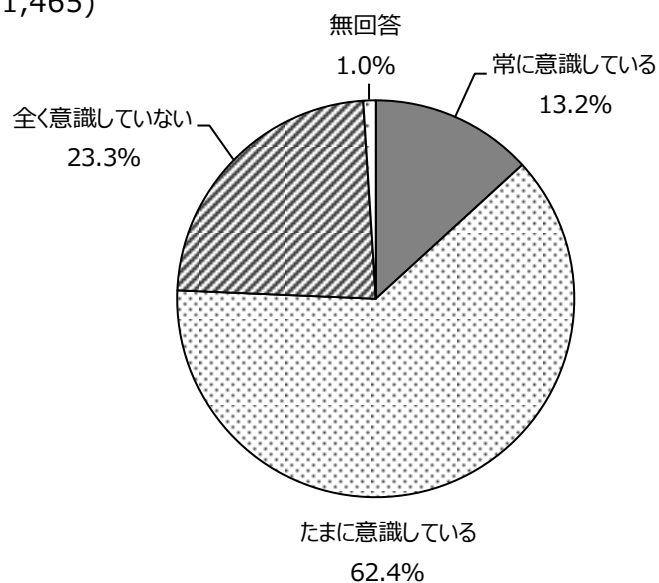
		マイバックの使用、レジ袋の	プラスチックごみの分別	マイボトル、マイカップの使用	マイ箸などの使用	マイスプーン、マイフォーク、	海岸清掃、ごみ拾い	特に取り組んでいない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	83.1	62.5	33.8	20.0	4.4	8.8	1.3	0.0	
	30歳代 N=172	88.4	67.4	34.9	19.2	3.5	5.8	0.6	0.6	
	40歳代 N=250	86.4	78.0	44.8	26.8	8.0	4.0	2.8	0.4	
	50歳代 N=282	91.1	87.6	45.4	26.6	7.4	1.1	2.8	0.4	
	60歳代 N=284	93.0	87.7	44.4	19.0	6.3	1.4	1.8	2.1	
	70歳以上 N=314	93.6	91.1	38.9	21.0	6.4	1.0	2.9	1.3	
	職業別	勤め人 N=750	87.1	76.1	40.9	23.1	6.4	4.5	1.6	0.8
商工・サービス・自由業 N=131		90.8	84.7	32.1	19.8	5.3	2.3	3.1	1.5	
農林水産業 N=31		80.6	87.1	41.9	12.9	9.7	0.0	0.0	3.2	
専業主婦（主夫） N=211		98.6	92.9	51.2	24.6	3.8	0.5	1.9	0.5	
学生 N=43		86.0	62.8	32.6	27.9	4.7	4.7	2.3	0.0	
無職 N=244		92.6	88.5	36.5	18.9	7.0	0.8	2.5	1.2	
その他 N=46		91.3	87.0	56.5	26.1	8.7	4.3	6.5	0.0	

2-10 消費生活について

問 31 あなたは買い物をするとき、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで
いますか。(1つだけ○を付けてください)

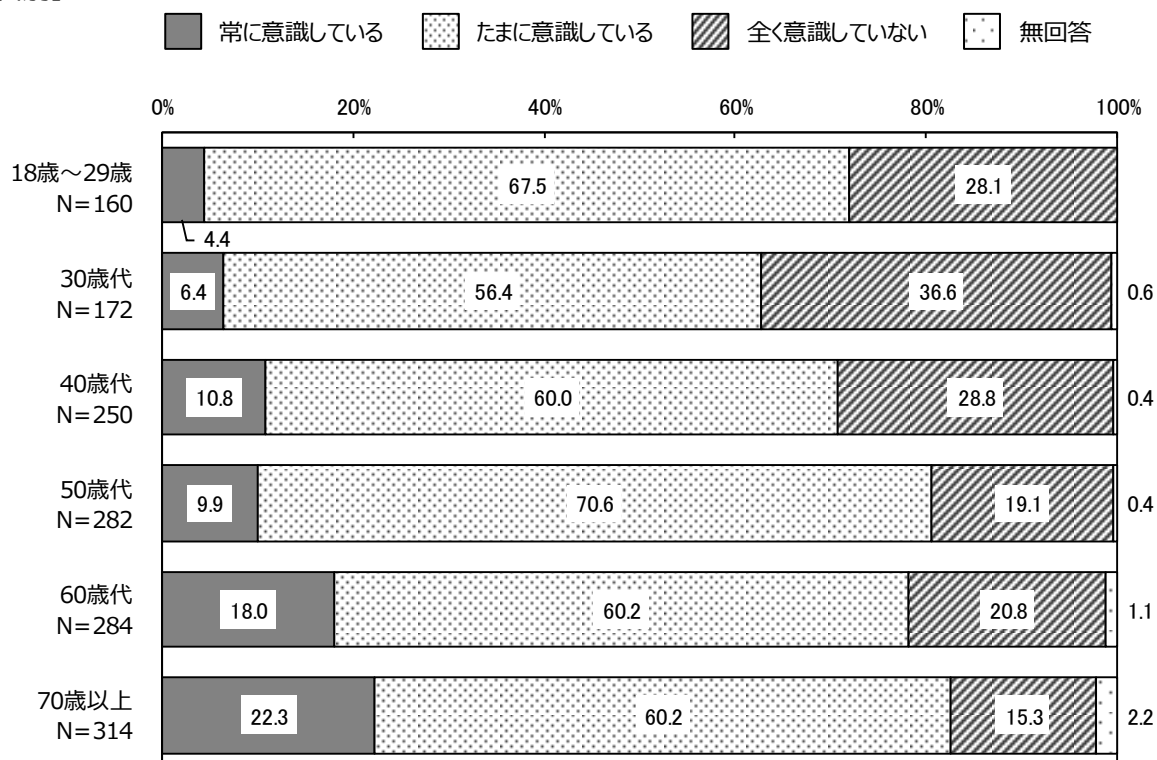
人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを『意識している』人は 75.6%

(N=1,465)

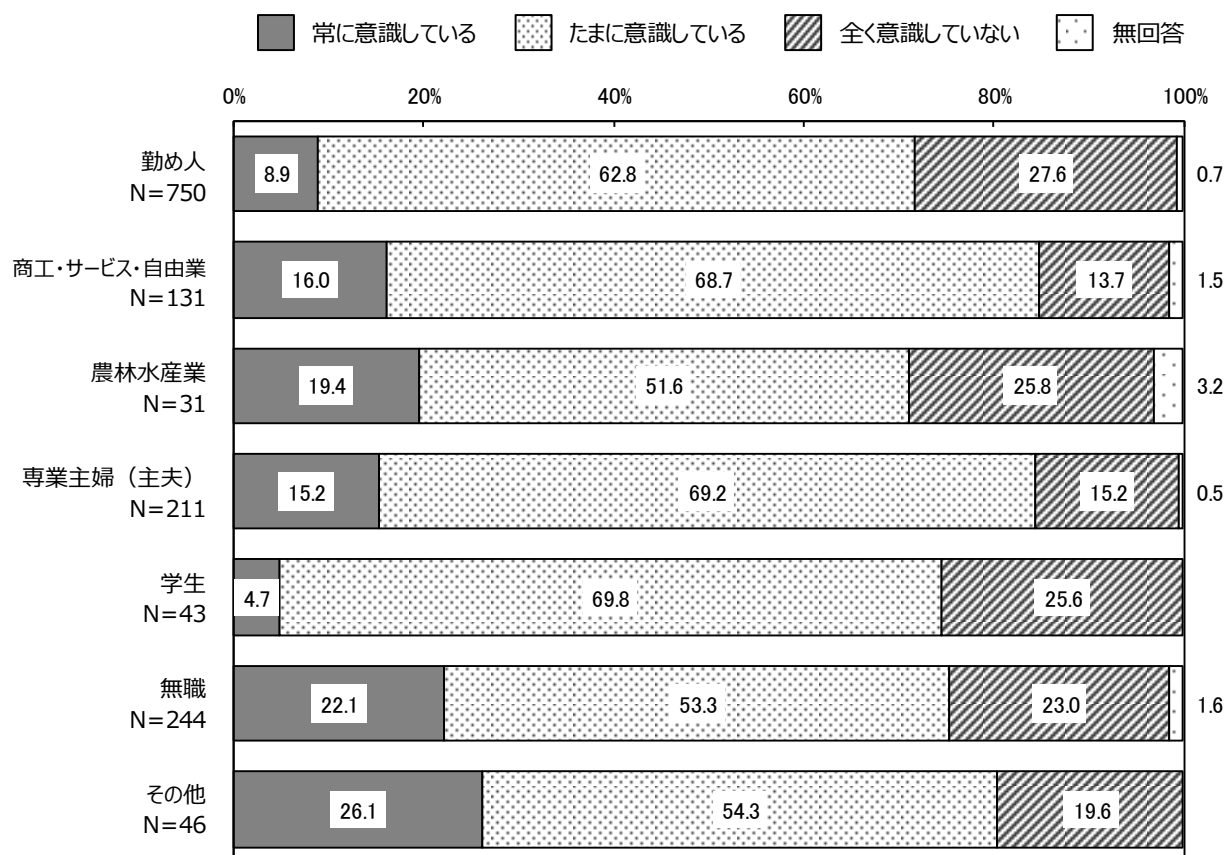


- 「常に意識している」と「たまに意識している」を合わせた『意識している』は 75.6%となり、「全く意識していない」の 23.3%を 52.3 ポイント上回った。
- 年代別でみると、『意識している』は 70 歳以上の 82.5%が最も高く、次いで 50 歳代の 80.5%となった。「全く意識していない」と回答した割合は 30 歳代の 36.6%が最も高く、唯一 3 割を超えた。
- 職業別でみると、『意識している』は商工・サービス・自由業の 84.7%が最も高く、次いで専業主婦(主夫)の 84.4%となった。「全く意識していない」と回答した割合は勤め人の 27.6%が最も高い。

【年代別】

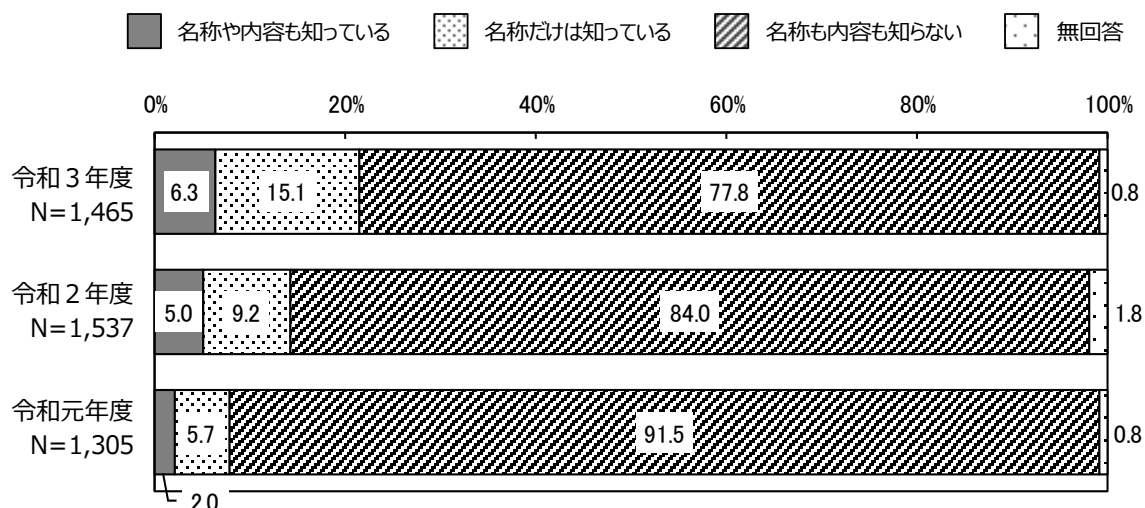


【職業別】



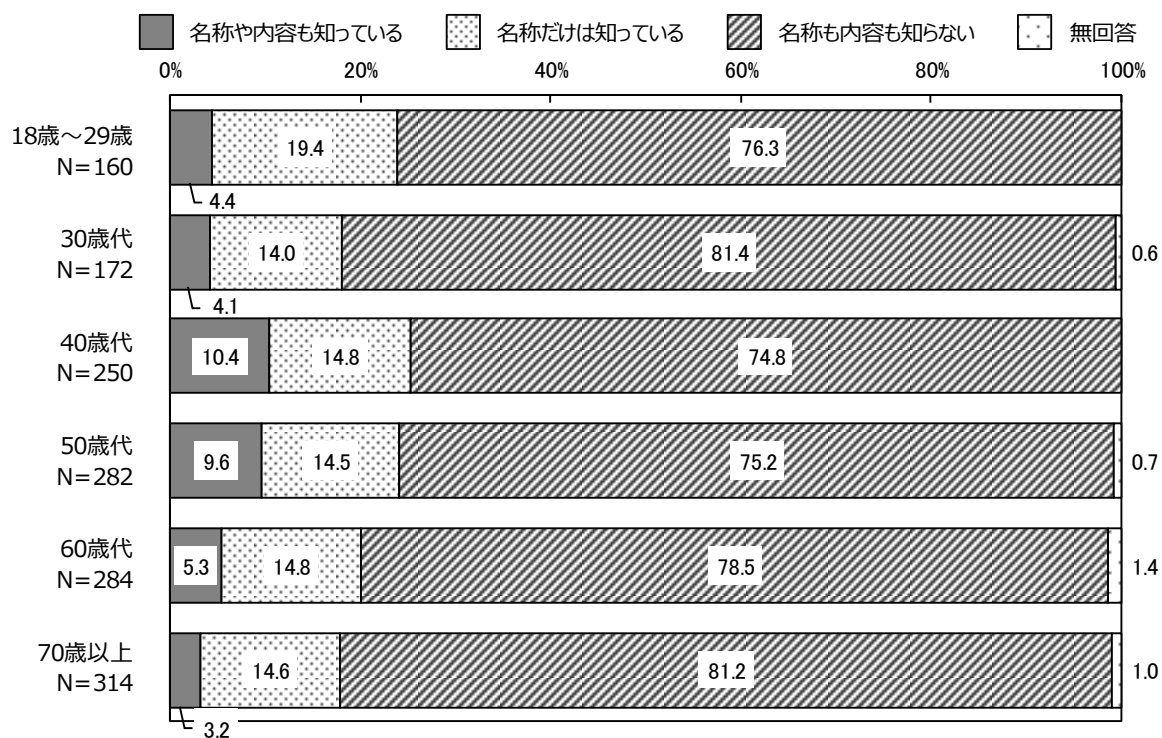
問 32 問 31 のことを「エシカル消費」といいますが、あなたはご存じですか。
(1 つだけ○を付けてください)

「エシカル消費」の『認知度』は 21.4%

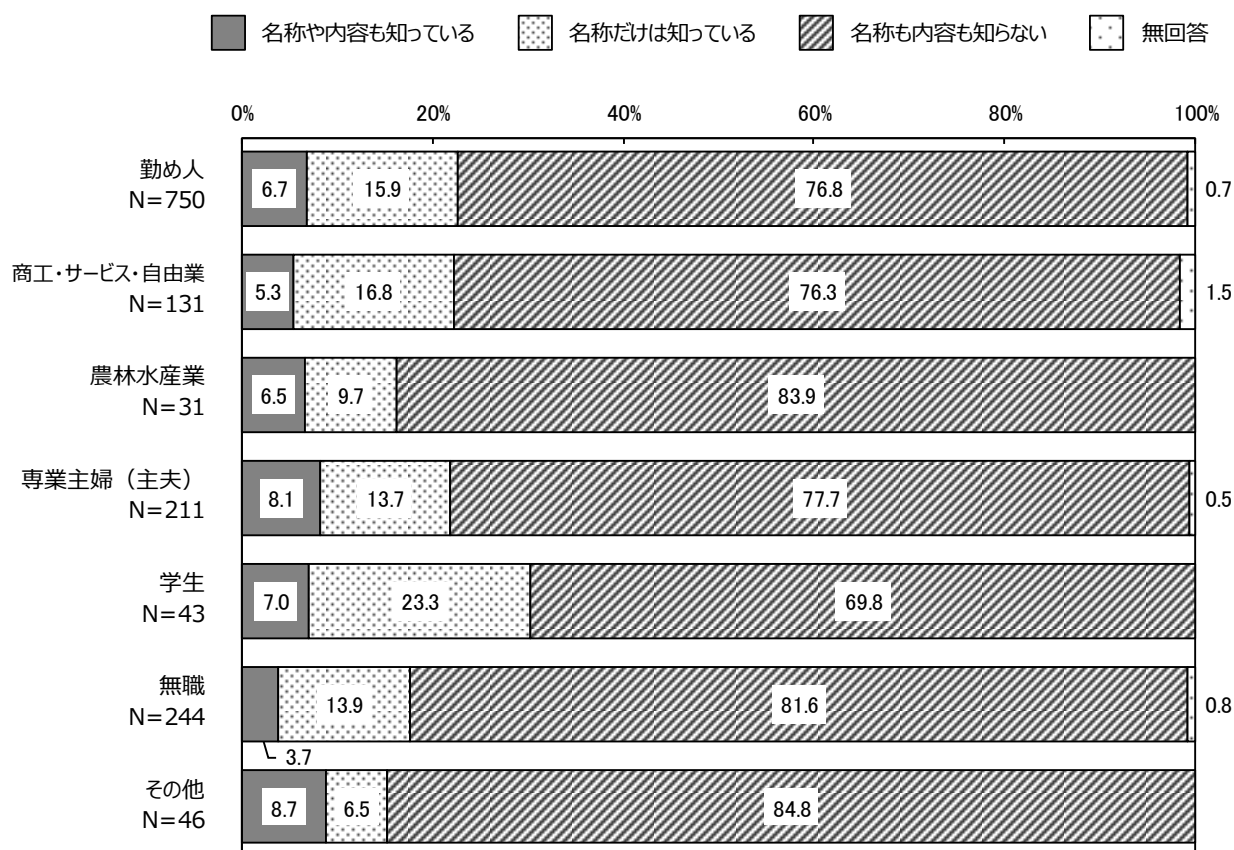


- 「名称や内容も知っている」が 6.3%、「名称だけは知っている」が 15.1%、「名称も内容も知らない」が 77.8%となった。「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 21.4%となった。令和2年度との比較では、『認知度』は 7.2 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』は 40 歳代の 25.2%が最も高く、次いで 50 歳代の 24.1%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は 30 歳代と 70 歳以上で 8 割を超えた。
- 職業別でみると、『認知度』は学生の 30.3%が最も高く、次いで勤め人の 22.6%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は農林水産業、無職、その他で 8 割を超えた。
- 消費者教育の推進を地方公共団体に義務付ける消費者教育推進法（平成 24 年）の施行を受けて、市はエシカル消費をテーマとした小中学校の教材づくりなどを進め、若年層を中心に普及を図っている。令和元年度以降、認知度は増加傾向となっているものの、エシカル消費の普及・啓発は、公正で持続可能な社会を実現することを目指す S D G s 推進の施策の一つであり、積極的に周知に努める必要がある。

【年代別】



【職業別】

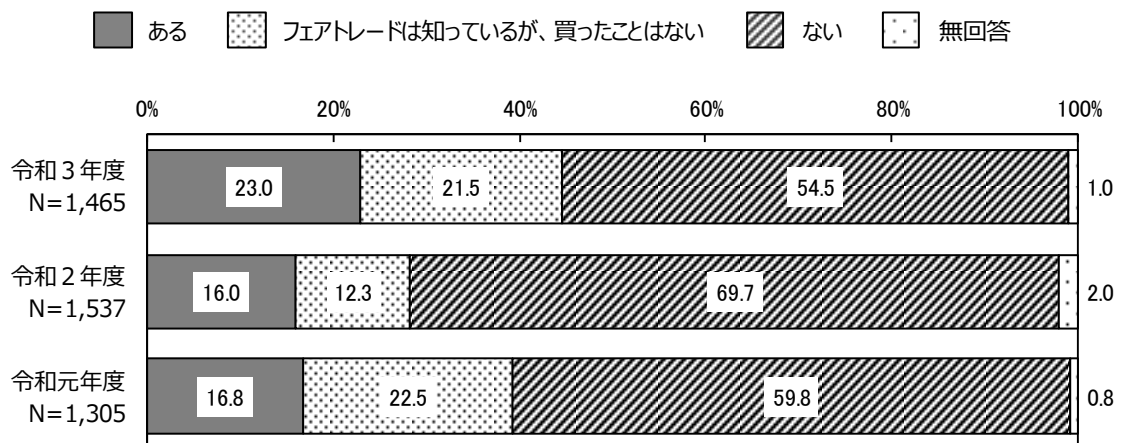


問 33 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

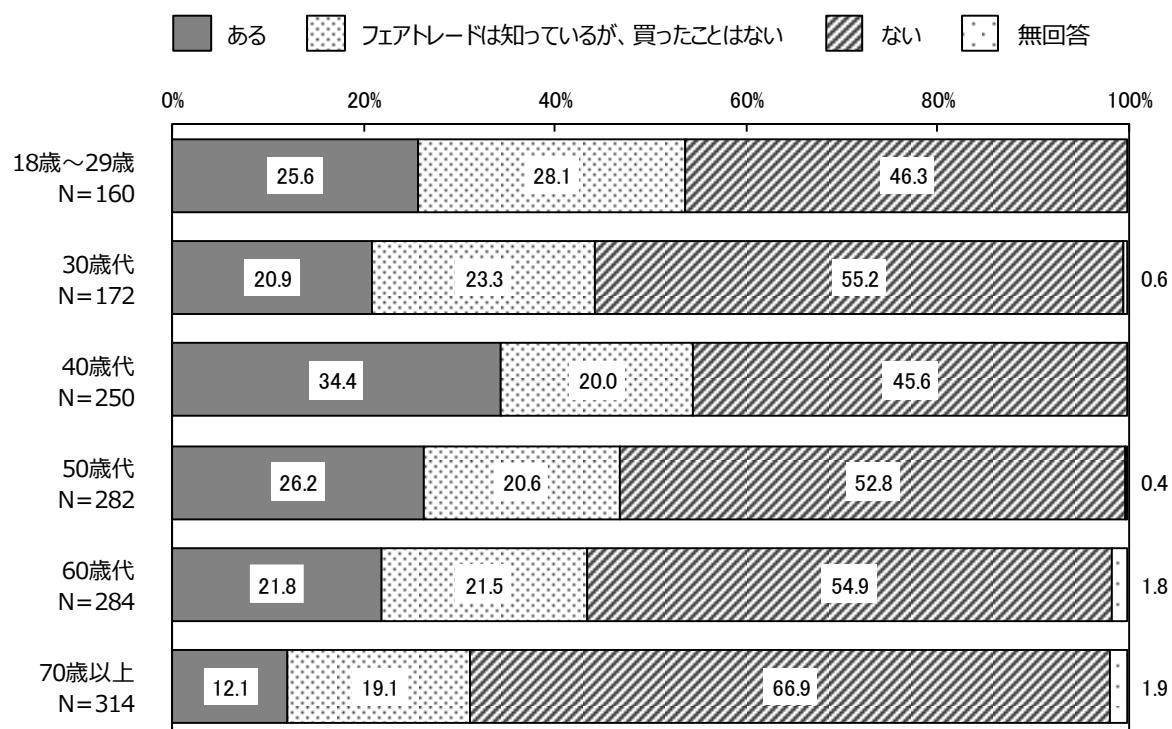
※ フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

フェアトレード商品を買ったことがある人は 23.0%

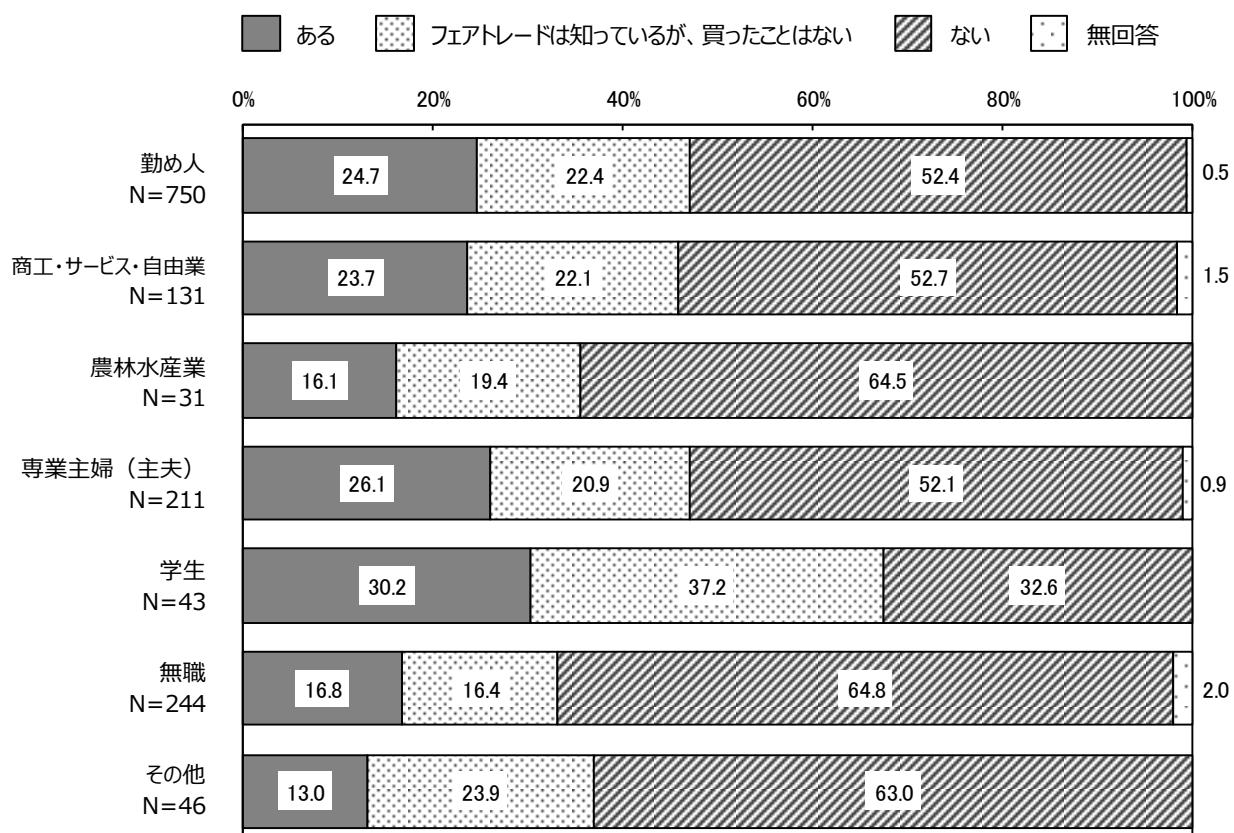


- 買ったことが「ある」が 23.0%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」が 21.5%であり、この2項目を合わせたフェアトレードについての『認知度』は 44.5%となった。一方で、買ったことが「ない」は 54.5%と5割を超える。令和2年度との比較では、買ったことが「ある」は 7.0 ポイント増加となり、『認知度』も 16.2 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』は 40 歳代の 54.4%が最も高く、次いで 18 歳～29 歳の 53.7%となった。他の年代は5割未満となった。「ない」と回答した割合は 70 歳以上の 66.9%が最も高い。
- 職業別でみると、『認知度』は学生の 67.4%が突出して高く、次いで勤め人の 47.1%となった。「ない」と回答した割合は学生を除いた職業で5割を超えた。
- 問 32 の「エシカル消費」の認知度の低さもあり、約半数以上で購入経験がないという回答となった。今後も民間の活動団体と連携協働した、啓発活動や購入機会の創出が求められる。

【年代別】



【職業別】

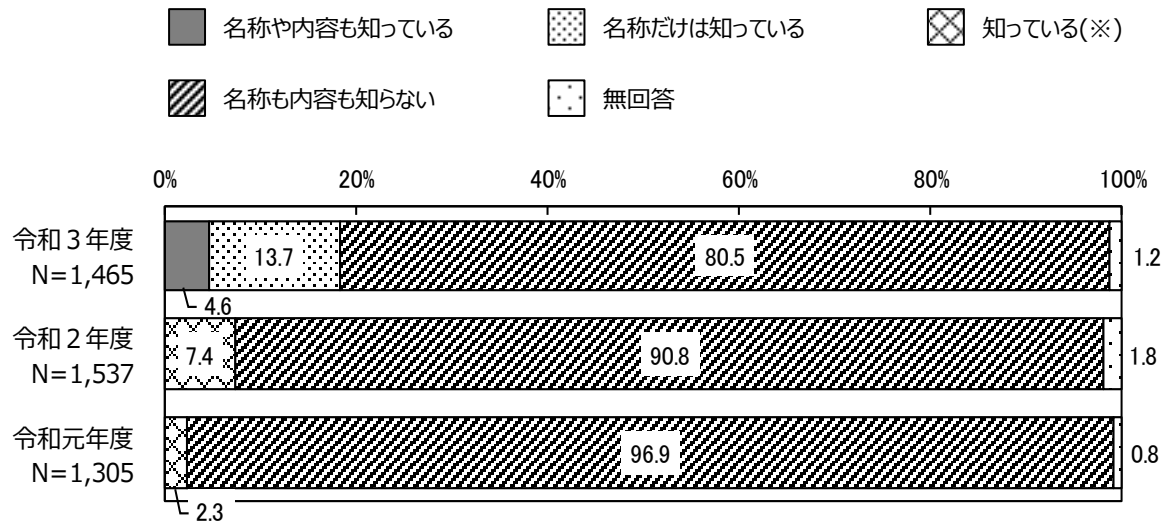


問 34 浜松市がフェアトレードタウン※であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

※ フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

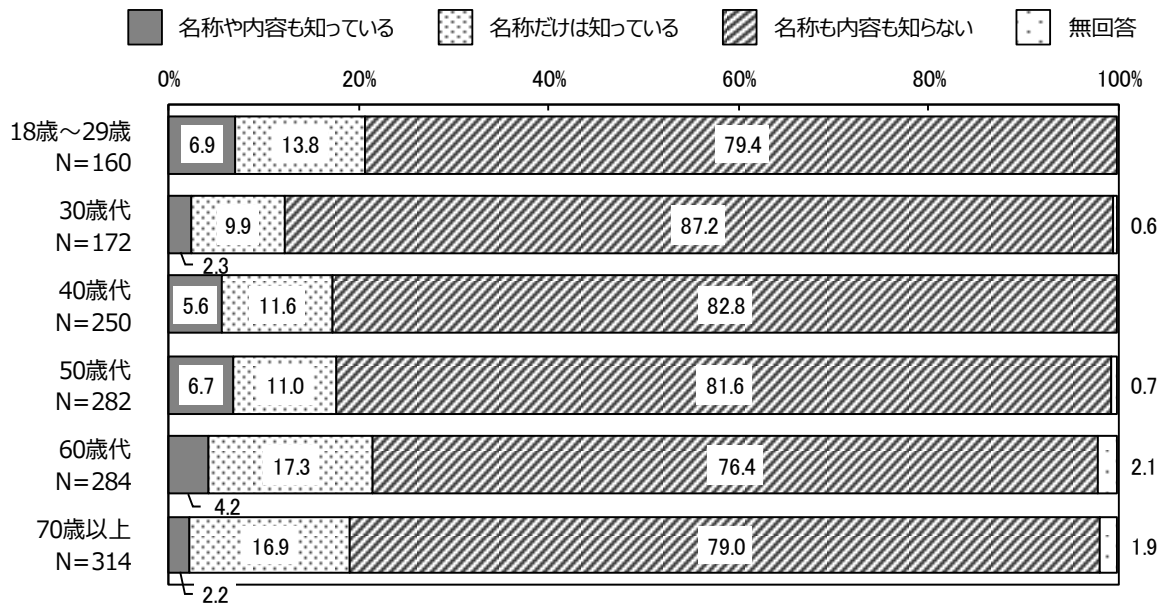
浜松市がフェアトレードタウンである『認知度』は18.3%



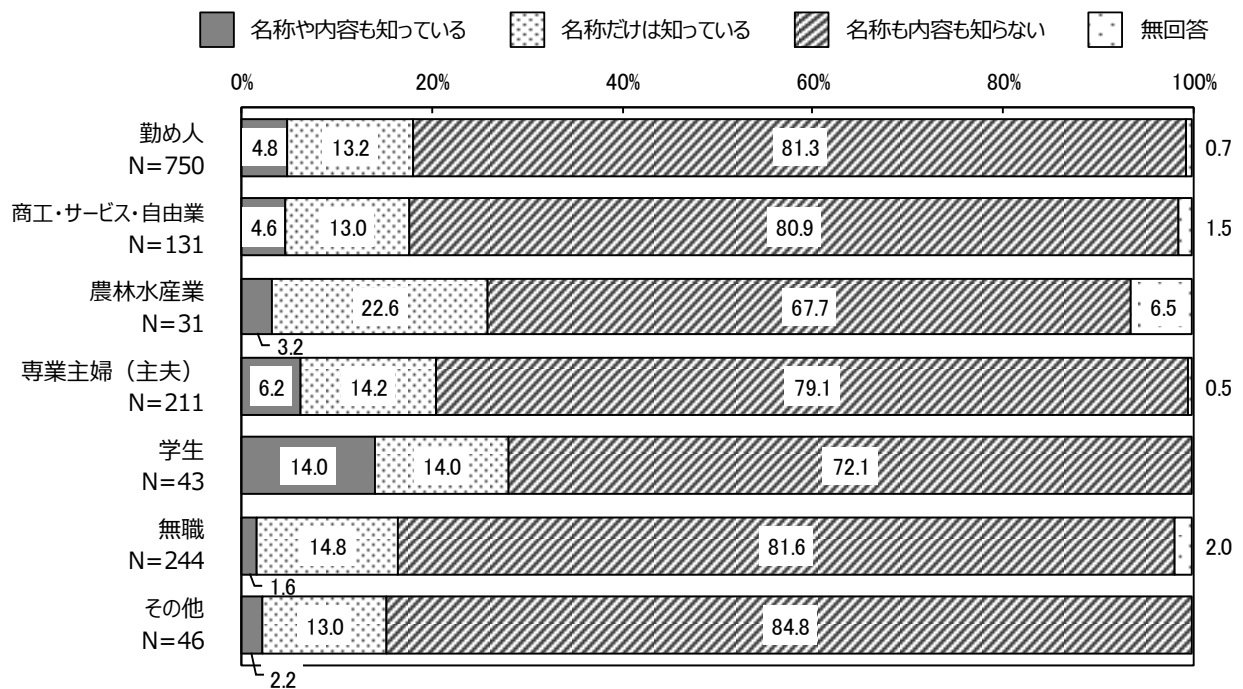
※ 令和2年度調査、令和元年度調査では、「知っている」に集約されている。

- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は18.3%となり、「名称も内容も知らない」の80.5%を大きく下回った。令和2年度との比較では、『認知度』は10.9ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』は60歳代の21.5%が最も高く、次いで18歳～29歳の20.7%となった。他の年代は2割未満となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての年代で7割を超え、30歳代の87.2%が最も高い。
- 職業別でみると、『認知度』は学生の28.0%が最も高く、次いで農林水産業の25.8%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての職業で6割を超え、その他の84.8%が最も高い。
- 令和元年度以降、認知度は増加傾向にあるものの、問32の「エシカル消費」の認知度、問33の購入経験と同様に、浜松市がフェアトレードタウンである認知度も全体で2割以下と低くなっている。今後も民間の活動団体と連携協働した、啓発活動や購入機会の創出が求められる。

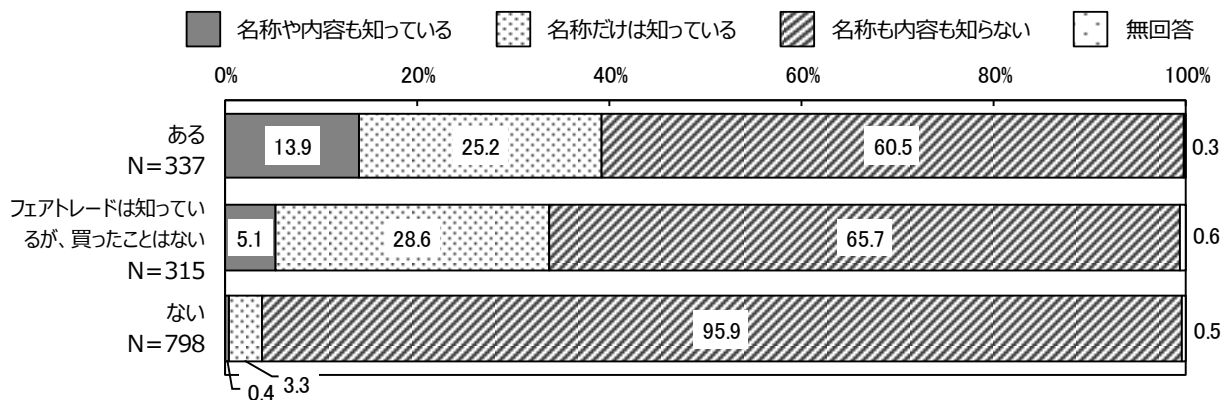
【年代別】



【職業別】



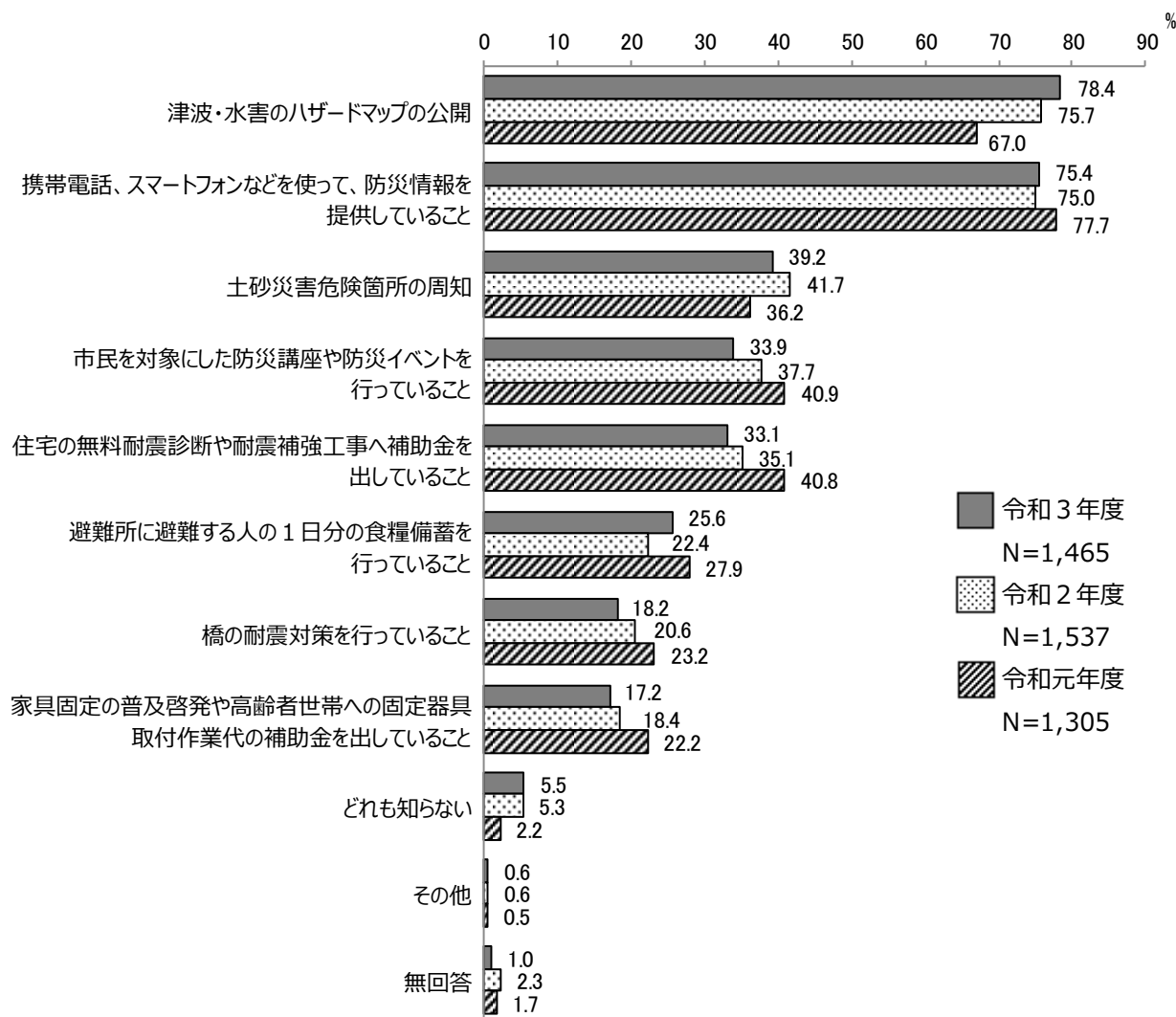
【問 33 フェアトレード商品の購入経験別】



2-11 防災対策について

問 35 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたご存じのものをお選びください。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

知っている防災対策は「津波・水害のハザードマップの公開」が 78.4%



- 「津波・水害のハザードマップの公開」が 78.4%と最も高く、次いで「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が 75.4%となった。それ以外の項目については、5割を下回る回答結果となった。「どれも知らない」は 5.5%と非常に低く、市民の防災対策への意識は比較的高いといえる。令和2年度との比較では、最も差がみられたのは「市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること」が 3.8 ポイント減少、次いで「避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること」が 3.2 ポイント増加、「津波・水害のハザードマップの公開」が 2.7 ポイント増加となった。

- 年代別でみると、60歳代以下では「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高く、70歳以上では「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が最も高い。また、70歳以上では「避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること」が39.8%と突出して高い。「住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること」は年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、60歳代以上では4割台となった。
- 行政区別でみると、中区、東区、西区、南区では「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高く、浜北区、天竜区では「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が最も高い。北区では「津波・水害のハザードマップの公開」と「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」がともに77.9%で最も高い。また、天竜区では「土砂災害危険箇所の周知」と「橋の耐震対策を行っていること」が、全体と比較して10ポイント以上高い。
- 災害の危険を身近に感じ緊急時に備えることが、防災対策への関心にもつながることから、引き続き周知を図っていく。

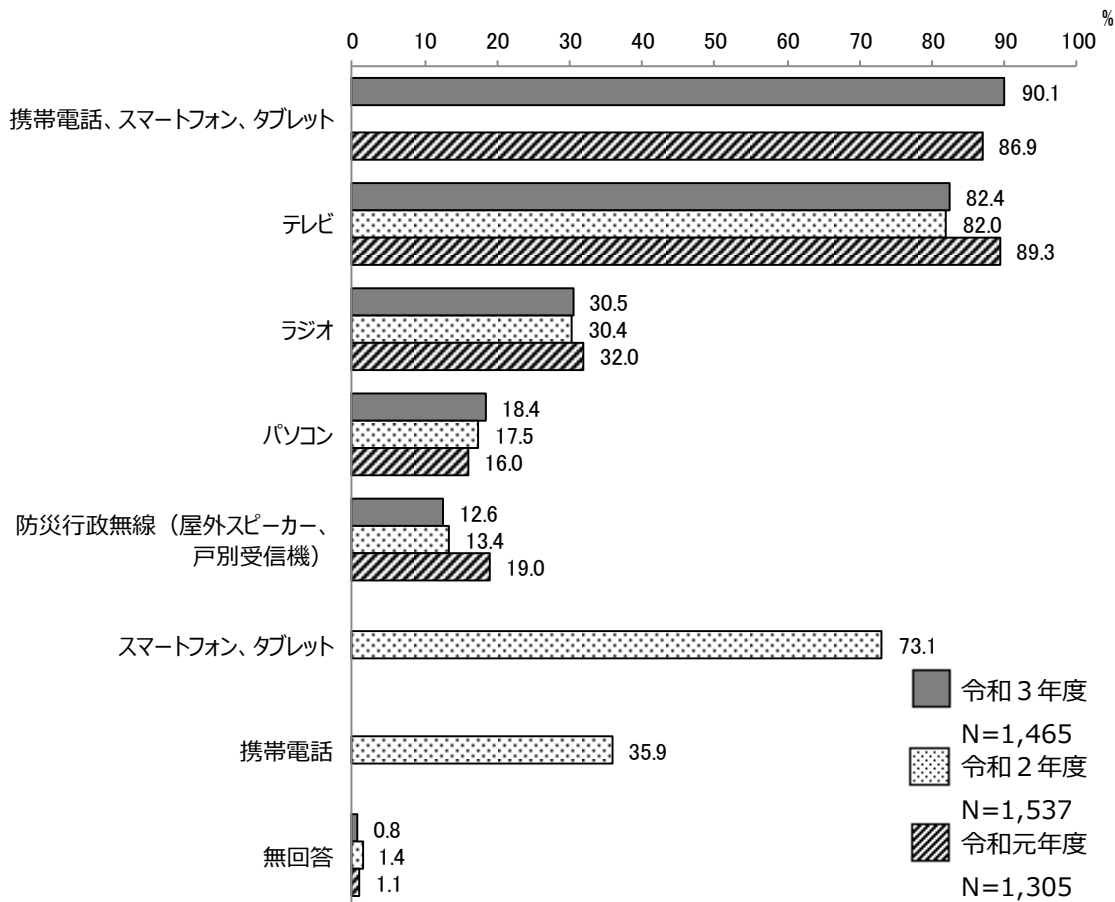
【年代別・行政区別】

(単位：%)

		津波・水害のハザードマップの公開	携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること	土砂災害危険箇所の周知	市民を対象にした防災講座や防災イベント	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	避難所に行っている人の1日分の食糧備蓄	橋の耐震対策を行っていること	固定器具の取付けや高年齢者世帯への啓発	どれも知らない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	84.4	61.9	33.8	32.5	10.0	21.3	11.9	5.0	5.6	0.0	0.0
	30歳代 N=172	75.6	68.0	34.3	25.0	11.0	14.0	15.7	7.6	11.6	1.2	0.6
	40歳代 N=250	82.0	80.0	39.6	33.2	27.6	20.4	18.0	13.2	5.2	0.8	0.4
	50歳代 N=282	83.3	81.6	44.7	29.4	33.3	19.9	20.2	16.7	2.8	0.0	0.4
	60歳代 N=284	80.6	76.8	44.0	36.6	47.9	29.9	19.0	22.9	6.0	0.7	1.8
	70歳以上 N=314	68.2	76.4	35.7	42.0	47.8	39.8	20.4	27.4	4.5	1.0	1.3
行政区別	中区 N=444	80.2	76.6	39.4	32.4	31.8	25.9	13.5	16.2	5.0	0.5	1.1
	東区 N=232	81.5	72.0	33.6	30.6	31.9	25.9	12.1	13.4	4.7	0.4	1.3
	西区 N=202	79.7	76.7	46.5	41.6	34.7	29.2	25.7	19.8	3.0	1.0	0.0
	南区 N=185	82.2	75.7	30.8	35.1	37.8	23.2	24.3	16.2	5.9	2.2	0.5
	北区 N=172	77.9	77.9	47.7	36.6	31.4	26.7	23.3	15.7	7.0	0.0	0.0
	浜北区 N=171	70.8	71.9	33.3	32.2	35.1	23.4	14.6	25.1	8.8	0.0	1.8
	天竜区 N=53	62.3	83.0	58.5	24.5	28.3	22.6	30.2	17.0	5.7	0.0	0.0

問 36 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

災害情報を得る手段は「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が 90.1%、「テレビ」が 82.4%



- 「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が 90.1%と最も高く、次いで「テレビ」が 82.4%となった。それ以外の項目は4割以下となった。令和2年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、50 歳代以下では「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が最も高く、60 歳代以上で「テレビ」が最も高い。また、70 歳以上では「ラジオ」も他の年代と比較して高く、その反面「携帯電話、スマートフォン、タブレット」はやや低い。
- 行政区別でみると、天竜区では「テレビ」が最も高く、他の行政区では「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が最も高い。また、北区、浜北区、天竜区では「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」が全体と比較して 10 ポイント以上高い。

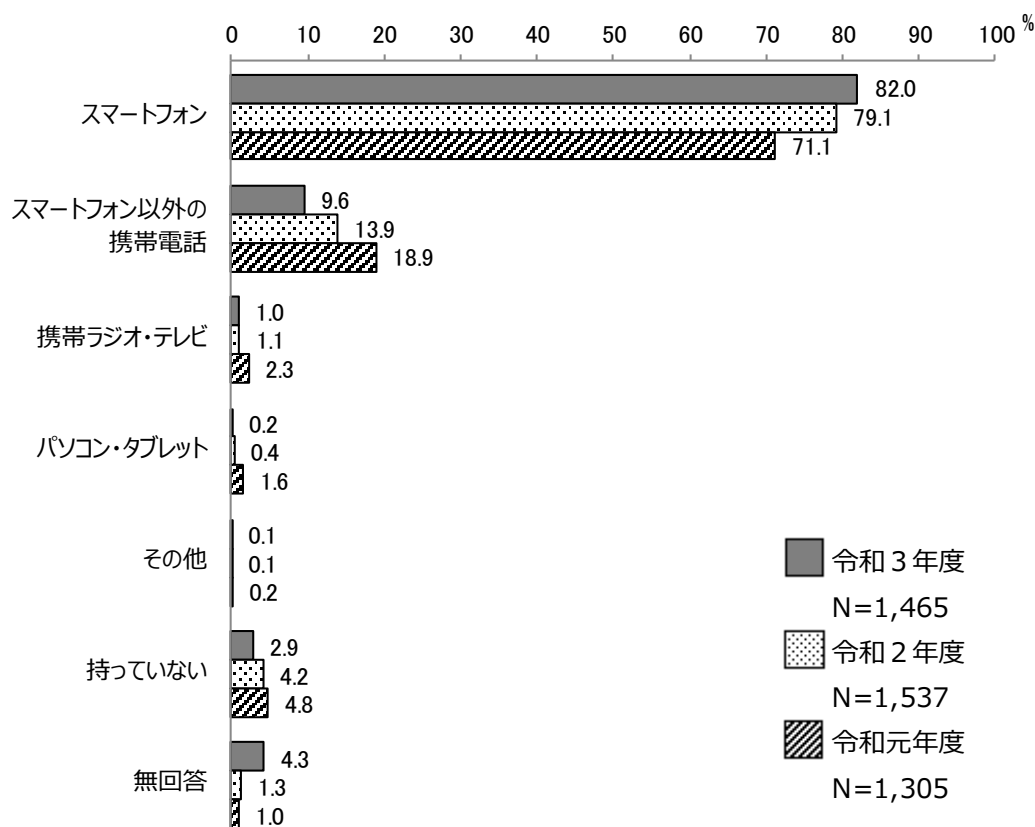
【年代別・行政区別】

(単位：%)

		携帯電話、スマートフォン、タブレット	テレビ	ラジオ	パソコン	防災行政無線	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	98.8	74.4	16.9	17.5	11.3	0.0
	30歳代 N=172	97.1	74.4	18.0	16.3	8.7	0.6
	40歳代 N=250	96.8	74.4	26.4	19.6	9.6	0.0
	50歳代 N=282	95.7	83.3	29.1	24.8	10.6	0.4
	60歳代 N=284	86.3	87.3	36.6	18.0	12.7	1.4
	70歳以上 N=314	75.5	92.4	43.3	14.0	19.4	1.3
行政区別	中区 N=444	93.2	80.2	26.8	21.6	4.3	0.9
	東区 N=232	90.1	83.6	30.6	16.4	4.3	1.3
	西区 N=202	87.1	85.1	32.7	14.9	13.9	0.0
	南区 N=185	90.3	77.8	30.8	18.9	8.1	1.1
	北区 N=172	89.0	83.7	32.6	22.7	26.7	0.0
	浜北区 N=171	89.5	86.5	36.8	15.2	25.7	0.6
	天竜区 N=53	83.0	84.9	26.4	7.5	41.5	0.0

問 37 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。
(主なものに1つだけ○を付けてください)

外出時に持ち歩く情報受信端末はスマートフォンが 82.0%



- 外出時に持ち歩く情報受信端末は、「スマートフォン」が 82.0% となり、他の項目については 1 割未満となった。令和 2 年度との比較では、「スマートフォン」は 2.9 ポイント増加となり、令和元年度以降、増加傾向となっている。一方で、「スマートフォン以外の携帯電話」は 4.3 ポイント減少となり、令和元年度以降、減少傾向となっている。
- 年代別でみると、すべての年代で「スマートフォン」が最も高く、40 歳代以下では 9 割を超えた。70 歳以上では「スマートフォン」が 60.5% とやや低く、「スマートフォン以外の携帯電話」が 23.2% と、全体と比較して 10 ポイント以上高い。
- 行政区別でみると、すべての年代で「スマートフォン」が最も高く、いずれも 7 割半ばから 8 割半ばとなっている。

【年代別・行政区別】

(単位：％)

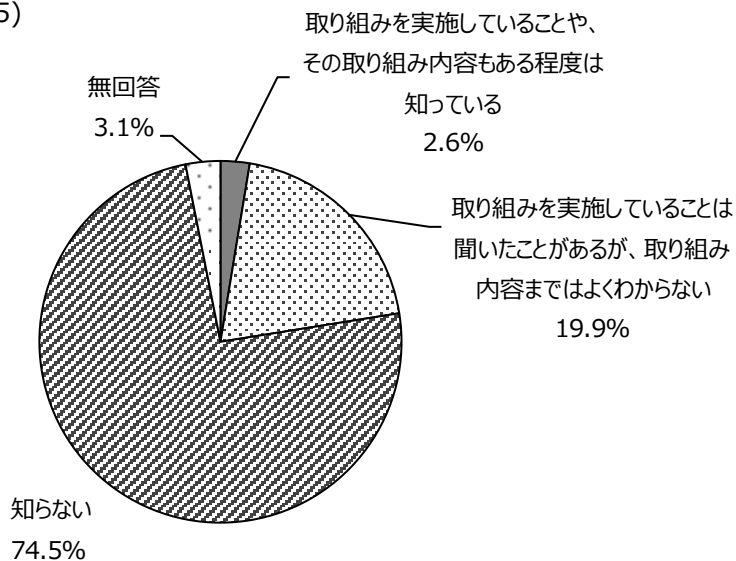
		スマートフォン	携帯電話 スマートフォン以外の	携帯ラジオ・テレビ	パソコン・タブレット	その他	持っていない	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	94.4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4
	30歳代 N=172	95.9	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	2.9
	40歳代 N=250	91.2	2.0	0.4	0.0	0.0	0.4	6.0
	50歳代 N=282	89.0	7.1	0.4	0.0	0.0	0.7	2.8
	60歳代 N=284	75.7	13.7	1.1	1.1	0.4	2.5	5.6
	70歳以上 N=314	60.5	23.2	3.2	0.0	0.0	9.9	3.2
行政区別	中区 N=444	85.6	8.1	0.5	0.0	0.2	2.0	3.6
	東区 N=232	82.8	8.2	0.9	0.4	0.0	2.2	5.6
	西区 N=202	79.7	11.4	2.5	0.5	0.0	2.5	3.5
	南区 N=185	80.5	8.6	0.0	0.5	0.0	4.9	5.4
	北区 N=172	80.8	11.0	1.2	0.0	0.0	2.3	4.7
	浜北区 N=171	77.8	12.3	2.3	0.0	0.0	4.1	3.5
	天竜区 N=53	81.1	11.3	0.0	0.0	0.0	5.7	1.9

2-12 デジタル・スマートシティについて

問 38 あなたは、昨年度に「デジタル・スマートシティ構想」を策定するなど、本市がデジタル・スマートシティ政策を推進していることをご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

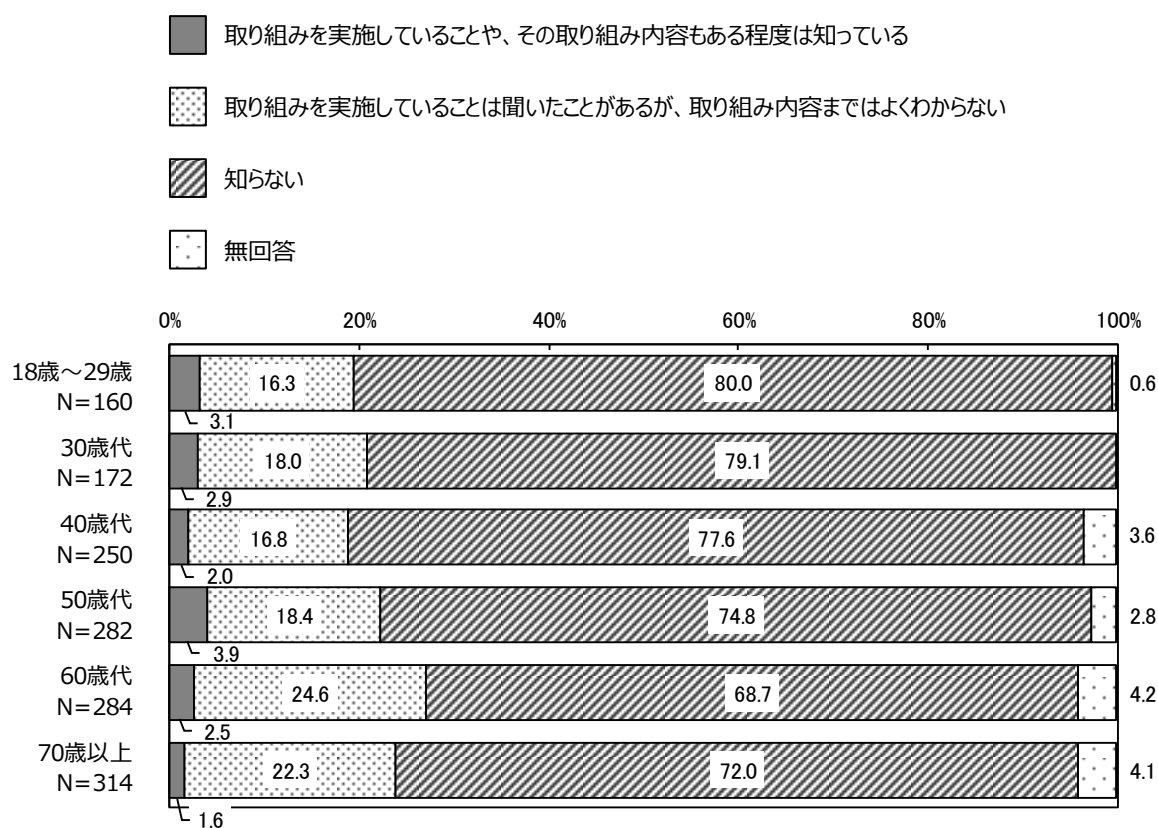
デジタル・スマートシティ政策を推進していることの認知度は 22.5%

(N=1,465)

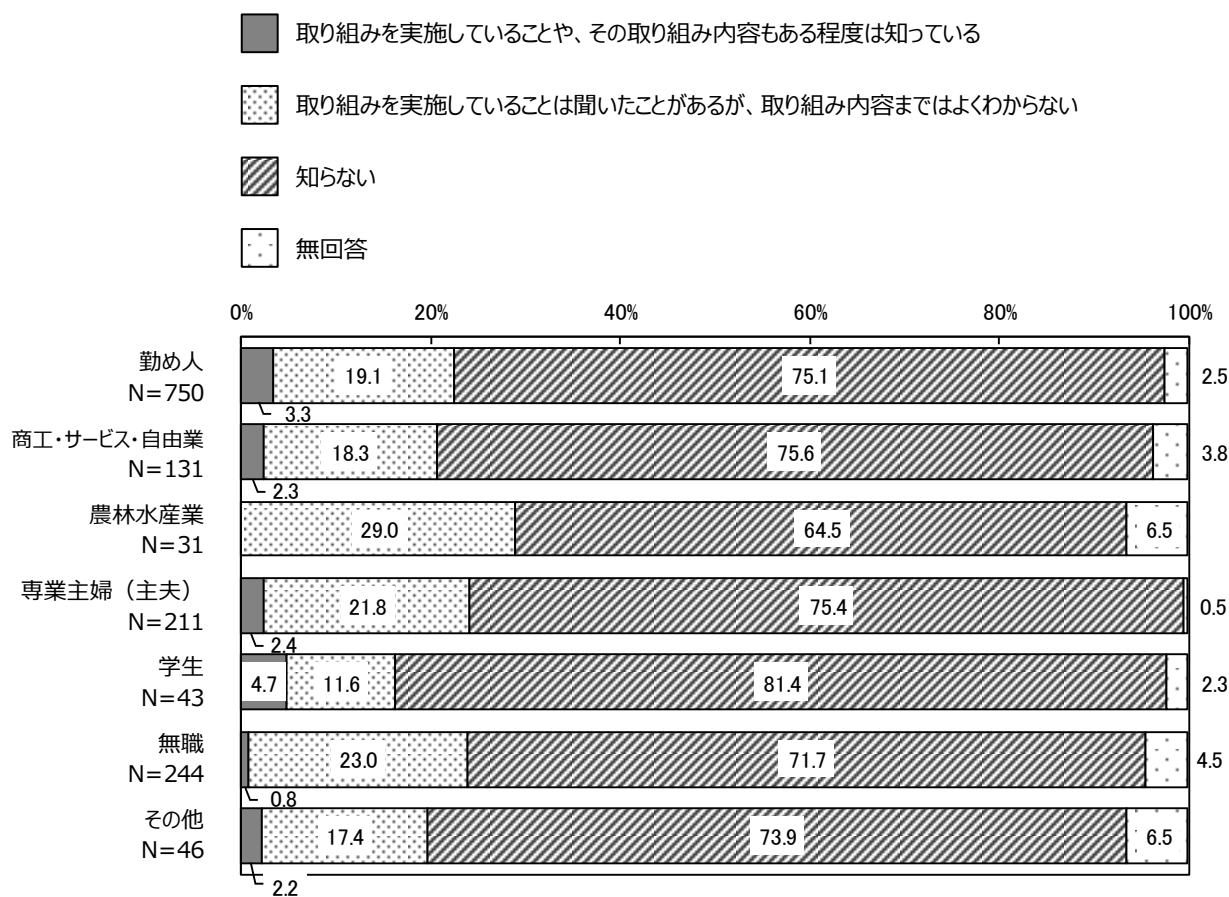


- 「取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている」と「取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよくわからない」を合わせた『認知度』は 22.5% となり、「知らない」の 74.5% を 52.0 ポイント下回った。
- 年代別でみると、『認知度』は 60 歳代の 27.1% が最も高く、次いで 70 歳以上の 23.9% となった。「知らない」と回答した割合はすべての年代で 6 割を超え、18 歳～29 歳の 80.0% が最も高い。
- 職業別でみると、『認知度』は農林水産業の 29.0% が最も高く、次いで専業主婦（主夫）の 24.2% となった。「知らない」と回答した割合はすべての職業で 6 割を超え、学生の 81.4% が最も高い。

【年代別】

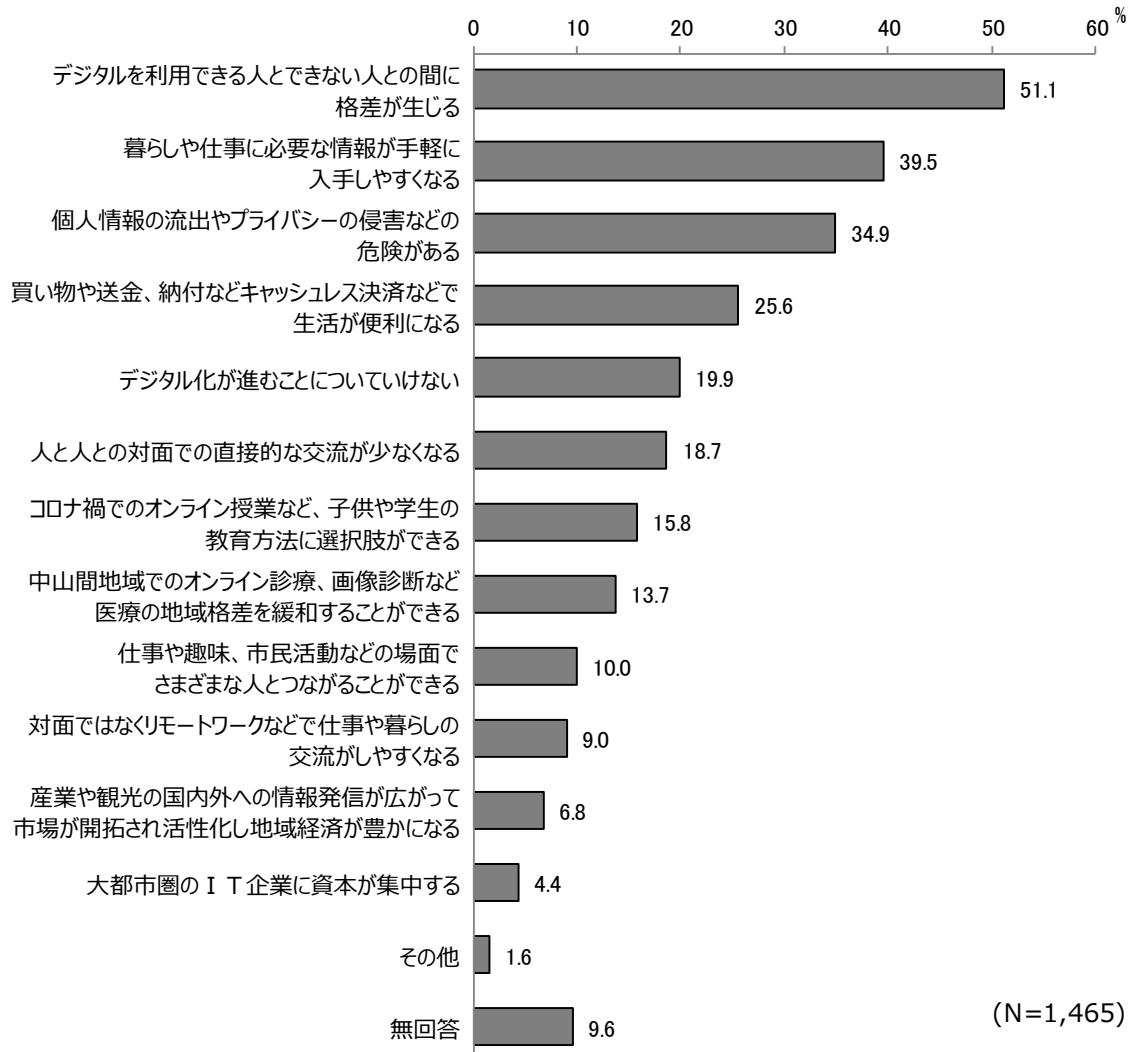


【職業別】



問 39 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。
(3つまで○を付けてください)

「デジタルを活用したまちづくり」について、「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」と考える人は 39.5%、一方で「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」と考える人は 51.1%



- 「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が 51.1%と最も高く、次いで「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」が 39.5%、「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」が 34.9%となった。
- 高齢になるほど「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が高くなる一方で、若年になるほど「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」や「買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる」が高くなる傾向にある。
- 職業別でみると、学生では「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」が最も高く、他の職業では「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が最も高い。また、農林水産業、無職、その他では「デジタル化が進むことについていけない」が3割半ばを超え、全体と比較して 10 ポイント以上高い。

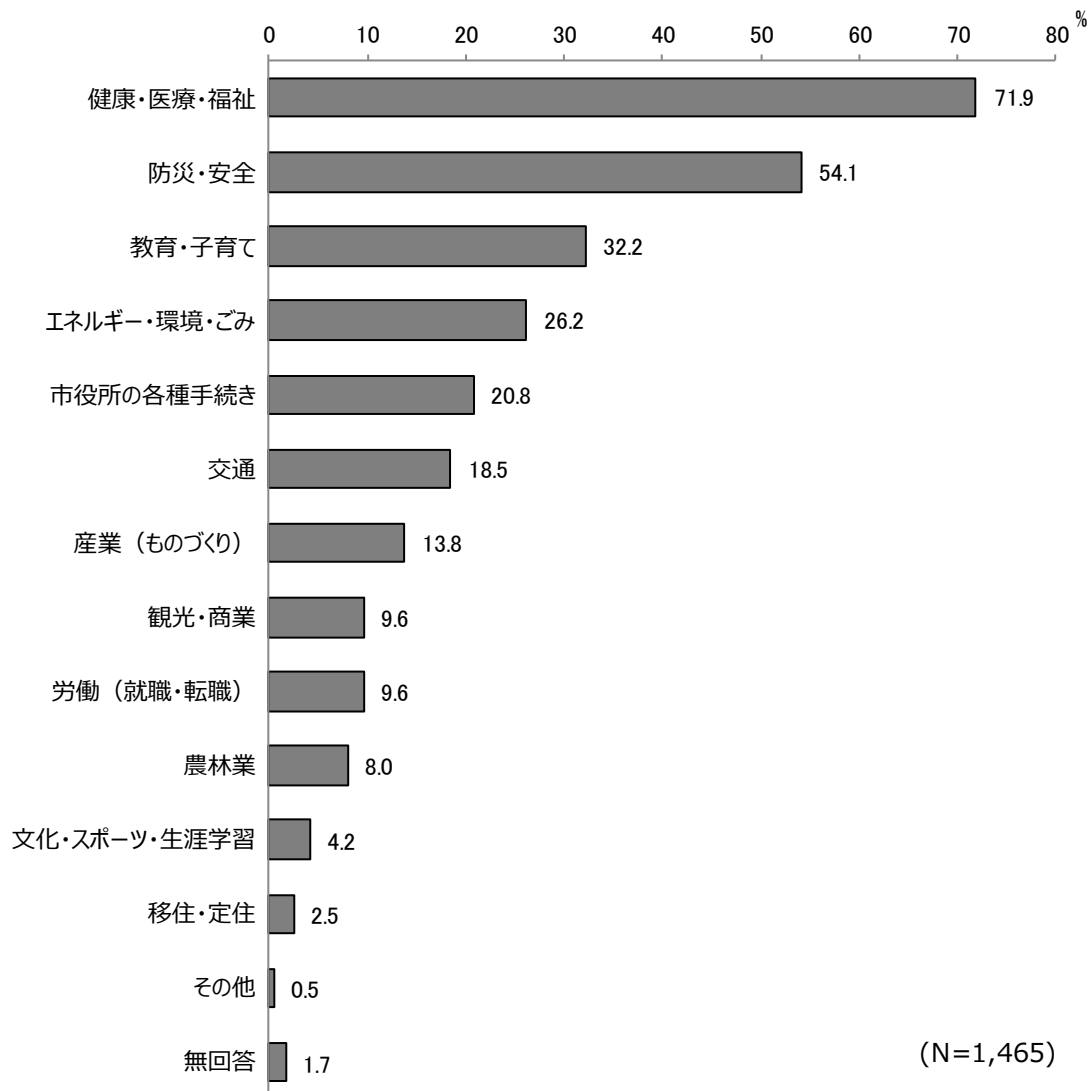
【年代別・行政区別】

(単位：％)

		差 が 生 じ る	デ ジ タ ル を 利 用 で き る 人 と で き な い 人 と の 間 に 格	暮 ら し や 仕 事 に 必 要 な 情 報 が 手 軽 に 入 手 し や す く	個 人 情 報 の 流 出 や プ ラ イ バ シ ー の 侵 害 な ど の 危 険 が あ る	買 い 物 や 送 金 、 納 付 な ど キ ャ ッ シ ュ レ ス 決 済 な ど で 生 活 が 便 利 に な る	デ ジ タ ル 化 が 進 む こ と に つ い て い け な い	人 と 人 と の 対 面 で の 直 接 的 な 交 流 が 少 な く な る	教 育 方 法 に 選 択 肢 が で き る コ ロ ナ 禍 で の オ ン ラ イ ン 授 業 な ど 、 子 供 や 学 生 の	療 の 地 域 格 差 を 緩 和 す る こ と が で き る 中 山 間 地 域 で の オ ン ラ イ ン 診 療 、 画 像 診 断 な ど 医	と つ な が る こ と が で き る 仕 事 や 趣 味 、 市 民 活 動 な ど の 場 面 で さ ま ざ ま な 人	の 対 面 で は な く リ モ ー ト ワ ー ク な ど で 仕 事 や 暮 ら し の 交 流 が し や す く な る	市 場 が 開 拓 さ れ 活 性 化 し 地 域 経 済 が 豊 か に な る 産 業 や 観 光 の 国 内 外 へ の 情 報 発 信 が 広 が つ て る	大 都 市 圏 の Ｉ Ｔ 企 業 に 資 本 が 集 中 す る	そ の 他	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 N=160	37.5	50.6	27.5	43.8	5.6	15.6	19.4	11.9	16.9	20.0	6.9	3.1	1.9	5.0	
	30歳代 N=172	38.4	44.2	29.1	39.5	7.6	16.3	23.8	8.7	12.8	16.3	6.4	3.5	1.2	9.3	
	40歳代 N=250	48.8	42.0	34.0	31.6	11.2	11.6	26.0	14.4	11.2	10.0	7.6	4.0	2.4	9.6	
	50歳代 N=282	52.8	46.5	37.6	24.5	17.4	18.1	14.5	17.0	10.3	7.8	5.3	5.3	1.8	7.1	
	60歳代 N=284	60.9	37.7	41.9	16.9	24.6	20.4	10.6	18.0	5.6	3.9	8.8	4.9	1.8	7.4	
	70歳以上 N=314	56.4	24.8	33.8	13.1	39.2	26.1	7.3	10.2	8.0	4.5	5.7	4.5	0.6	15.6	
職 業 別	勤め人 N=750	47.2	44.8	33.5	32.9	12.0	16.4	18.0	14.4	11.1	11.7	7.3	4.1	1.7	8.1	
	商工・サービス・ 自由業	49.6	39.7	37.4	21.4	17.6	18.3	16.0	11.5	12.2	3.1	5.3	4.6	1.5	14.5	
	農林水産業 N=31	45.2	22.6	32.3	12.9	35.5	29.0	3.2	19.4	16.1	3.2	9.7	0.0	0.0	12.9	
	専業主婦（主 夫）	57.3	41.2	36.0	19.9	26.5	18.0	17.5	16.6	6.2	7.1	8.5	3.8	0.5	8.5	
	学生 N=43	44.2	46.5	25.6	39.5	7.0	16.3	20.9	14.0	20.9	23.3	7.0	7.0	2.3	0.0	
	無職 N=244	58.6	24.2	36.5	11.9	37.7	26.6	8.2	10.2	7.4	5.3	4.9	4.5	1.6	12.7	
	その他 N=46	65.2	30.4	52.2	15.2	37.0	13.0	17.4	10.9	6.5	2.2	2.2	8.7	2.2	6.5	

問 40 あなたは、利便性や生産性を向上するため、どのような分野に先端技術を活用すべきだとお考えですか。（3つまで○を付けてください）

先端技術を活用すべき分野は「健康・医療・福祉」と考える人が 71.9%



- 「健康・医療・福祉」が 71.9%と最も高く、次いで「防災・安全」が 54.1%、「教育・子育て」が 32.2%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「健康・医療・福祉」が最も高い。「防災・安全」は年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、60 歳代以上では6割を超えた。「教育・子育て」は 30 歳代以下で5割を超えた。
- 職業別でみると、すべての職業で「健康・医療・福祉」が最も高い。学生では「防災・安全」が 32.6%と、全体と比較して 21.5 ポイント低く、「教育・子育て」と「交通」は全体と比較して 10 ポイント以上高い。また、農林水産業では「農林業」が 32.3%と突出して高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

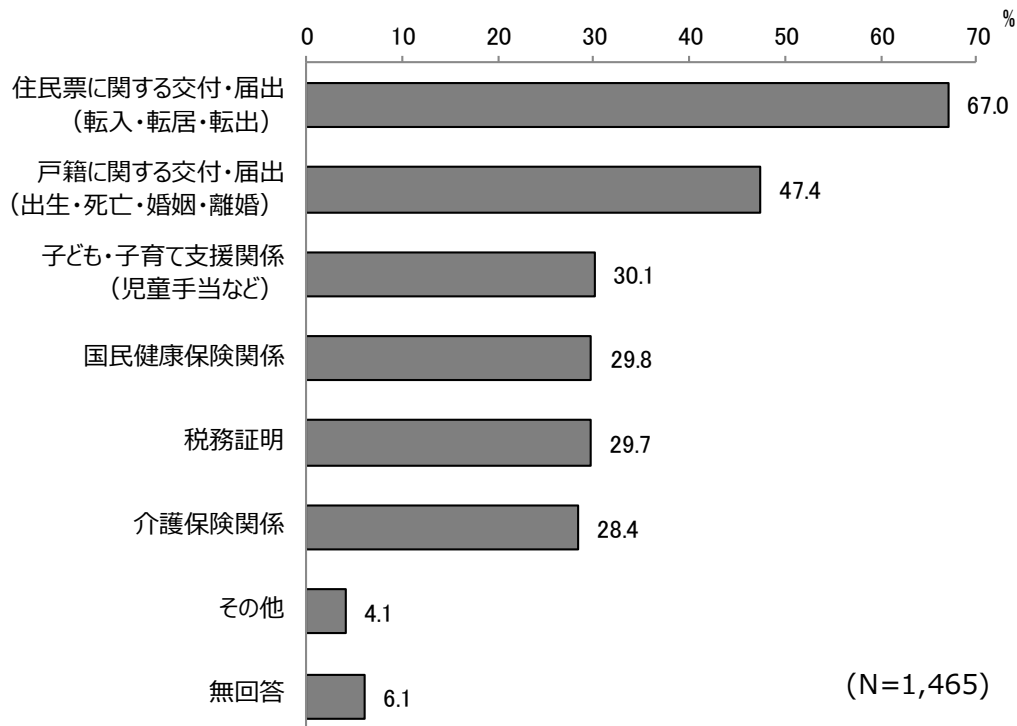
		健康・医療・福祉	防災・安全	教育・子育て	エネルギー・環境・ごみ	市役所の各種手続き	交通	産業（ものづくり）	観光・商業	労働（就職・転職）	農林業	習文化・スポーツ・生涯学	移住・定住	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	64.4	40.0	50.0	16.3	17.5	20.0	19.4	14.4	17.5	8.1	5.6	1.3	0.6	0.0
	30歳代 N=172	65.7	36.0	52.9	21.5	24.4	22.7	14.0	9.3	13.4	7.0	5.2	3.5	0.0	0.0
	40歳代 N=250	64.8	46.4	42.0	26.0	23.2	17.6	14.0	11.6	11.6	6.4	3.6	3.2	0.4	0.4
	50歳代 N=282	73.0	54.3	29.1	28.0	23.0	20.9	10.6	9.6	11.0	6.0	2.5	2.8	0.4	0.7
	60歳代 N=284	77.8	68.0	21.1	27.5	17.6	17.3	15.5	9.5	6.0	10.9	1.8	0.7	1.4	1.8
	70歳以上 N=314	79.0	65.3	17.2	31.5	19.4	15.3	11.8	5.7	3.8	8.6	7.0	3.5	0.3	4.8
職業別	勤め人 N=750	68.5	49.1	36.4	24.3	22.4	20.5	14.5	10.0	12.1	7.6	3.3	2.8	0.5	0.7
	商工・サービス・自由業 N=131	69.5	62.6	29.0	24.4	26.0	17.6	9.9	9.2	9.2	0.8	5.3	3.8	0.0	1.5
	農林水産業 N=31	71.0	45.2	16.1	22.6	22.6	22.6	9.7	9.7	6.5	32.3	0.0	0.0	3.2	6.5
	専業主婦（主夫） N=211	81.0	63.5	36.0	25.6	16.1	13.7	12.3	8.5	4.3	8.5	5.7	1.9	0.0	1.4
	学生 N=43	60.5	32.6	48.8	25.6	14.0	30.2	16.3	16.3	14.0	7.0	9.3	2.3	0.0	0.0
	無職 N=244	79.5	63.1	18.9	34.4	18.9	14.8	14.8	7.4	5.3	8.6	4.5	1.6	0.4	4.1
	その他 N=46	69.6	52.2	26.1	26.1	15.2	19.6	13.0	10.9	15.2	13.0	4.3	2.2	4.3	2.2

問 41 あなたは、オンライン申請※でどのような手続きが便利になることを望みますか。

(3つまで○を付けてください)

※ オンライン申請とは、インターネットを利用して、申請・届出などの行政手続きをいつでも、どこからでもできることです。

オンライン申請で便利になることを望まれている手続きは、「住民票に関する交付・届出」が67.0%



- 「住民票に関する交付・届出（転入・転居・転出）」が67.0%と最も高く、次いで「戸籍に関する交付・届出（出生・死亡・婚姻・離婚）」が47.4%、「子ども・子育て支援関係（児童手当など）」が30.1%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「住民票に関する交付・届出（転入・転居・転出）」が最も高い。「介護保険関係」は年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、50歳代以上では3割を超え、40歳代以下では1割台となった。「子ども・子育て支援関係（児童手当など）」は40歳代以下で4割を超え、30歳代では58.1%と最も高い。
- 職業別でみると、すべての職業で「住民票に関する交付・届出（転入・転居・転出）」が最も高い。農林水産業では「税務証明」、学生では「子ども・子育て支援関係（児童手当など）」、無職では「国民健康保険関係」と「介護保険関係」が、それぞれ全体と比較して10ポイント以上高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

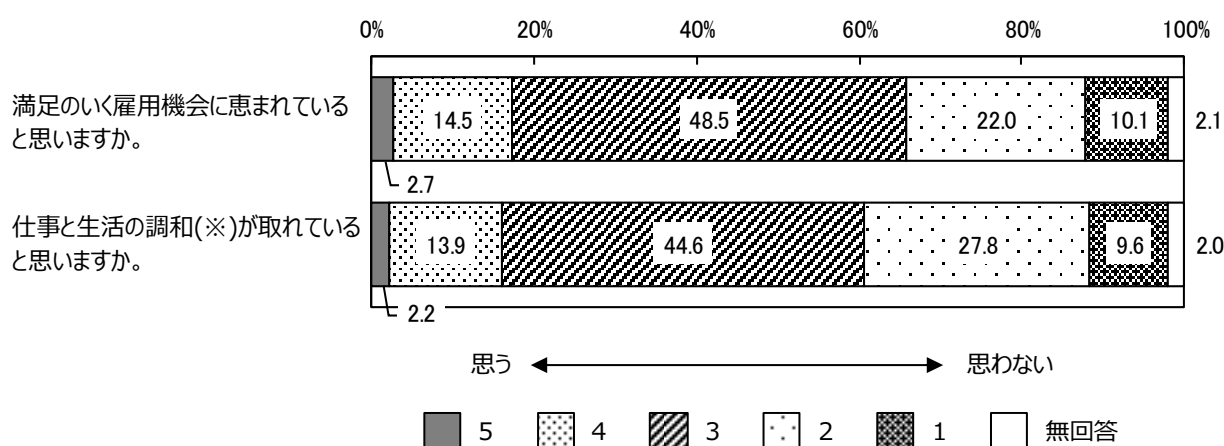
		住民票に関する交付・届出 (転入・転居・転出)	戸籍に関する交付・届出 (出生・死亡・婚姻・離婚)	子ども・子育て支援関係 (児童手当など)	国民健康保険関係	税務証明	介護保険関係	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 N=160	83.1	48.8	43.8	28.8	25.0	11.3	4.4	1.9
	30歳代 N=172	76.7	48.8	58.1	19.2	29.1	12.2	2.3	4.1
	40歳代 N=250	69.6	42.4	48.8	20.8	36.0	18.0	4.4	3.2
	50歳代 N=282	75.2	56.0	20.2	25.9	36.5	31.2	3.2	2.5
	60歳代 N=284	59.5	48.6	17.3	34.5	32.7	35.9	4.6	7.7
	70歳以上 N=314	51.3	41.4	13.7	42.7	18.8	44.9	5.1	12.7
職業別	勤め人 N=750	74.4	50.5	36.3	23.1	33.5	23.6	3.7	3.2
	商工・サービス・自由業 N=131	67.2	51.9	21.4	36.6	30.5	26.0	3.1	7.6
	農林水産業 N=31	48.4	38.7	9.7	38.7	41.9	32.3	0.0	12.9
	専業主婦（主夫） N=211	62.6	45.5	34.6	33.2	25.6	36.0	3.3	7.1
	学生 N=43	83.7	44.2	41.9	27.9	27.9	11.6	4.7	0.0
	無職 N=244	50.8	39.8	15.6	42.2	21.7	40.2	6.1	11.1
	その他 N=46	56.5	50.0	17.4	34.8	23.9	28.3	4.3	13.0

3 浜松市戦略計画 2021 について

問 42 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

【若者がチャレンジできるまち】

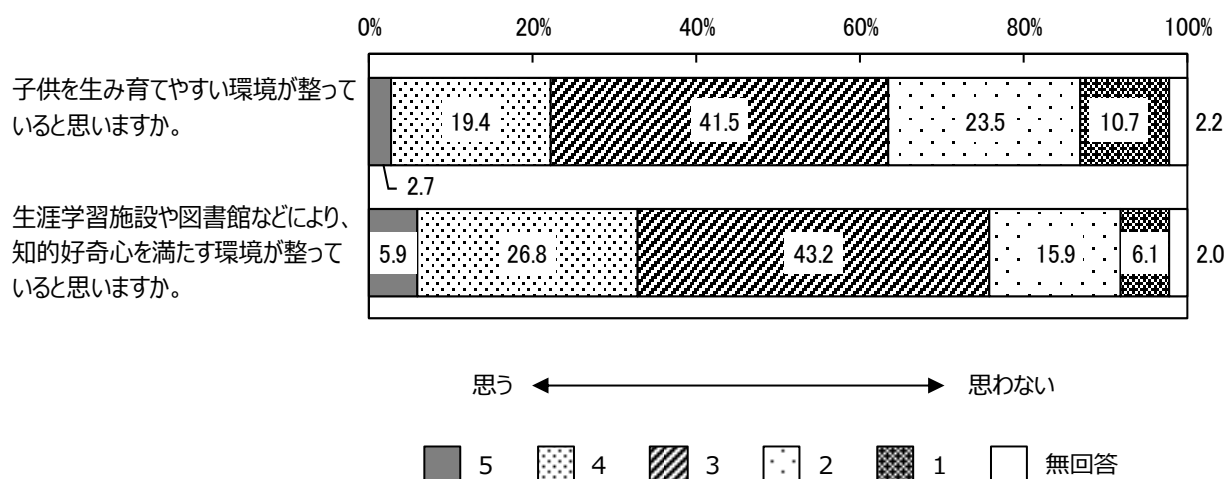
N=1,465



※ 仕事と家事・育児・介護などと両立すること。

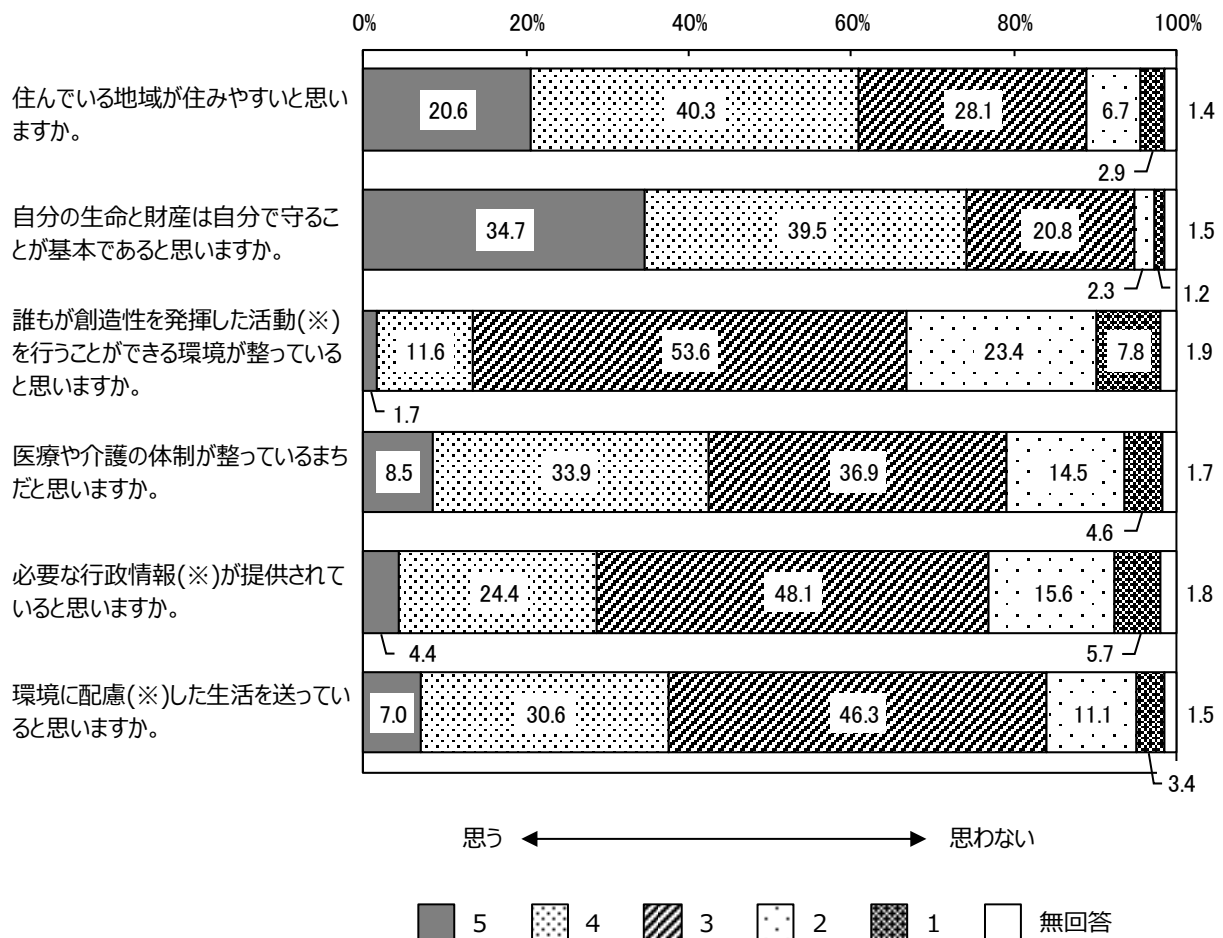
【子育て世代を全力で応援するまち】

N=1,465



【持続可能で創造性あふれるまち】

N=1,465



※ 創造性を発揮した活動：固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの魅力を生み出していく活動。

※ 行政情報：各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報。

※ 環境に配慮：ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など。

- 評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かった項目は、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の74.2%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の13.3%だった。
- 令和2年度と比較すると、10項目中6項目が上昇となった。最も上昇したのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の2.3ポイントであった。一方で最も下降したのは「子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。」の▲2.2ポイントであった。

【令和2年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

(単位：％)

	令和3年度 結果 (A)	令和2年度 結果 (B)	差 (A-B)
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	13.3	11.0	2.3
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	32.7	30.5	2.2
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	37.6	35.9	1.7
住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	60.9	60.2	0.7
医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	42.4	41.8	0.6
必要な行政情報が提供されていると思いますか。	28.8	28.7	0.1
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	74.2	75.0	▲ 0.8
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	16.1	17.8	▲ 1.7
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	17.2	19.0	▲ 1.8
子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	22.1	24.3	▲ 2.2

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

- 全国的な医療体制ひっ迫の中、「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」の項目が2年連続で上昇する一方で、「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」の項目は2年連続で下降するなど、新型コロナウイルス感染症の影響が伺われる結果となった。

※ 次ページの【性別・年齢別・行政区別】の表は、評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う割合が高くなる指数である。

【性別・年代別・行政区別】

◎＝6点以上 ＊＝4点以下（単位：点）

		若者がチャレンジできるまち		子育て世代を全力で応援するまち		持続可能で創造性あふれるまち					
		満足していますか。	仕事の生活の調和が取れていますか。	子供を育てやすい環境が整っていますか。	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていますか。	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。
性別	男	4.7	4.4	4.5	5.2	◎6.7	◎7.7	4.5	5.8	5.0	5.6
	女	4.5	4.3	4.7	5.4	◎6.9	◎7.6	4.5	5.8	5.4	5.8
	選べない	*3.4	*3.4	*3.4	4.7	4.2	◎6.0	5.5	4.7	4.5	◎6.0
年代別	10歳代	4.6	4.7	4.6	5.7	◎7.2	◎6.9	4.5	5.4	5.0	◎6.0
	20歳代	5.3	5.0	5.0	5.7	◎7.3	◎7.6	4.8	◎6.0	5.6	5.7
	30歳代	4.6	4.2	4.2	5.2	◎6.7	◎8.1	4.5	5.4	5.1	5.3
	40歳代	4.4	4.2	4.5	5.5	◎6.8	◎7.5	4.4	5.8	5.3	5.4
	50歳代	4.6	4.6	4.8	5.3	◎6.6	◎7.6	4.5	5.8	5.2	5.6
	60～64歳	4.1	4.2	4.5	5.1	◎6.7	◎7.7	4.4	5.6	5.1	5.9
	65～69歳	4.2	4.1	4.4	5.1	◎6.7	◎7.5	4.4	5.7	5.0	5.7
	70～74歳	4.5	4.2	4.7	5.3	◎6.7	◎7.8	4.2	5.7	5.1	◎6.1
	75歳以上	4.5	4.5	4.7	5.3	◎6.8	◎7.8	4.8	◎6.3	5.3	◎6.4
行政区	中区	4.6	4.5	4.8	5.4	◎7.2	◎7.6	4.5	◎6.0	5.4	5.7
	東区	4.7	4.4	4.7	5.1	◎6.9	◎7.8	4.5	5.7	5.1	5.8
	西区	4.5	4.2	4.4	5.3	◎6.1	◎7.3	4.5	5.6	4.9	5.5
	南区	4.7	4.6	4.7	5.5	◎6.7	◎8.1	4.7	5.8	5.4	5.9
	北区	4.4	4.3	4.4	5.6	◎6.4	◎7.6	4.4	5.8	5.2	5.6
	浜北区	4.4	4.2	4.6	5.3	◎7.0	◎7.7	4.3	5.6	5.4	5.8
	天竜区	*3.8	*4.0	4.2	4.5	5.7	◎7.5	*3.8	4.5	4.6	5.0

- 性別・年代別・行政区別でみると、令和2年度に続き、すべての属性で「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の指数が最も高い。
- 令和2年度と比較すると、「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」では6点以上が1つから4つに増え、「65～69歳」、「北区」、「天竜区」を除いた属性で増加となった。また、「生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。」でも「選べない」と「75歳以上」を除き、増加となった。

付録 調査票

令和3年度 市民アンケート調査（第48回）

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

市民の皆さまには、変異ウイルスによる感染が増加するなど長期化する感染症対策のため、引き続きマスクの着用や手指消毒、人との距離の確保など基本的な感染予防対策に取り組んでいただいているところでございます。

本市においても、ワクチン接種のご案内を国、県、医師会等関係機関と緊密に連携を図り進めていくとともに、大きな影響を受けている飲食業や観光業を支援するなど経済活動への対策や感染予防対策に取り組んでいるところであります。

さて、浜松市では、これまでも市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実に努めてまいりました。今後のまちづくりの基礎調査として市民アンケート調査を実施し、市民の皆さまの暮らしが豊かになるよう活用していきたいと考えております。

この調査を実施するにあたり、市内在住の満18歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

令和3年7月 浜松市長 鈴木 康 友

<ご回答についてのお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 8月20日（金）までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、浜松市役所 広聴広報課 市民コールセンターグループ
☎（053）457-2023 へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

① 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。	1 知っている		2 知らない
② 協働センター ※平成24年4月から地域自治センターが、平成25年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。 ※協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。	1 名称や内容をある程度知っている	2 名称は聞いたことがある	3 名称も内容も知らない
③ やさしい日本語 ※多くの方に広く伝達可能なコミュニケーション支援策として「やさしい日本語」の活用を進めています。 特に、多くの外国人市民に対して多言語での対応が必要とされますが、全ての言語に対応することは困難なため、簡単でわかりやすい日本語で情報提供していく取り組みです。	1 名称や内容をある程度知っている	2 名称は聞いたことがある	3 名称も内容も知らない

～ S D G s の達成に向けて ～

(SDGs:Sustainable Development Goals)



SDGs(エスディージーズ)とは、2015年(平成27年)に開催された国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」のことで、2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標です。

貧困や飢餓、経済成長、気候変動など、21世紀の世界が抱える問題を、世界中の人々、企業などが連携して解決することを目指しています。

本市は、SDGsの達成に向けて先進的な取り組みを行っている自治体として国より、「SDGs未来都市」に選ばれ、再生可能エネルギー、林業や多文化共生など、SDGsの達成に向けた取り組みを行っています。

※本アンケートの各設問に、関連するSDGsのアイコンを表示しています。

問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている	2. 名称だけは知っている	3. 名称も内容も知らない
----------------	---------------	---------------

《再生可能エネルギーについて》



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
関連事業：太陽光発電の導入ほか

浜松市では、エネルギー・スマートシティの実現に向け、市民や事業者の皆さまと一体となった再生可能エネルギー（RE：renewable energy）の導入拡大などにより、令和 32 年までに「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す「浜松市域“RE100”」に向けた取り組みを推進しています。

問3 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

※再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- | |
|------------------------------|
| 1. 環境にやさしいエネルギーであること |
| 2. 光熱費が安く抑えられること |
| 3. 家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること |
| 4. 災害時においても使用できること |
| 5. わからない |

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）を既に導入していますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- | |
|---|
| 1. 太陽光発電設備を導入している |
| 2. 太陽熱利用設備を導入している |
| 3. 蓄電池を導入している |
| 4. エネファーム（家庭用燃料電池）を導入している |
| 5. V2H対応型充電設備（電気自動車（EV）に蓄えた電気を家庭で利用するシステム）を導入している |
| 6. その他の設備を導入している |
| 7. いずれも導入していないが、導入したいと考えている |
| 8. いずれも導入していないし、導入する考えもない |

《F S C 森林認証について》



11 住み続けられるまちづくり
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさを守ろう

関連事業：森林認証推進事業、FSC 認証材利用拡大推進事業

浜松市では、国際的な認証制度である F S C 森林認証に基づく持続可能かつ適切な森林経営と、天竜材・天竜材製品の流通・販路拡大に取り組んでいます。

問7 あなたは「F S C 森林認証※」をご存じですか。

(1 つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※「F S C 森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

問8 あなたは「F S C 森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約 49,130ha（令和3年4月1日現在））を有していることをご存じですか。

(1 つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問9 あなたは東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「F S C 森林認証」の森林から生産された木材が使用されていることをご存じですか。

(1 つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

《多文化共生について》



4 質の高い教育をみんなに
10 人や国の不平等をなくそう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連事業：外国人の子供の教育支援、国際理解教育講座、国際交流連携推進事業ほか

浜松市には令和3年4月1日時点で 25,000 人を超える外国人が住んでいます。こうした中で、浜松市は多様性を生かした社会を築くための取り組みを推進するとともに、国際的な繋がりを通して都市の魅力を高める取り組みを推進しています。

問10 あなたは、浜松市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。

(1 つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 外国人の子供の教育支援 | 2. 日本語の習得支援 |
| 3. 生活・行政情報の多言語による提供 | 4. 防災訓練などの地域社会への参画促進 |
| 5. 多文化共生に関する啓発や教育、理解促進 | 6. 交流・異文化体験の機会拡大 |
| 7. 生活ルールの順守と社会的義務の遂行 | 8. 多様性を生かした地域の活性化 |

問11 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1 つだけ○を付けてください)

- | | | | | |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

問12 外国人材の受け入れ拡大の動きが全国的に進む中、共生社会を築くため、浜松市では外国人が生活言語である日本語を話せるよう日本語習得を促進していますが、日本語学習支援体制の一層の充実が必要だと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 必要だと思う

2. 必要だと思わない

3. どちらでもない

問13 あなたは、浜松市が行っている国際化推進施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 海外諸都市や国際機関等との連携

2. 国際協力・国際貢献

3. 市内企業の海外進出・販路開拓支援

4. 海外からの観光インバウンドの推進

5. 国際的な音楽・文化スポーツイベントの開催

6. 国際的な市民交流の支援

問14 姉妹都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。例えば、公益財団法人浜松国際交流協会を通じて、国際交流や多文化共生に取り組む市民活動への助成を行っています。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足

2. どちらかといえば満足

3. どちらでもない

4. どちらかといえば不満

5. 不満

《ユニバーサルデザイン・男女共同参画について》



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう

関連事業：ユニバーサルデザイン推進事業、男女共同参画推進事業ほか

浜松市では、誰もが安全、安心で快適に暮らすことができる「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指し、ユニバーサルデザインや男女共同参画社会※の推進に取り組んでいます。

※男女共同参画社会とは、男女が共に、対等の立場で、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画できる社会のことです。

問15 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている

2. 名称だけは知っている

3. 名称も内容も知らない

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていこうとする考え方のことです。

問16 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくりについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足

2. どちらかといえば満足

3. どちらでもない

4. どちらかといえば不満

5. 不満

問17 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足

2. どちらかといえば満足

3. どちらでもない

4. どちらかといえば不満

5. 不満

《文化振興について》



4 質の高い教育をみんなに
関連事業：市民音楽文化振興事業ほか

浜松市では、「文化で市民の幸せを創り出す都市」を目標に定め、誰もが気軽に多様な文化を楽しむことができ、暮らしの豊かさや都市の活力につながるまちづくりを推進しています。

問18 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | | | | | |
|---------|----------------|-----------------|--------|--------|------------|
| 1. 文学 | 2. 音楽 | 3. 美術 | 4. 写真 | 5. 演劇 | 6. 舞踊 |
| 7. 民俗芸能 | 8. 茶道 | 9. 華道 | 10. 書道 | 11. 工芸 | 12. メディア芸術 |
| 13. 歴史 | 14. 特に取り組んでいない | 15. その他(具体的に:) | | | |

問19 あなたは、問18で回答した文化芸術についてどのくらいの頻度に取り組んでいますか。

(問18で選んだもののうち最も力を入れているものに関して1つだけ○を付けてください)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 毎日 | 2. ほぼ毎日(週4～6日) |
| 3. 頻繁に(週1～3日) | 4. 定期的に(月に2～3日) |
| 5. たまに(年数日) | 6. その他(具体的に:) |

問20 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | | |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

《スポーツの推進について》



3 すべての人に健康と福祉を
関連事業：スポーツの普及・活性化事業ほか

浜松市では、「スポーツ文化都市 浜松」の実現を目指し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」のそれぞれに目標を設定して、スポーツの推進に取り組んでいます。

問21 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. ほぼ毎日、支援活動を行った | 2. 月に数回のペースで支援活動を行った |
| 3. 年に1回は支援活動を行った | 4. 全く支援活動を行わなかった |

問22 あなたは、過去1年間でスポーツ(運動)をどの程度行いましたか。

身体を動かすことを目的としたもの(ウォーキングや階段昇り降りなど)から本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週3回以上 | 3. 週1回以上 |
| 4. 月に1～2回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. スポーツ(運動)をしない |

問23 あなたは、過去1年間で実際に会場に出向いたスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。
プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含まれます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-----------|-----------|------------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 月に数回程度 | 3. 月に1回程度 |
| 4. 年に数回程度 | 5. 年に1回程度 | 6. スポーツ観戦・応援をしない |

《人権について》



16 平和と公正をすべての人に
関連事業：人権啓発事業ほか

人権は「誰もが幸せに生きていく権利」で身近で大切なものです。浜松市では、お互いの人権が尊重された「思いやりあふれる社会の実現」に向けた取り組みを進めています。

問24 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | | |
|-------|-----------|------------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. ときどき思う | 3. あまり思わない | 4. 思わない | 5. わからない |
|-------|-----------|------------|---------|----------|

問25 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | | |
|-------|-----------|------------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. ときどき思う | 3. あまり思わない | 4. 思わない | 5. わからない |
|-------|-----------|------------|---------|----------|

問26 浜松市では、性の多様性について正しい理解と知識を深めるための研修や啓発事業を実施しています。あなたは「LGBT※」についてご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で、性的少数者（セクシャルマイノリティ）を表す言葉の一つとして使われることもあります。Lは、レズビアン（女性の同性愛者）、Gは、ゲイ（男性の同性愛者）、Bは、バイセクシャル（両性愛者）、Tは、トランスジェンダー（「身体の性」と「心と性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人。「心の性」にそって生きたいと望む人も多く見られます。）

問27 あなたは、共生社会の実現に向けた取り組みを推進している東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機として、市民一人一人の人権への意識は高くなっていると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|---------------|--------------|----------|
| 1. 非常に高くなっている | 2. やや高くなっている | 3. 変わらない |
| 4. やや低くなっている | 5. 低くなっている | 6. わからない |

問28 あなたは社会の中で、生きづらさを感じている人たちはどのような人たちだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | | | |
|---------------|----------|---------------|------------|
| 1. 女性 | 2. 子供 | 3. 高齢者 | 4. 障がいのある人 |
| 5. 同和問題（部落差別） | 6. 外国人 | 7. 刑を終えて出所した人 | |
| 8. 性的マイノリティの人 | 9. わからない | 10. その他（具体的に： | ） |

《生物多様性について》



14海の豊かさを守ろう

15陸の豊かさを守ろう

関連事業：生物多様性保全事業、ウェルカメクリーン作戦ほか

浜松市では、豊かな自然環境の保全・創造や、生息・生育する多様な動植物の保全に努めています。

問29 あなたは「生物多様性※」についてご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

問30 レジ袋やペットボトルなどのプラスチックが海洋に流出すると、海の生き物が餌と間違えてごみを食べてしまったり、生き物の体に絡まったりして死んでしまうことがあり、生物多様性への影響が懸念されています。

あなたは、海洋プラスチックごみを削減するための取り組みを行っていますか。

(実施しているものすべてに○を付けてください)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1. マイバックの使用、レジ袋の辞退 | 2. マイスプーン、マイフォーク、マイ箸などの使用 |
| 3. マイボトル、マイカップの使用 | 4. 海岸清掃、ごみ拾い |
| 5. プラスチックごみの分別 | 6. 特に取り組んでいない |
| 7. その他（具体的に：_____） | |

《消費生活について》



12つくる責任 つかう責任

関連事業：エシカル消費（フェアトレードなど）の普及・啓発ほか

浜松市では、私たちの消費行動が、現在およびこれからの社会・経済や環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとする「消費者市民社会」の形成に取り組んでいます。

問31 あなたは買い物をするとき、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んでいますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. 常に意識している | 2. たまに意識している | 3. 全く意識していない |
|-------------|--------------|--------------|

問32 問31のことを「エシカル消費」といいますが、あなたはご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

問33 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|----------------------------|
| 1. ある |
| 2. フェアトレードは知っているが、買ったことはない |
| 3. ない |

※フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取り引き」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

問34 浜松市がフェアトレードタウン※であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

※フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレード※の輪を広げていく自治体のことです。

《防災対策について》



11 住み続けられるまちづくりを

13気候変動に具体的な対策を

関連事業：災害に強いまちづくりの推進

浜松市は、地域防災の推進として地域の特徴や災害事象などを考慮し、市民一人一人が、確実に防災情報を入手することができる多様な手段の確保を進めています。また、市民へ防災知識の普及・啓発を図り、市民の自助・地域の共助に対する活動を推進しています。

問35 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたがご存じのものをお選びください。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること
2. 津波・水害のハザードマップの公開
3. 土砂災害危険箇所の周知
4. 住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること
5. 家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること
6. 携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること
7. 橋の耐震対策を行っていること
8. 市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること
9. その他（具体的に： ）
- 10.どれも知らない

問36 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）
4. 携帯電話、スマートフォン、タブレット
5. パソコン

問37 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。

(主なものに1つだけ○を付けてください)

1. スマートフォン
2. スマートフォン以外の携帯電話
3. パソコン・タブレット
4. 携帯ラジオ・テレビ
5. その他（具体的に：
6. 持っていない

《デジタル・スマートシティについて》



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
関連事業：デジタル・スマートシティ推進ほか

浜松市では、令和元年 10 月に「デジタルファースト宣言」を行いました。都市づくり、市民サービス、自治体運営にデータや先端技術を活用し、持続可能な都市づくりを進めています。

問38 あなたは、昨年度に「デジタル・スマートシティ構想」を策定するなど、本市がデジタル・スマートシティ政策を推進していることをご存じですか。

(1 つだけ○を付けてください)

1. 取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている
2. 取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよくわからない
3. 知らない

問39 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。

(3 つまで○を付けてください)

1. 暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる
2. 買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる
3. 対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる
4. 仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる
5. 産業や観光の国内外への情報発信が広がって市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる
6. 中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる
7. コロナ禍でのオンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる
8. 個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある
9. デジタル化が進むことについていけない
10. デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる
11. 人と人との対面での直接的な交流が少なくなる
12. 大都市圏の I T 企業に資本が集中する
13. その他（具体的に： _____)

問40 あなたは、利便性や生産性を向上するため、どのような分野に先端技術を活用すべきだとお考えですか。

(3 つまで○を付けてください)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 健康・医療・福祉 | 2. 防災・安全 |
| 3. 教育・子育て | 4. 交通 |
| 5. 観光・商業 | 6. エネルギー・環境・ごみ |
| 7. 農林業 | 8. 産業（ものづくり） |
| 9. 文化・スポーツ・生涯学習 | 10. 労働（就職・転職） |
| 11. 移住・定住 | 12. 市役所の各種手続き |
| 13. その他（具体的に： _____) | |

(3つまで○を付けてください)

- ※オンライン申請とは、インターネットを利用して、申請・届出などの行政手続をいつでも、どこからでも実現できるようにするものです

浜松市では、「若者がチャレンジできるまち」「子育て世代を全力で応援するまち」「持続可能で創造性あふれるまち」の3つの基本目標を掲げ、達成に向けて取り組みを進めています。そこで、市民の皆さまの市政に関する現状認識を伺います。

項 目		選択肢				
		思 う	←————→			思 わ な い
若者が まちで 活躍 でき る	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	5	4	3	2	1
	仕事と生活の調和※が取れていると思いますか。 ※仕事と家事・育児・介護などと両立すること	5	4	3	2	1
子育て を全力 で支 援す るま ち	子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
持続 可能 で創 造性 あ い る ま ち	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	5	4	3	2	1
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思 いますか。	5	4	3	2	1
	誰もが創造性を発揮した活動※を行うことができる環 境が整っていると思いますか。 ※固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの 魅力を生み出していく活動	5	4	3	2	1
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5	4	3	2	1
	必要な行政情報※が提供されていると思いますか。 ※各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報	5	4	3	2	1
	環境に配慮※した生活を送っていると思いますか。 ※ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など	5	4	3	2	1

最後にあなたのことについて記入してください。

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	3. 選べない
年齢	1. 10 歳代 4. 40 歳代 7. 65～69 歳	2. 20 歳代 5. 50 歳代 8. 70～74 歳	3. 30 歳代 6. 60～64 歳 9. 75 歳以上
国籍	1. 日本 4. フィリピン	2. ブラジル 5. その他 ()	3. 中国
職業	1. 勤め人 2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者) 3. 農林水産業(自営・家族従事者) 4. 専業主婦(主夫) 5. 学生 6. 無職 7. その他 ()		
居住年数	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含みます)に住んで何年になりますか 1. 3年未満 2. 3年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上20年未満 5. 20年以上		
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上		
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家(一戸建て) 2. 持ち家(集合住宅) 3. 借家 4. 賃貸アパート・賃貸マンション 5. 公営住宅 6. 社宅・寮 7. その他		
行政区	あなたがお住まいの行政区は 1. 中区 2. 東区 3. 西区 4. 南区 5. 北区 6. 浜北区 7. 天竜区 行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、8月20日(金)までにご投函ください。



令和3年度 市民アンケート調査 報告書

令和3年12月発行

発 行	浜松市 企画調整部 広聴広報課
住 所	〒430-8652 浜松市中区元城町103番地の2
電 話	053-457-2023
F A X	053-457-2028
U R L	https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp